

令和6年高知県地域医療構想

令和6年度 高知県地域医療提供体制検討委託業務 高知市サブ区域分析

2025年3月28日

日本経営グループ

1.高知県全体の把握.....3

- ・ 全区域における医療機能の現状と課題
- ・ 4医療区域の詳細な課題
- ・ サブ区域を含む各医療区域の医療環境と課題
- ・ 将来人口の推計：高知県全体
- ・ サブ区域を含む各医療区域の人口、病床数、将来推計
- ・ 生産年齢人口と65歳以上人口の将来推計の比較：働き手とその負担
- ・ 入院患者数（全体）の推計：高知県全体
- ・ サブ区域を含む各医療区域の入院患者数（全体）
- ・ 入院患者数（DPC）の推計：高知県全体
- ・ サブ区域を含む各医療区域の入院患者数（DPC）の推計
- ・ 各医療区域の常勤医師の年代別分布
- ・ 各医療区域の常勤看護師（准看護師含む）の年代別分布
- ・ 高知県の地域医療構想：高知県全体
- ・ 高知県の地域医療構想：中央区域
- ・ 救急搬送件数：高知県全体①②（2023年）
- ・ 救急搬送件数の経年変化（サブ区域を含む区分）
- ・ 搬送時間からみる救急体制の経年変化（サブ区域を含む区分）

2.高知市サブ区域の把握.....24

- ・ 将来人口の推計
- ・ 入院患者数（全体）の推計
- ・ 患者数（DPC医療需要）の推計（※スライド訂正あり）
- ・ 地域医療構想の状況：医療機関別病床数の比較
- ・ 救急体制の現状（2023）
- ・ 各消防署における救急搬送の発生件数と年次推移
- ・ 高知市サブ区域で発生した救急患者の搬送先内訳
- ・ 自区域と他区域への救急搬送の診療科内訳
- ・ 患者が医療機関を指定した搬送数の推移
- ・ 各区域の救急搬送の発生件数と全体に占める割合
- ・ 高知市サブ区域で発生した救急搬送の区域別搬送先の割合とその詳細

3.入院レセプトと手術の完結率.....36

- ・ 各区域の入院レセプト数からみた完結率と他区域の流入と流出
- ・ 各区域の入院レセプト数からみた完結率：中央区域（約98%）
- ・ 各区域の傷病別レセプトからみた完結率：高知市サブ区域（約89%）
- ・ 全レセプト数の内訳と高知市サブ区域が占める割合（入院5年間分）
- ・ 高知市サブ区域を居住地とする患者の「その他（約66%）」の入院レセプト内訳
- ・ 5大疾病：がん・脳血管疾患・心疾患全体・精神疾患・糖尿病
- ・ 高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数とその割合（5年間分）
- ・ 各区域の傷病別レセプトからみた手術完結率（約87%）
- ・ 各手術件数と高知市サブ区域の完結率
①(0-70%) ②(71-87%) ③(87-94%)
- ・ 各入院基本料の流出状況
- ・ 各入院基本料の医療施設別件数
①総数 ②DPC ③急性期一般 ④回復期リハビリ ⑤地域包括ケア

4.各区域の医療提供体制.....59

- ・ 各区域におけるスタッフ数：高知市サブ区域
- ・ 医師（常勤）の年代別人数の割合
- ・ 看護師（常勤）の年代別人数の割合
- ・ リハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の総数

5.経営指標の経年変化.....65

- ・ 退院患者数とMDC別患者数の推移
- ・ 各医療施設の経営指標の概要

※スライド訂正のお知らせについて

セミナー動画本編に使用された図表におきまして、誤りが判明したため、資料を差し替えております。

「2.高知市サブ区域の把握」_「患者数（DPC医療需要）の推計」（28頁）の「図表21」「図表22」を差し替えております。本編スライドにおいても注釈を入れております。申し訳ございませんが、ご了承をお願いいたします。

はじめに：データの出所について

【分析システム】

掲載されている主な図表は弊社独自の分析システム（Libra：リブラ）で作成しております。

【データの出典】

厚生労働省「患者調査」

厚生労働省「病床機能報告（2017-2023）」

厚生労働省「第6回NDBオープンデータ」

厚生労働省「DPC退院患者調査（2017-2022）」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年度推計）」

総務省「人口推計」

地方厚生局「施設基準（2024）」

【分析結果の限界】

- ・ 10未満の数値が公表されないことがあるため、本来の実績と比較した場合に差が生じることがあります。
- ・ 明らかに間違いであると断定できる数値がある場合、その数値を除外しています。
- ・ DPCデータは、DPC症例のみに対応した病棟の統計資料であるため、診療内容の実態を正しく抽出できないことがあります。
（例：地域包括ケア病棟で急患を受けている場合など）

上記の特性により、実態を正確に反映できないことがあることをご了承ください。

1.高知県全体の把握



1.高知県全体の把握 サマリ

【高知県全体における現状】

- ・ 高知県の医療施設は高知市に集中しており、病床数と医療機能の全てにおいて集中している(5頁)
- ・ 高知市から距離が離れるほど、医療施設数は少なくなり、病床機能も小さくなっている (5頁)
- ・ 高知市の人口は高知県の全人口の約45%を占めている (7頁)

【患者需要】

- ・ 人口減少は**患者数**だけではなく、**医療従事者数の減少**も示唆している (8頁)
- ・ 高知県全体の患者数は**2025年頃から減少し始める**が、特に大きく減少するのは**2030年から2035年頃**となる(11頁)
- ・ 定量基準によると、急性期病床のうち、**重症度が回復期相当の病床数が約800床以上**ある(17頁)
- ・ 定量基準で算出した病床数は、2013年に推計された2025年必要病床数とは異なる (17.18頁)

【救急搬送】

- ・ 全体の出動件数は**約46,000件/年**である。(19頁)
- ・ 全体のうち、**中央区域が占める割合は約8割**であり、**高知市が占める割合は6割以上**となっている(19.20頁)
- ・ **3次救急の3施設**の搬送件数は、**高知県の40%以上を占め**、中央区域においては、50%以上を占めている(20頁)
- ・ 件数の推移は、コロナ前の最高件数を上回り、**量的負担は増加**している(21頁)
- ・ 搬送件数からの量的負担を搬送時間を用いて評価すると、**搬送時間は増加傾向**を示している(22頁)

【高知県全域における現状と課題】

- ・ 患者の急激な減少を2030年頃と仮定した場合、医療体制を再構築するタイムリミットは**後5年間**である。
- ・ 患者需要に対する供給体制の協議は、**重症度の定量調査による精査を必要**とする。
- ・ 救急の搬送件数の増加に対しては、**各医療区域で対応できる症例を見極めて、対応していく必要がある。**

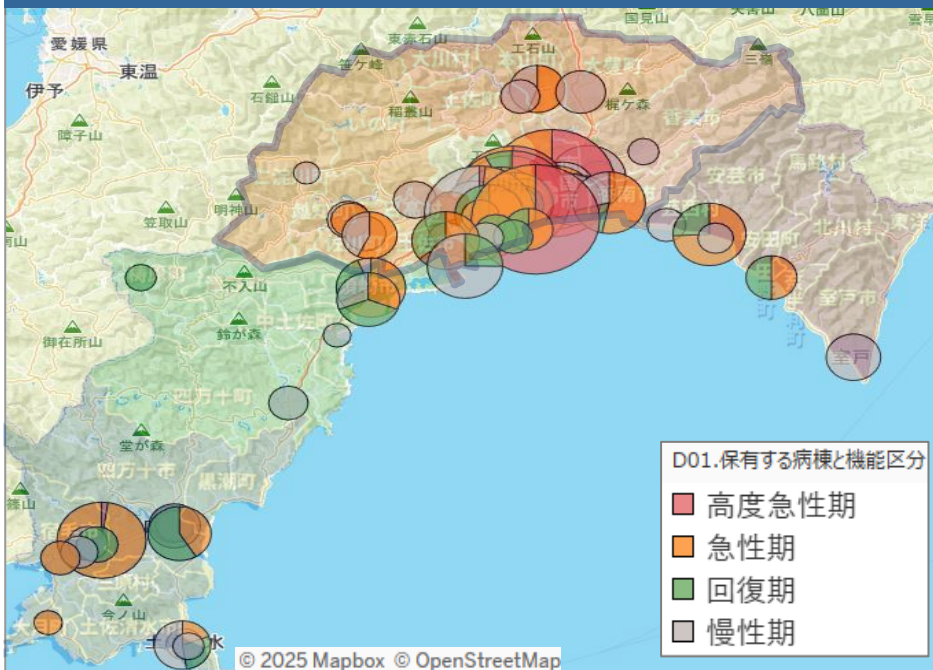
全区域における医療機能の現状と課題

図表 1 は、医療施設の分布を示しており、高知県は中央区域(特に高知市)に**高度急性期(赤色)**、**急性期(橙色)**、**回復期(緑色)**、**慢性期(灰色)**の全機能が集中しており、特に、**高度急性期**はそのほとんどを占めている。図表 2 によると、**室戸市(安芸区域)**、**幡多区域**など、**高度急性期治療**のアクセスに長時間を要するエリアがあることから、発症から治療までの時間が救命率、長期予後を左右する緊急患者に対応できないエリアが散在していることがわかる。

【提言】

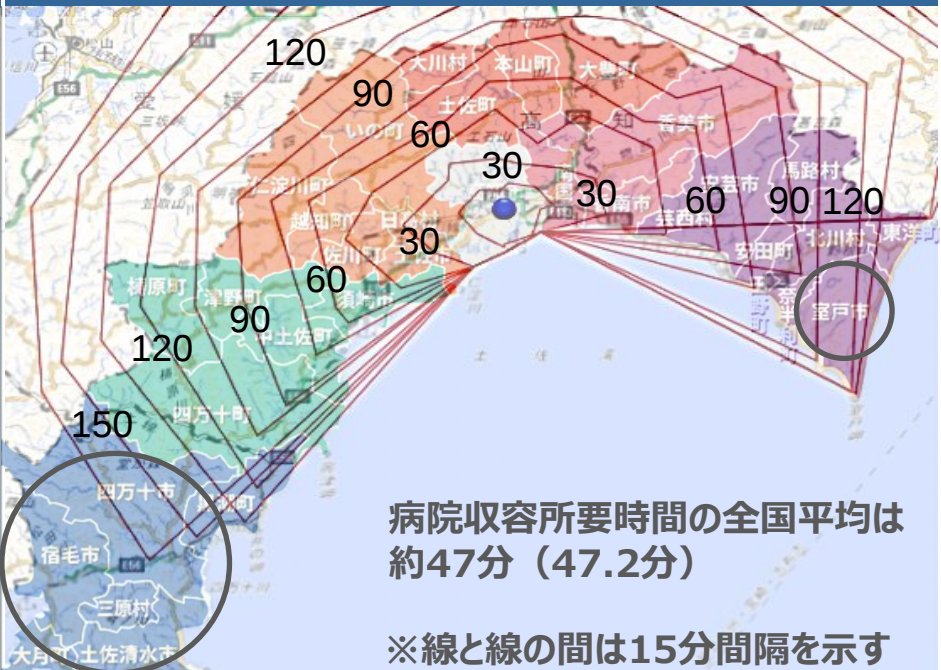
- 1. 救急搬送が長時間となるエリアに対して、各区域内に救急(1次、2次)の拠点と役割を再設計。
- 2. 救急患者が自区域の医療施設を中継できず(せず)、高知市に搬送される原因の調査。
- 3. 中央区域で治療後、中央区域に留まり自区域の医療施設に帰還できていない患者、または、**回復期**が不足しているため患者を受け取れない医療体制に対して、各区域内の回復期病床の充実と、区域外施設との連携体制の整備。

図表1 医療施設の分布 (円の大きさは病床数の規模)



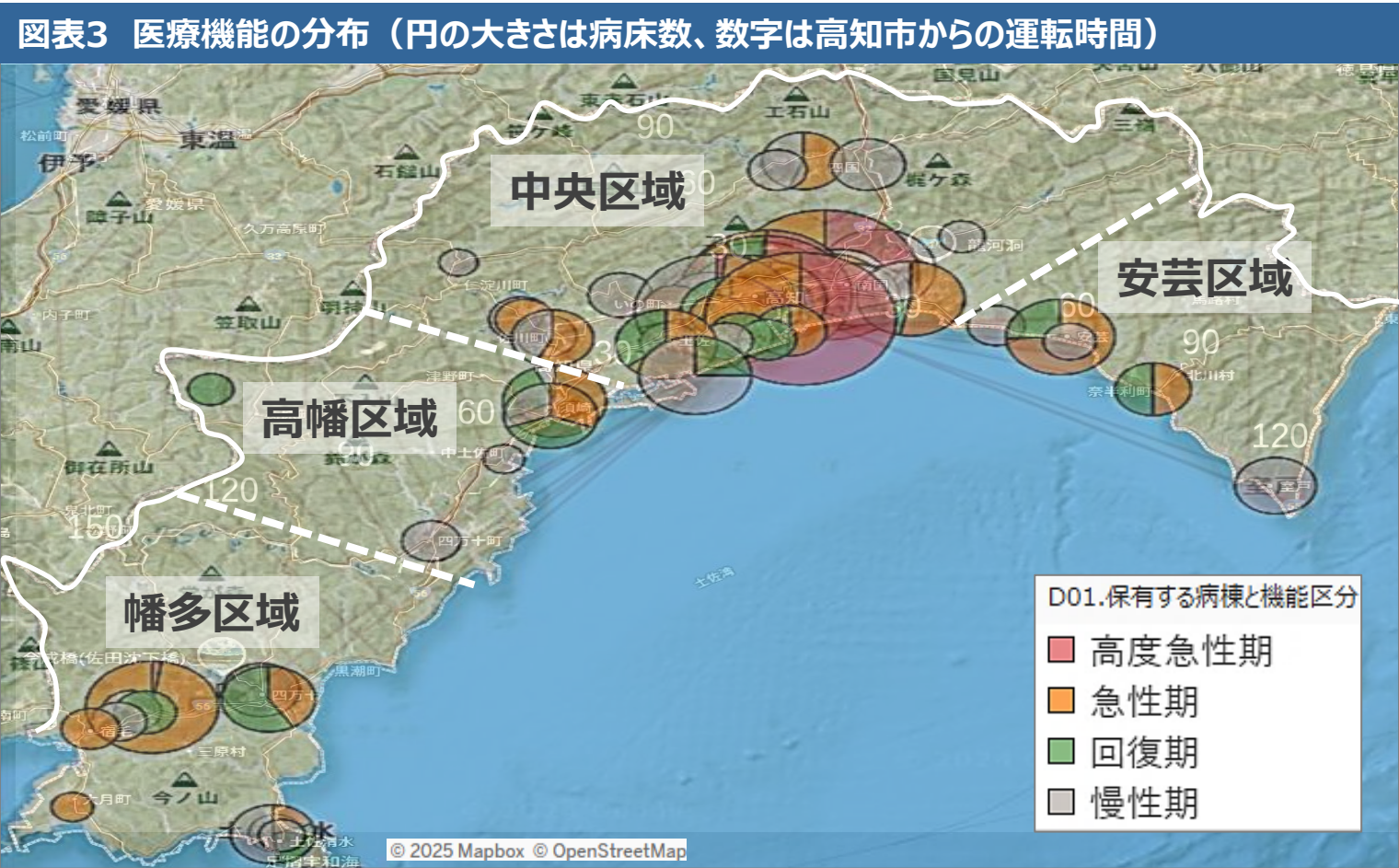
病床機能報告 (2023) (運転時間は法定速度を用いた)

図表2 近森病院 (高度急性期) までの運転時間(分)



4医療区域の詳細な課題

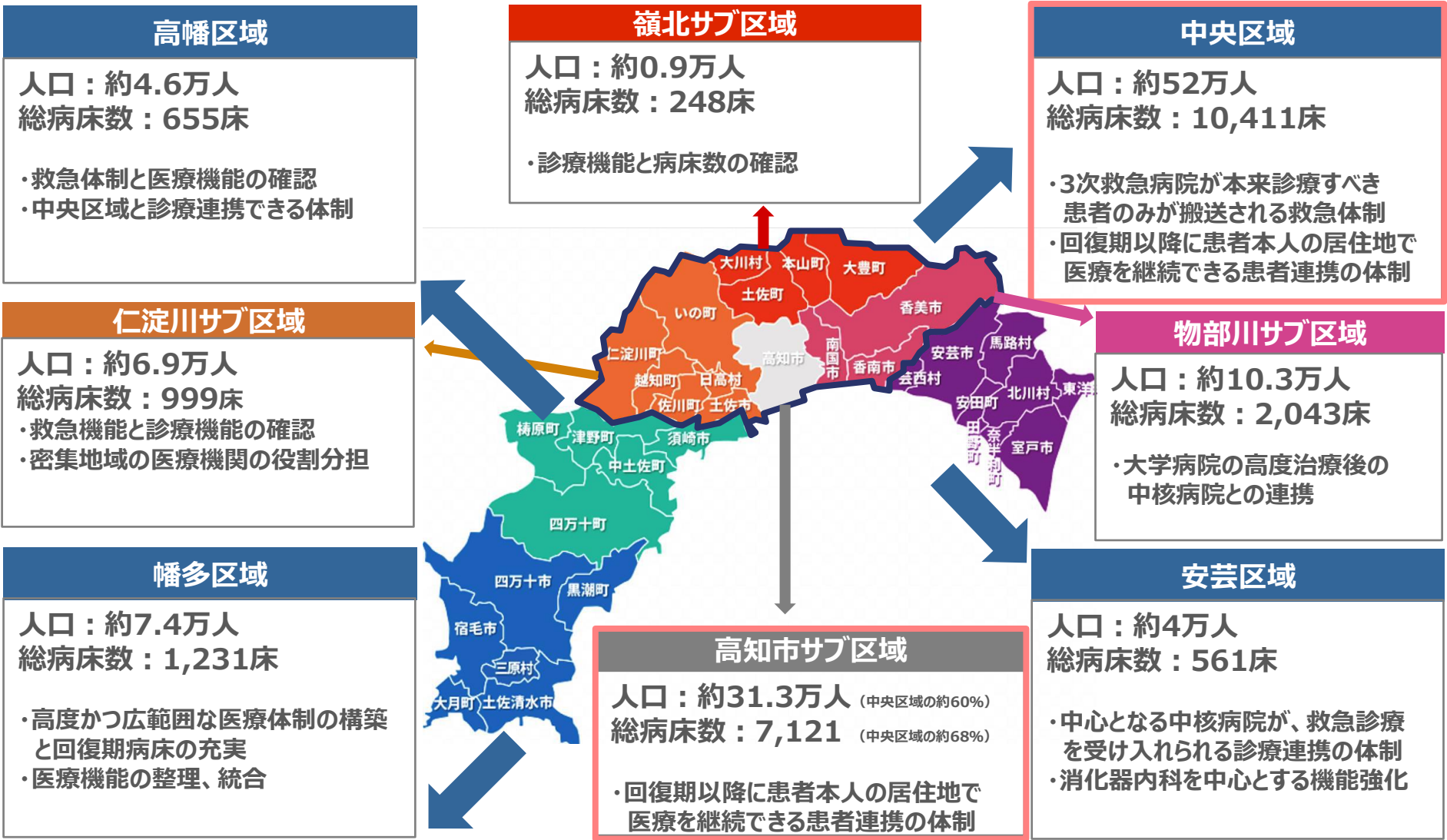
高度急性期、3次救急機能は中央区域(高知市)が機能しており、現時点で変更の必要はない。しかし、搬送時間の観点から、幡多区域は高度かつ広範囲な症例に対応する医療機能が独自に必要となり、さらに回復期の充実を加え、在宅医療までの診療を自区域で完結する体制を目指すことを検討する必要がある。**中央区域以外は、回復期病床の充実**を課題として取り組むことで、在宅医療まで継ぎ目のない診療体制を構築する基礎となりうる。具体的には機能分化により、回復期病床を増床させることを第一事項として、救急と共に取り組む必要がある。



1.高知県全体の把握

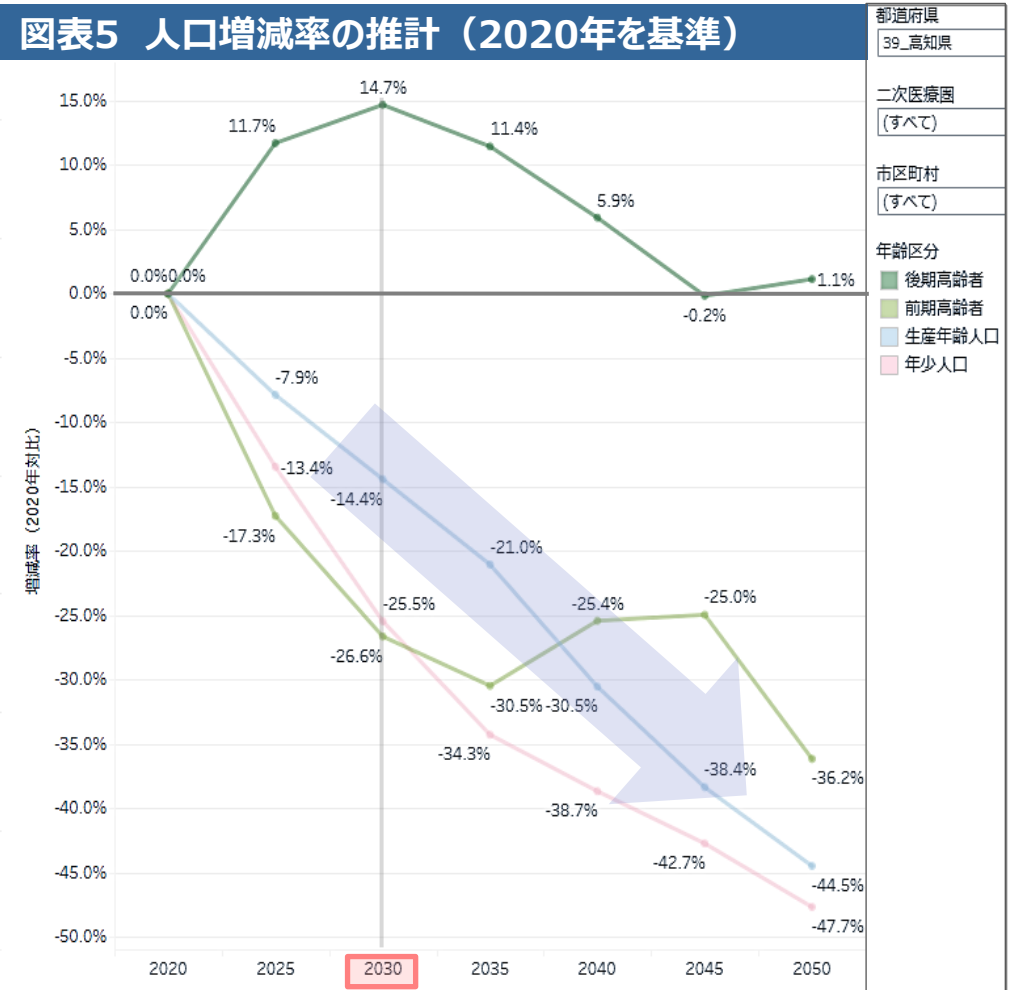
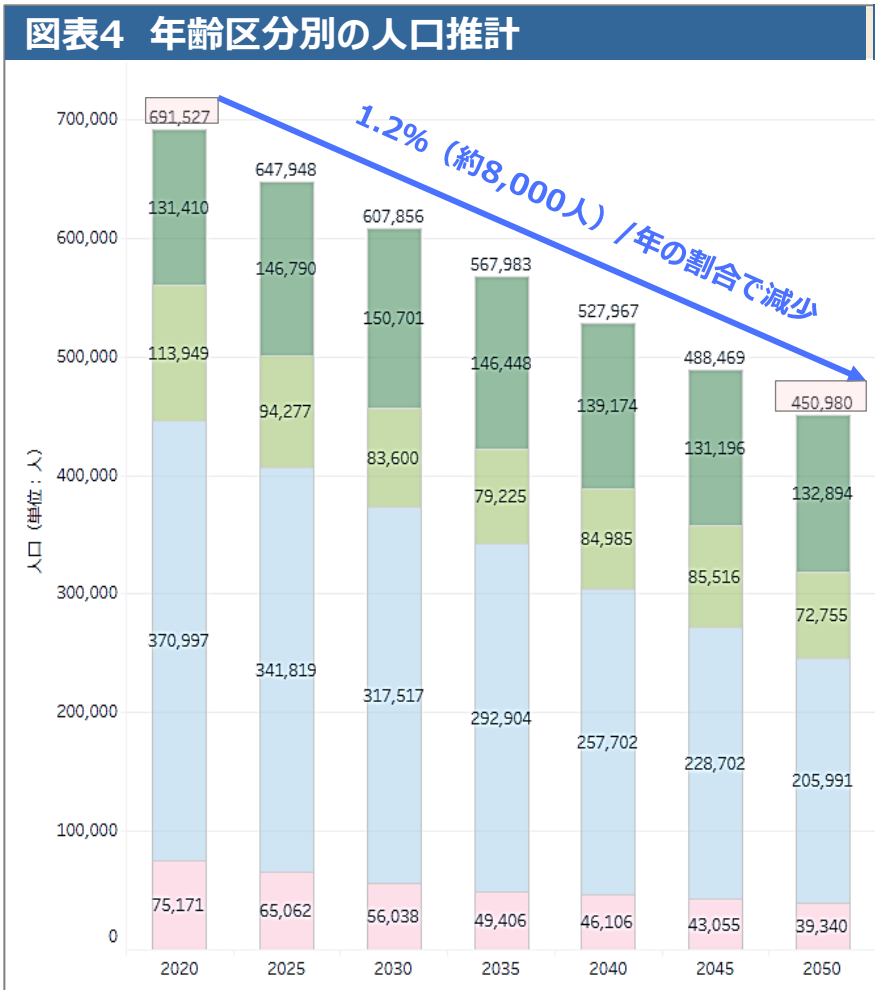
サブ区域を含む各医療区域の医療環境と課題

課題は、救急体制(中央区域は重症診療、その他の区域は救急のファーストタッチができる診療体制)と、回復期診療を患者自らの居住地で継続できる体制の構築、そして、それを起点として在宅医療の充実を目指す体制である。



将来人口の推計：高知県全体

図表4によると、高知県全体の人口は今後、さらなる減少が見込まれる。**2020年を基準**として**2050年頃には30年間で35%減少**する予測であり、**年率約1%**（1.2%:約8,000人/年）の割合で減少する予測となる。図表5によると、**後期高齢者のみが2030年をピーク**として増加し、その後減少することが予想される。その一方、**75歳未満の全ての年齢別人口は減少**し続ける傾向となる。人口減少は**患者数だけでなく、医療従事者数も減少**することを考慮する。

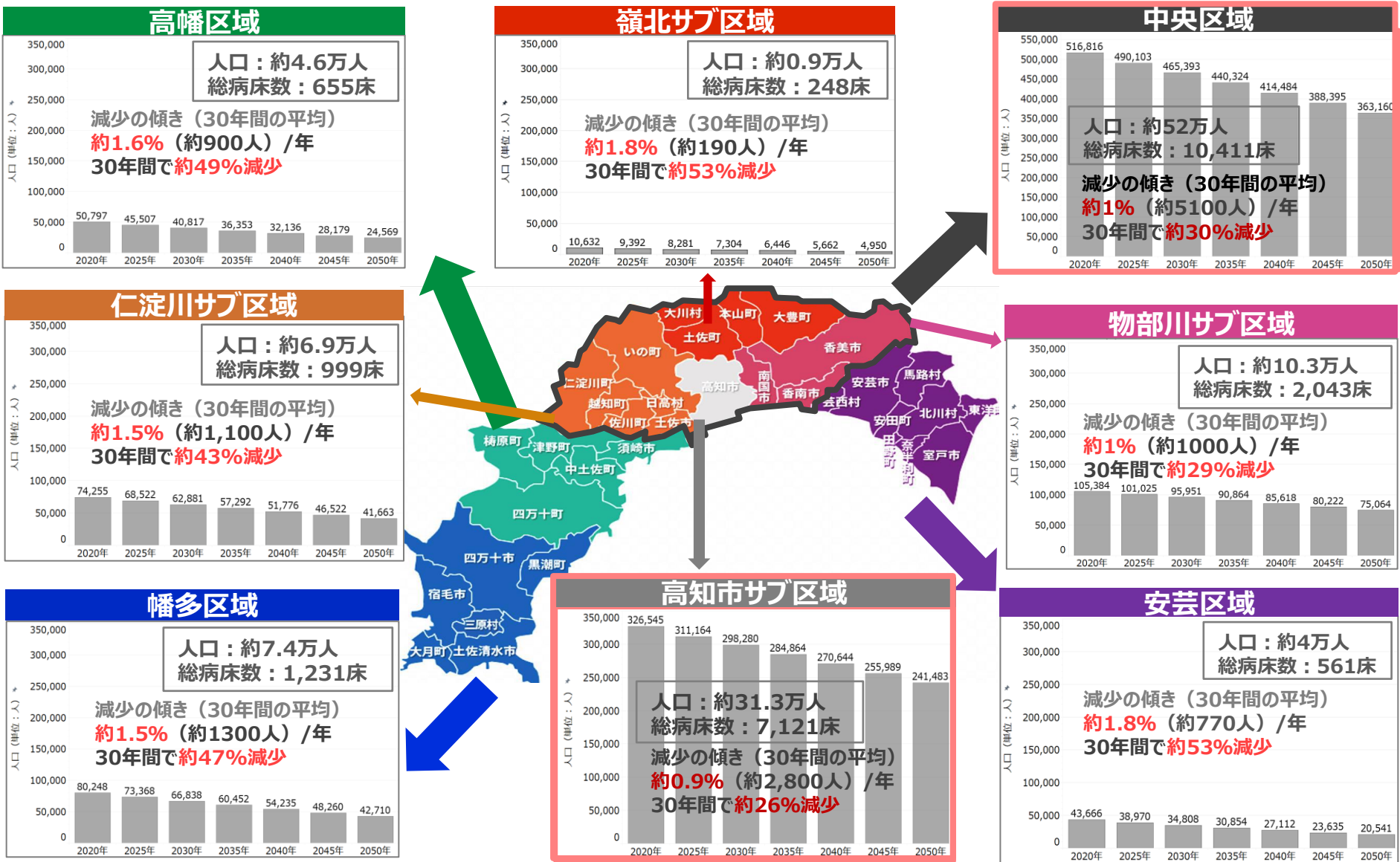


出典：『日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）』（国立社会保障・人口問題研究所）

1.高知県全体の把握

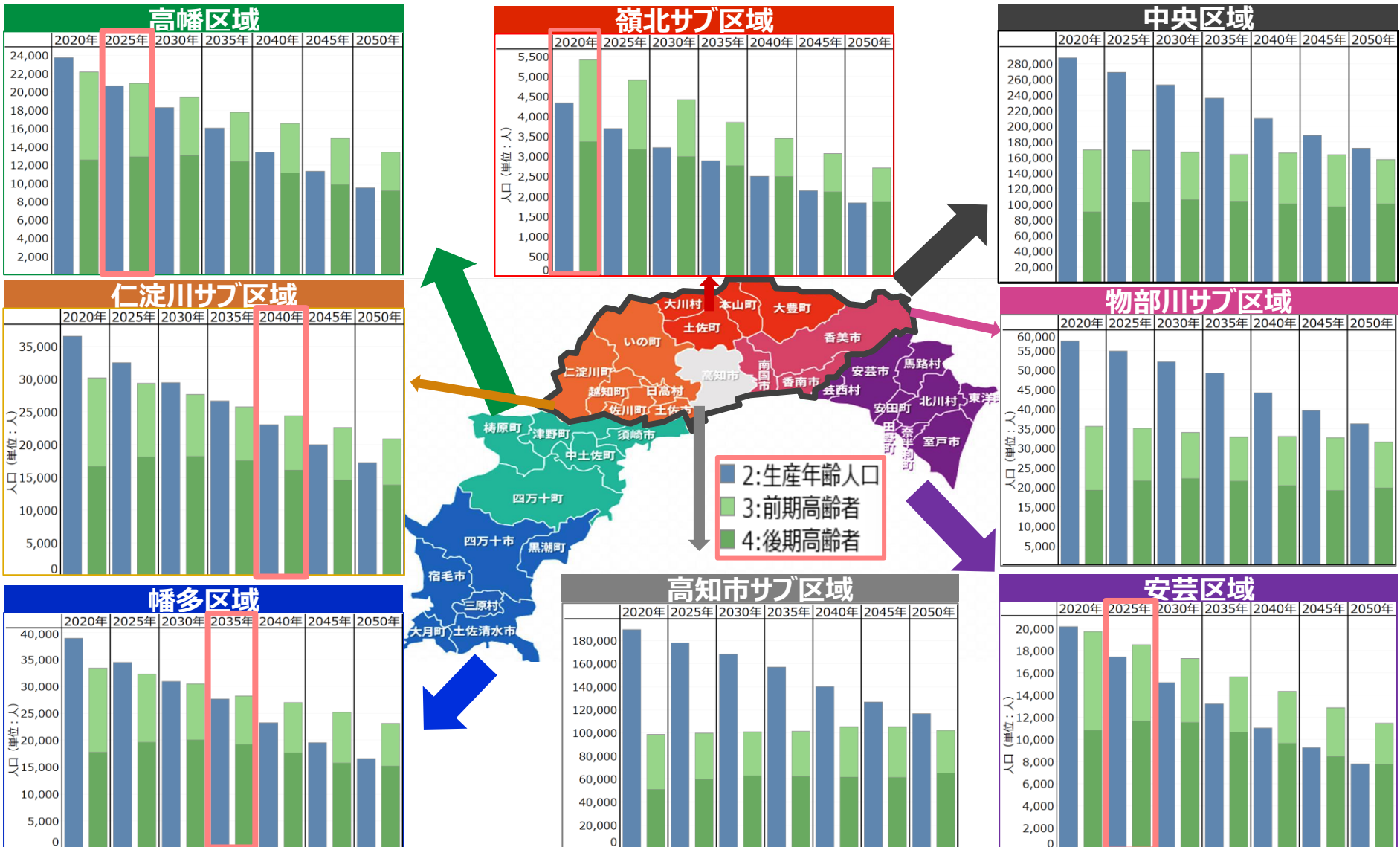
サブ区域を含む各医療区域の人口、病床数、将来推計

各区域の人口は著しい差を認める。また、人口減少の傾きにおいても、高知市と比較して最大で約 2 倍の差を認める。



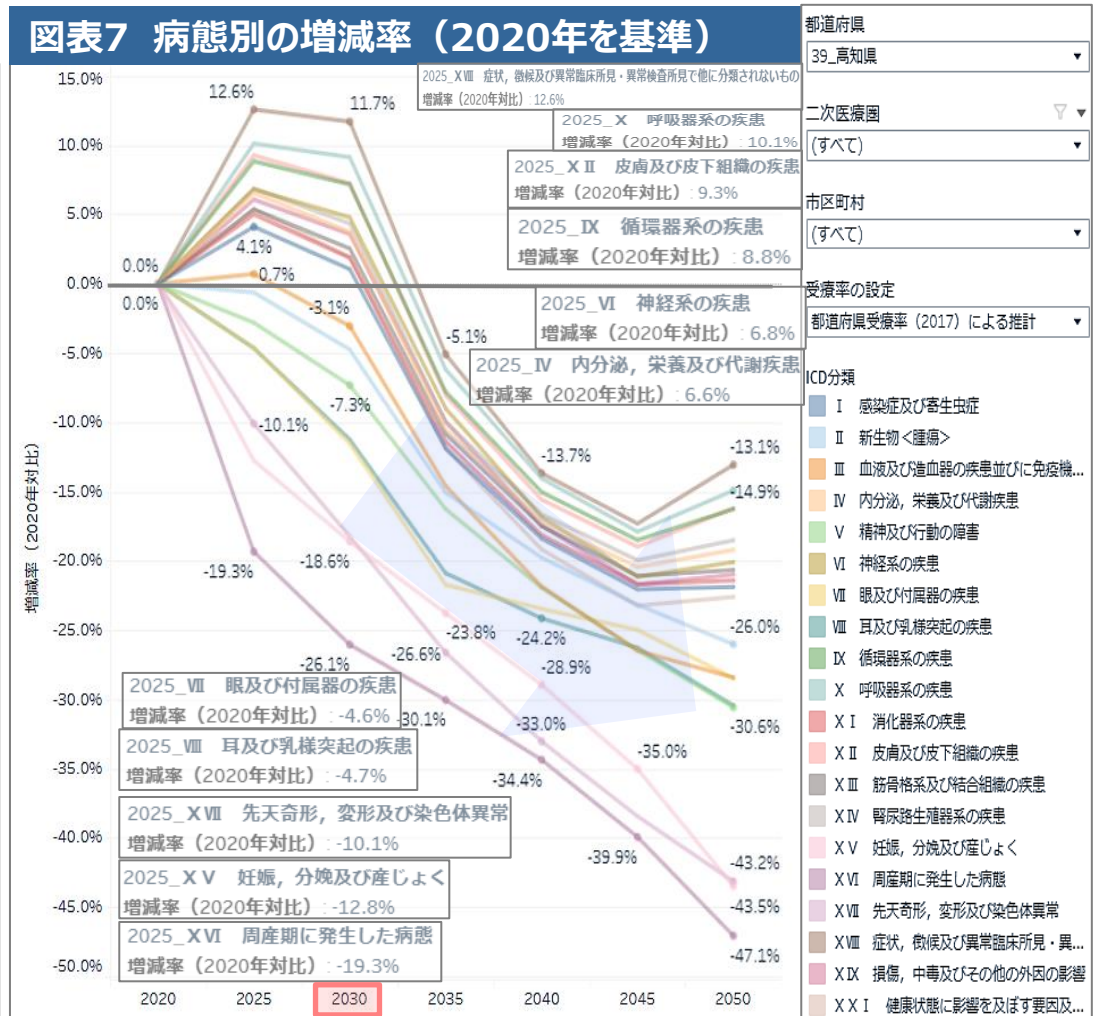
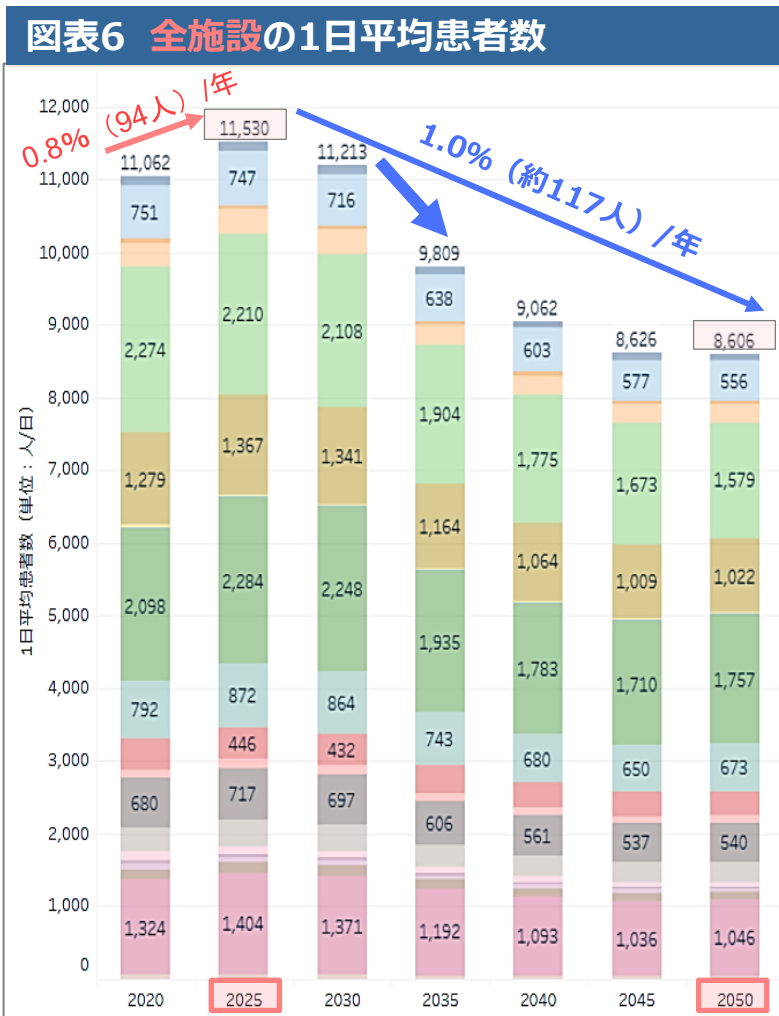
生産年齢人口と65歳以上人口の将来推計の比較：働き手とその負担

65歳以上人口が生産年齢人口を上回る時期（赤枠）は各区域によって異なるが、その観点から医療体制の再構築の優先順位を考えた場合、優先順位が高い区域は、**嶺北サブ区域、安芸・高幡区域、幡多区域、仁淀川サブ区域**と考えられる。



入院患者数（全体）の推計：高知県全体

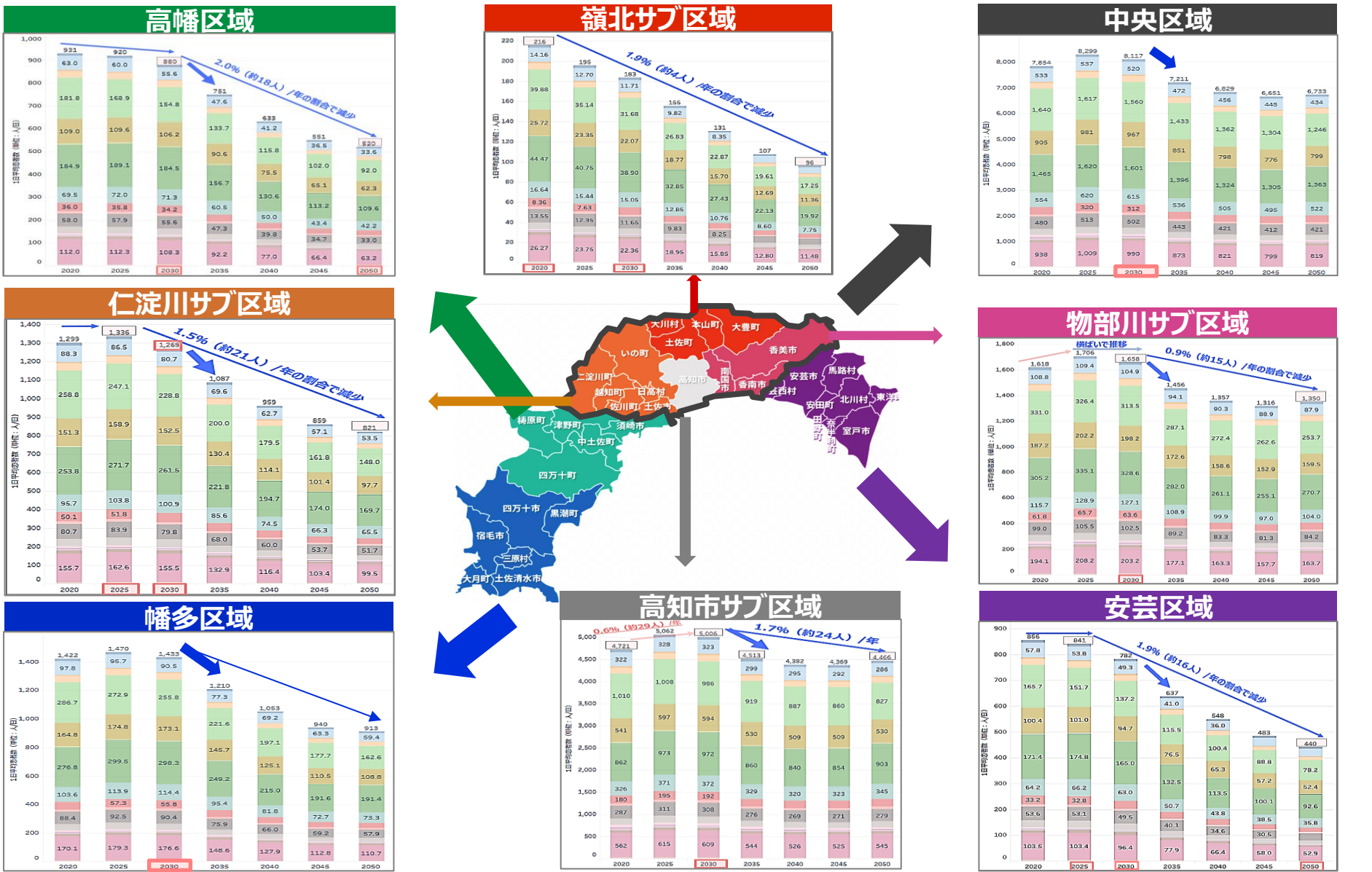
図表6より、全体の医療施設における1日平均患者数は、**2025年まで増加し、それ以降は減少**が見込まれる。**2025年を基準**として**2050年頃までの25年間で約25%減少**する予測となる。これは、**年率1%**（約117人/年）の割合で減少することを意味する。図表7によると、**2020年を基準**として循環器、呼吸器疾患などは**2030年まで増加**するが、**2030年以降は、ほとんどの疾患で減少傾向を示す**。



1.高知県全体の把握

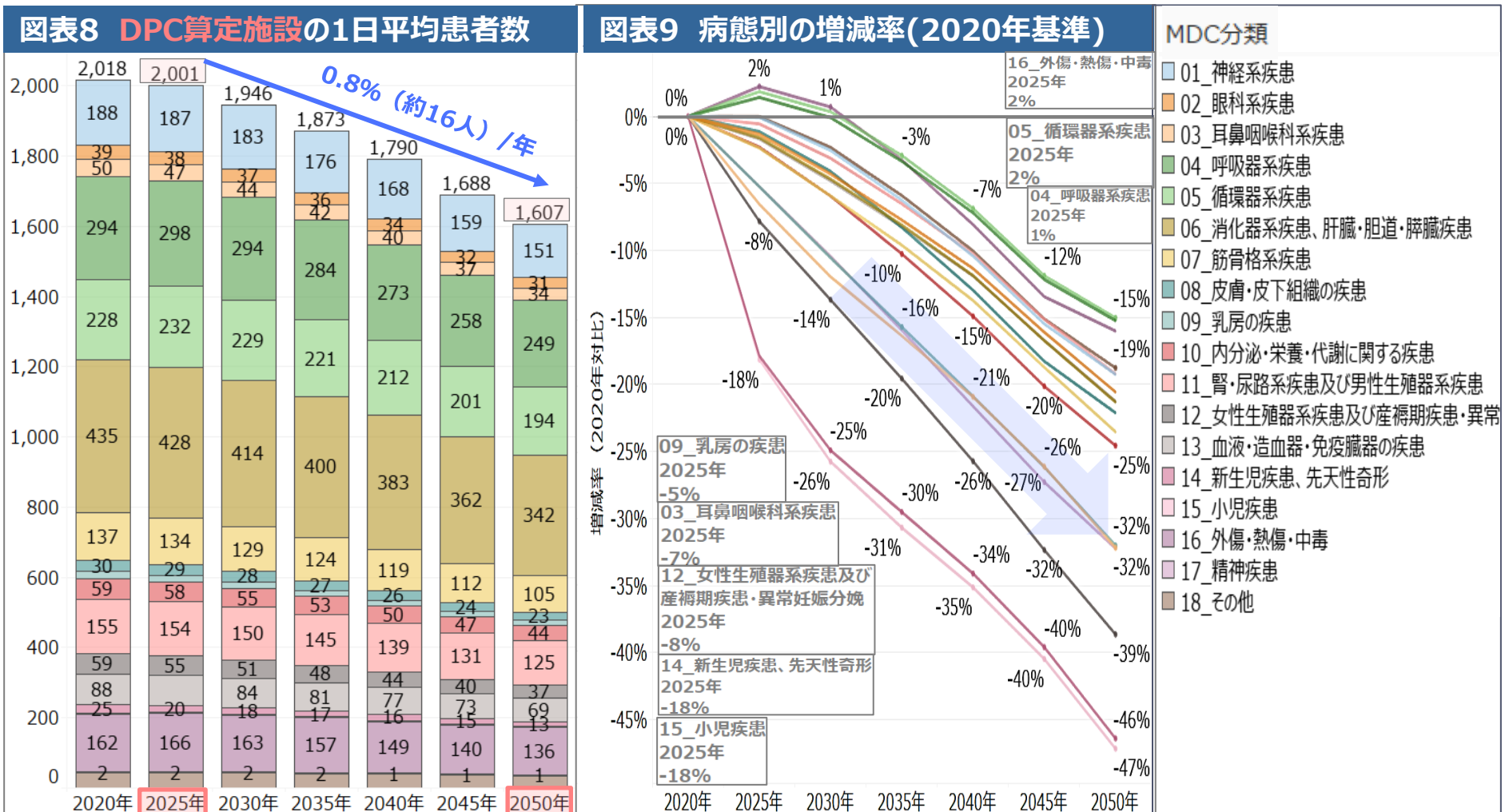
サブ区域を含む各医療区域の入院患者数（全体）

各区域において、患者数が大きく減少する時期は異なるが、2030年頃に大きな変化が集中していることがわかる。



入院患者数（DPC）の推計：高知県全体

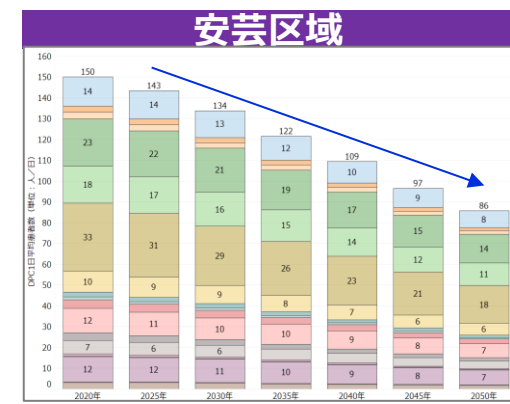
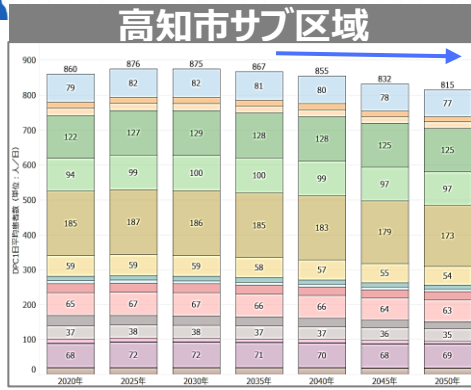
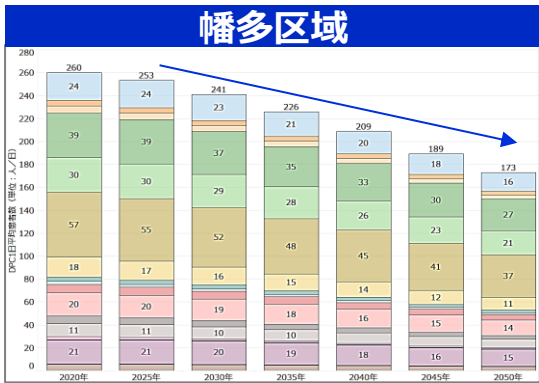
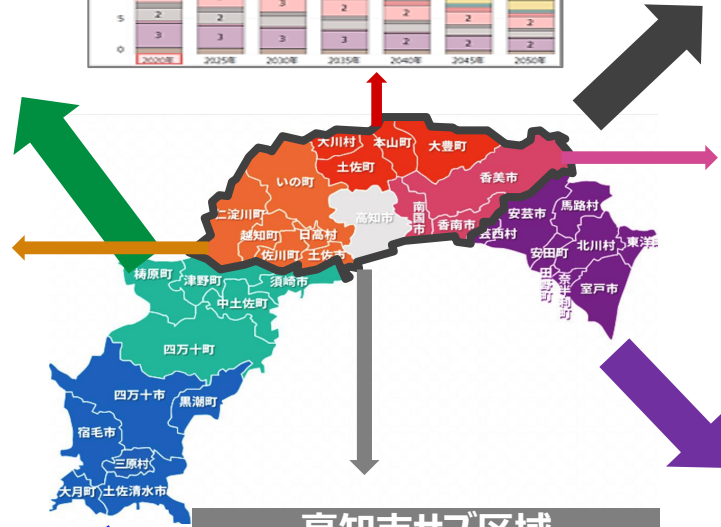
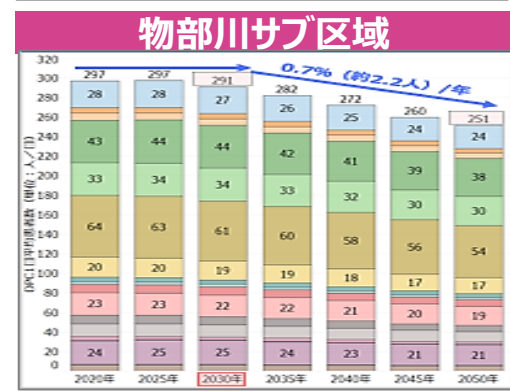
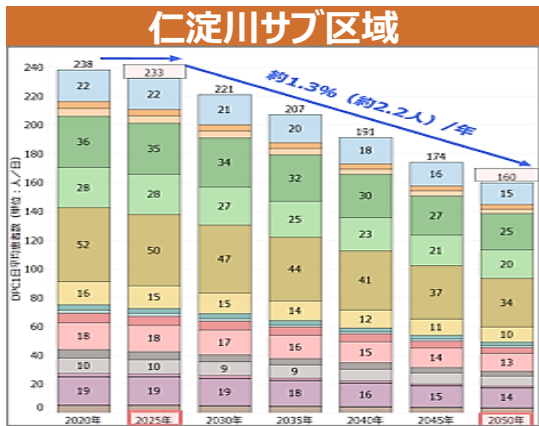
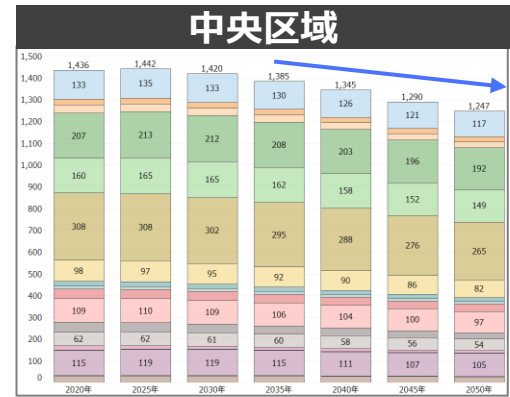
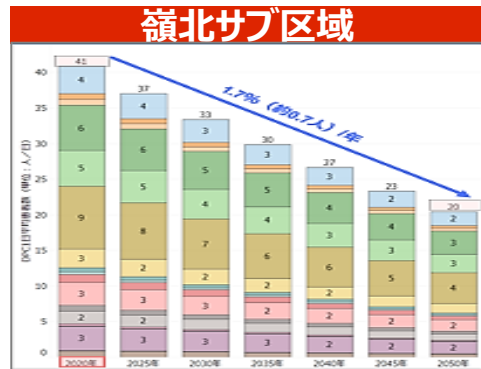
図表8より、DPCを算定する医療施設における1日平均患者数は、**2020年から2025年まで横ばいで推移し、それ以降は減少**が見込まれ、**2025年を基準**として、**2050年頃までの25年間で約20%減少**する予測となる。これは、**年率約1%**（0.8%：約16人/年）の割合で減少することを意味する。図表9によると、**2020年を基準**として、外傷、循環器、呼吸器疾患は**2030年まで微増**するが、それ以降、**ほとんどの疾患で減少し続けることが予測**されている。



1.高知県全体の把握

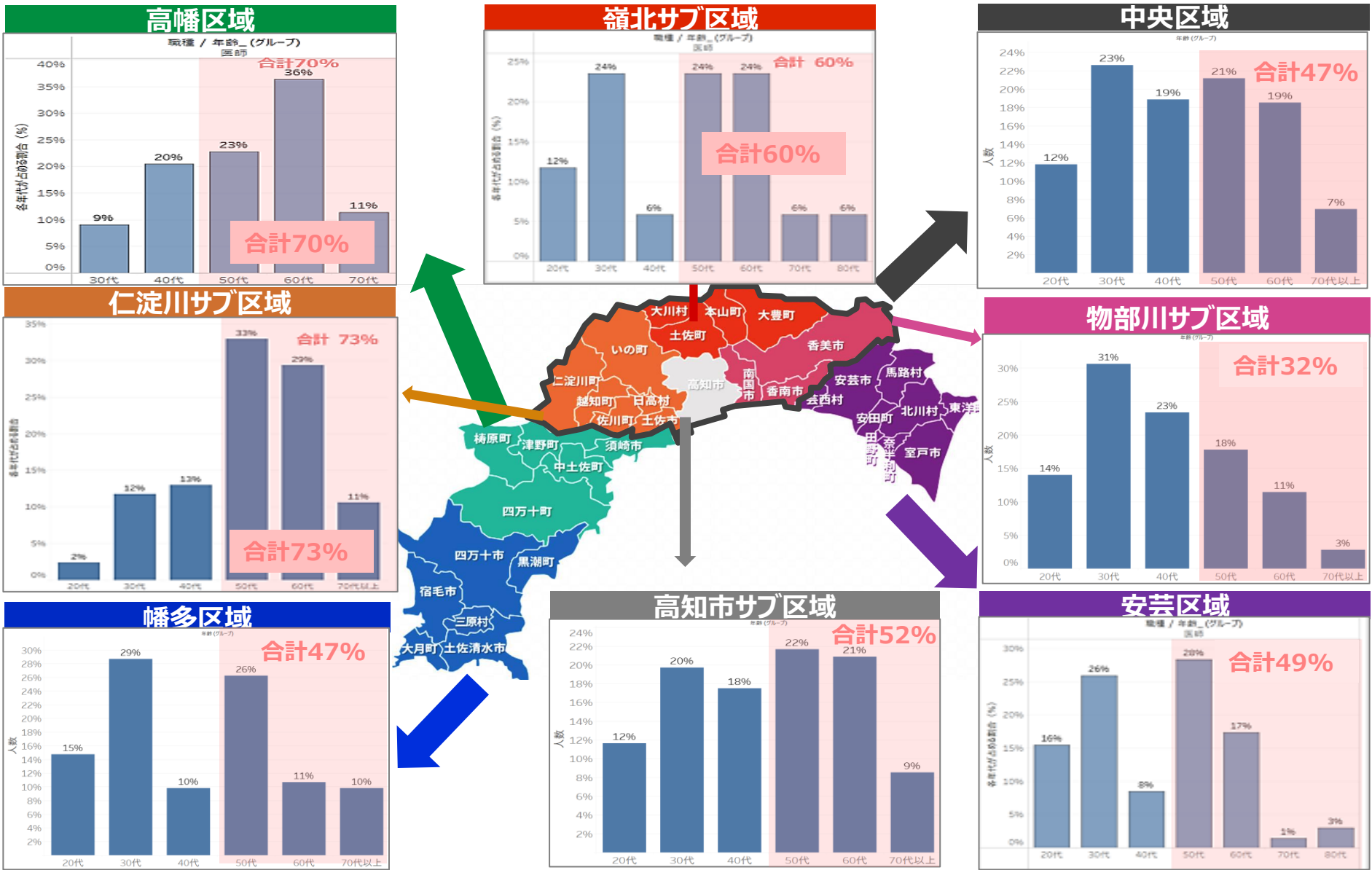
サブ区域を含む各医療区域の入院患者数（DPC）の推計

各区域において、患者数が大きく減少する時期は異なるが、既にその減少の最中にある区域が多いことがわかる。



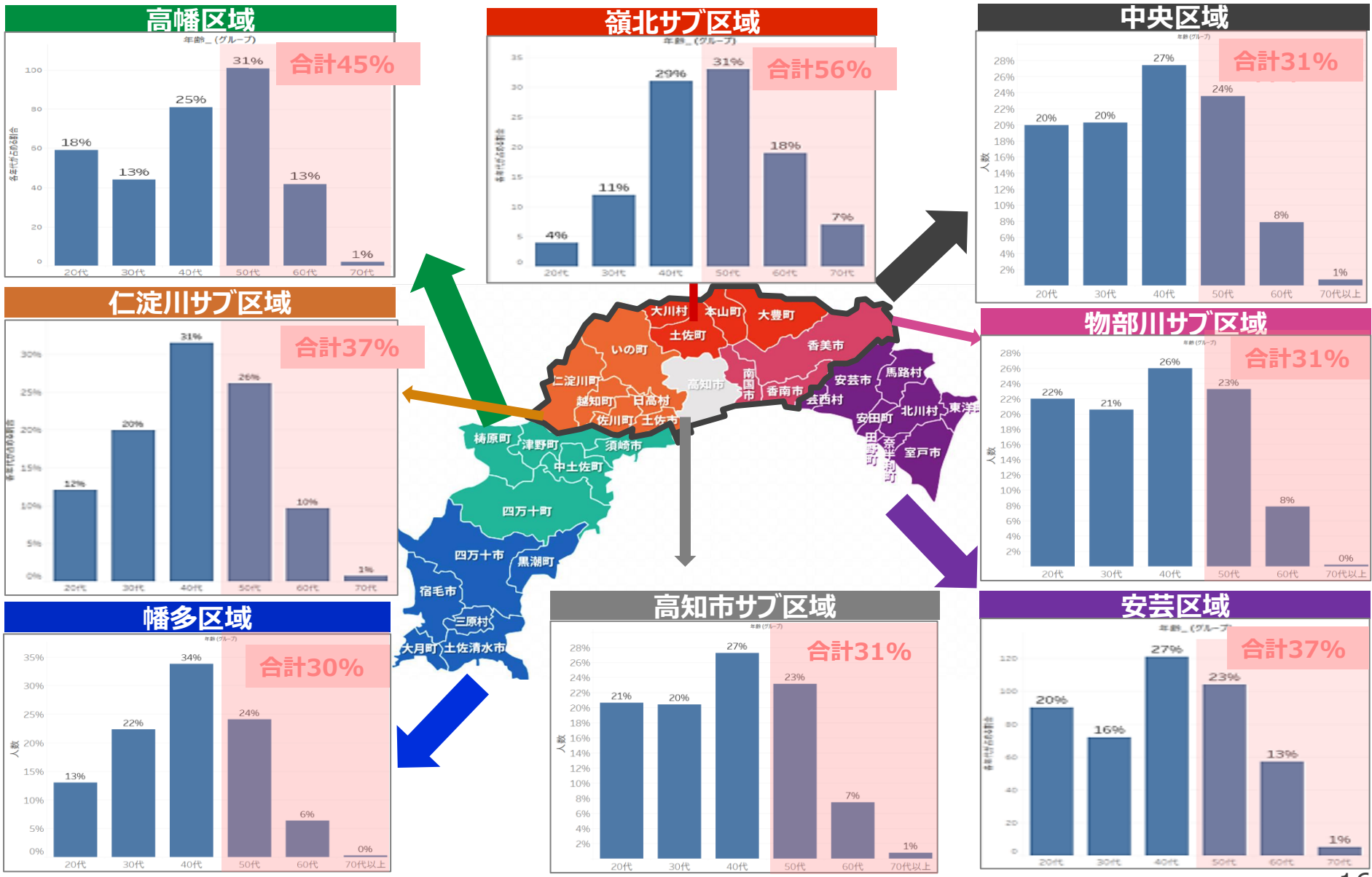
各区域の常勤医師の年代別分布

各区域において、50代以上と50代未満の年代を比較した場合、地域差が大きくなっていることがわかる。



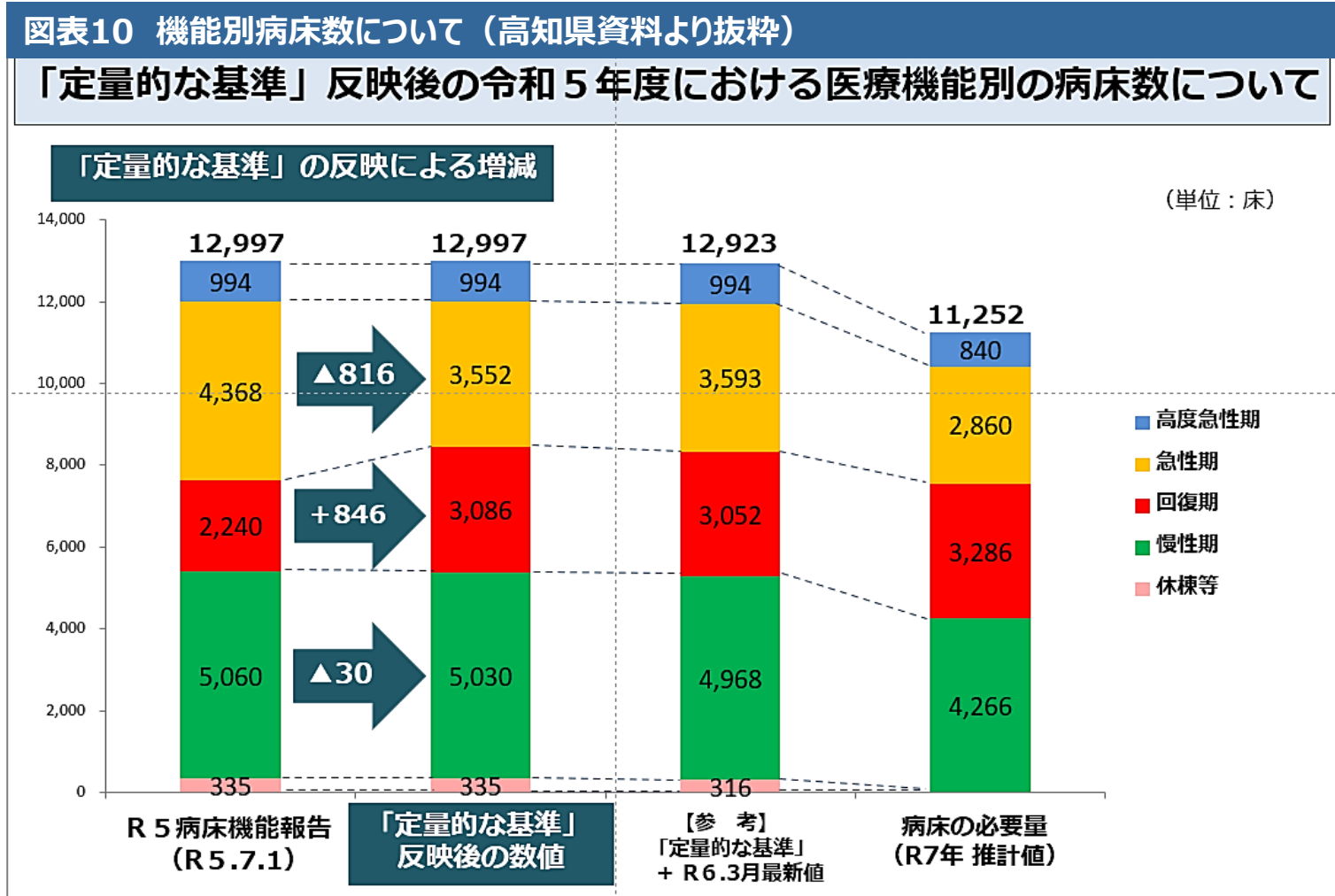
各区域の常勤看護師（准看護師含む）の年代別分布

各区域において、50代以上と50代未満の年代を比較すると、地域差が大きくなっていることがわかる。



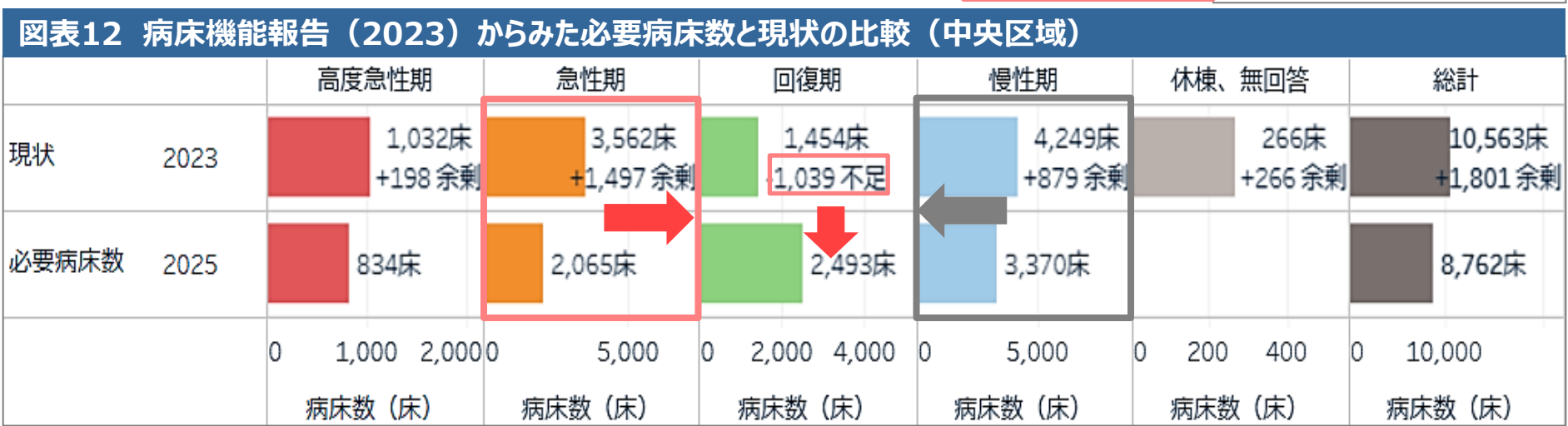
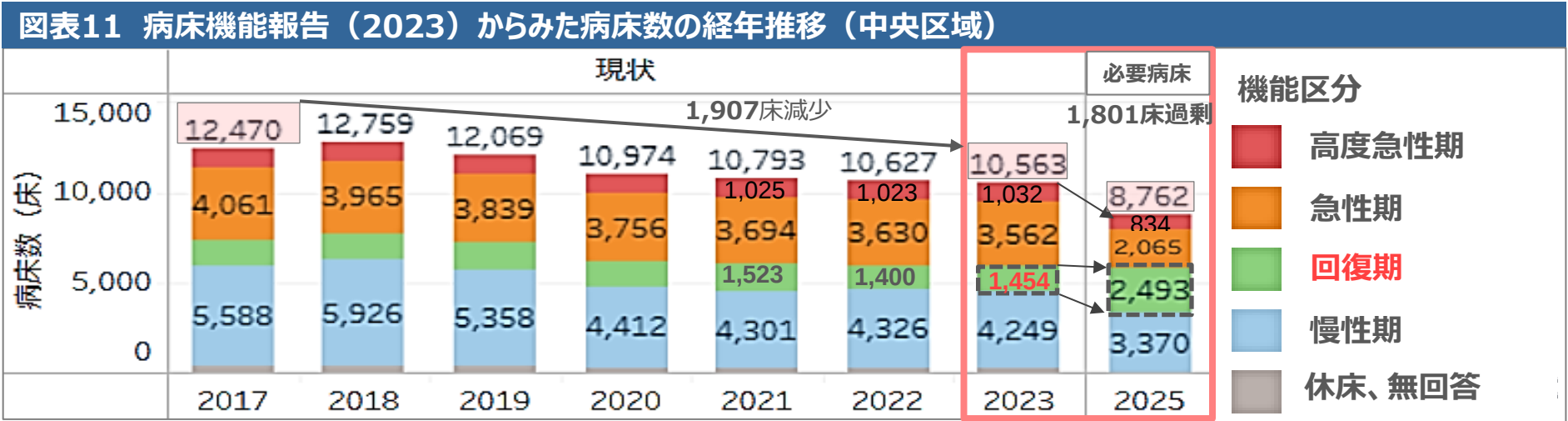
高知県の地域医療構想：高知県全体

図表10より、高知県全体の病床数は**2023年（令和5年）7月時点**で**12,997床**となっている。その内訳を「**定量的な基準**」で再評価した場合、登録上、急性期である病床のうち、**816床が回復期相当であると評価されている**。つまり、急性期病床を回復期病床へ機能転換させるかどうかを検証する必要があると思われる。また、将来の患者需要予測を見据えた病床数の見直しの協議も必要になると考えられる。



高知県の地域医療構想：中央区域

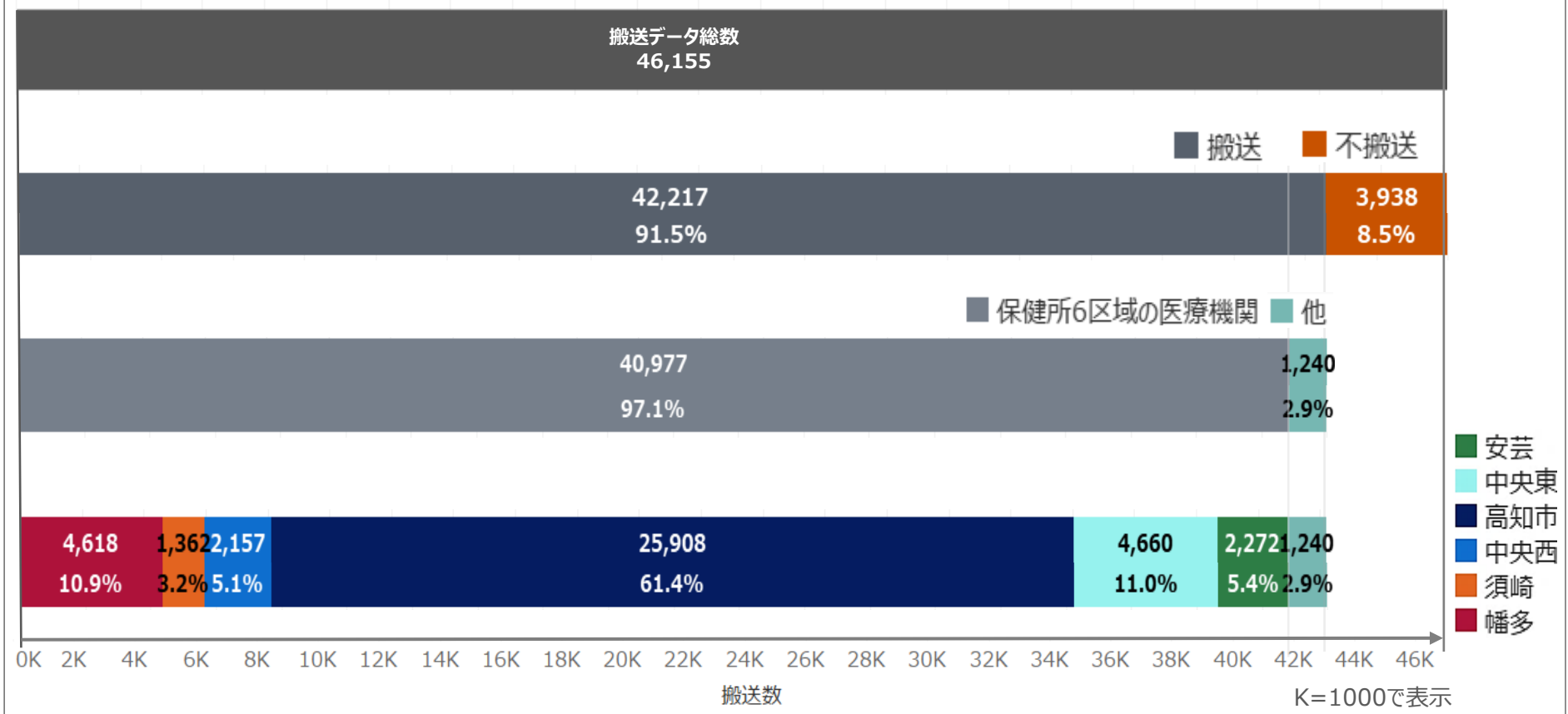
図表11より、**中央区域**の総病床数において、**2017年**から**2023年**にかけ、**1,907床**減少して**10,563床**となっている。それは高知県全体の**約80%**に相当する。さらに**2025年**必要病床数と機能区分の内訳を比較すると、回復期病床の不足が課題となっている。図表12によると、特に急性期病床の過剰が顕著であるため、回復期への機能分化を協議する必要がある。また、将来の患者需要予測を基にしたダウンサイジングの協議も必要になると考えられる。



救急搬送件数：高知県全体①（2023年）

図表13によると、搬送データ総数の**46,155件**のうち、不搬送（※）が**8.5%（3,938件）**であるのがわかる。保健所6区域における、主要な救急医療機関以外の他の医療機関の搬送件数は**1,240件**である。また、搬送数の内訳では、高知市への搬送件数が**61.4%**と、半数以上の患者に対応している。

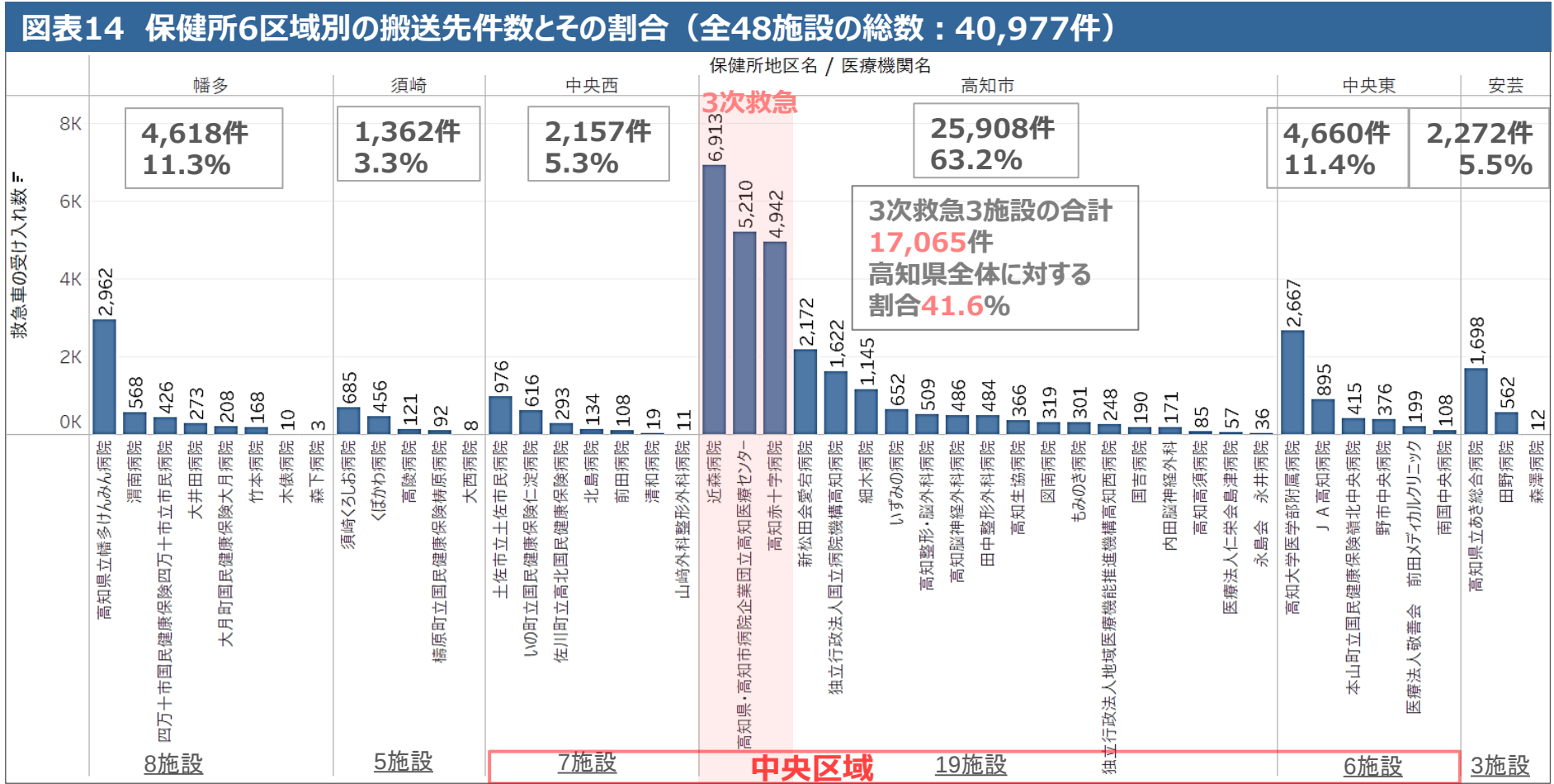
図表13 搬送先データの内訳(保健所6区域の分類)（区域外の流出入含む）



（※）**不搬送**（ふはんそう）とは、災害・救急現場に出場した消防の救急隊が、何らかの理由によって傷病者を医療機関へ搬送せずに現場での活動を終了し、もとの署隊などに帰還すること。

救急搬送件数：高知県全体②（2023年）

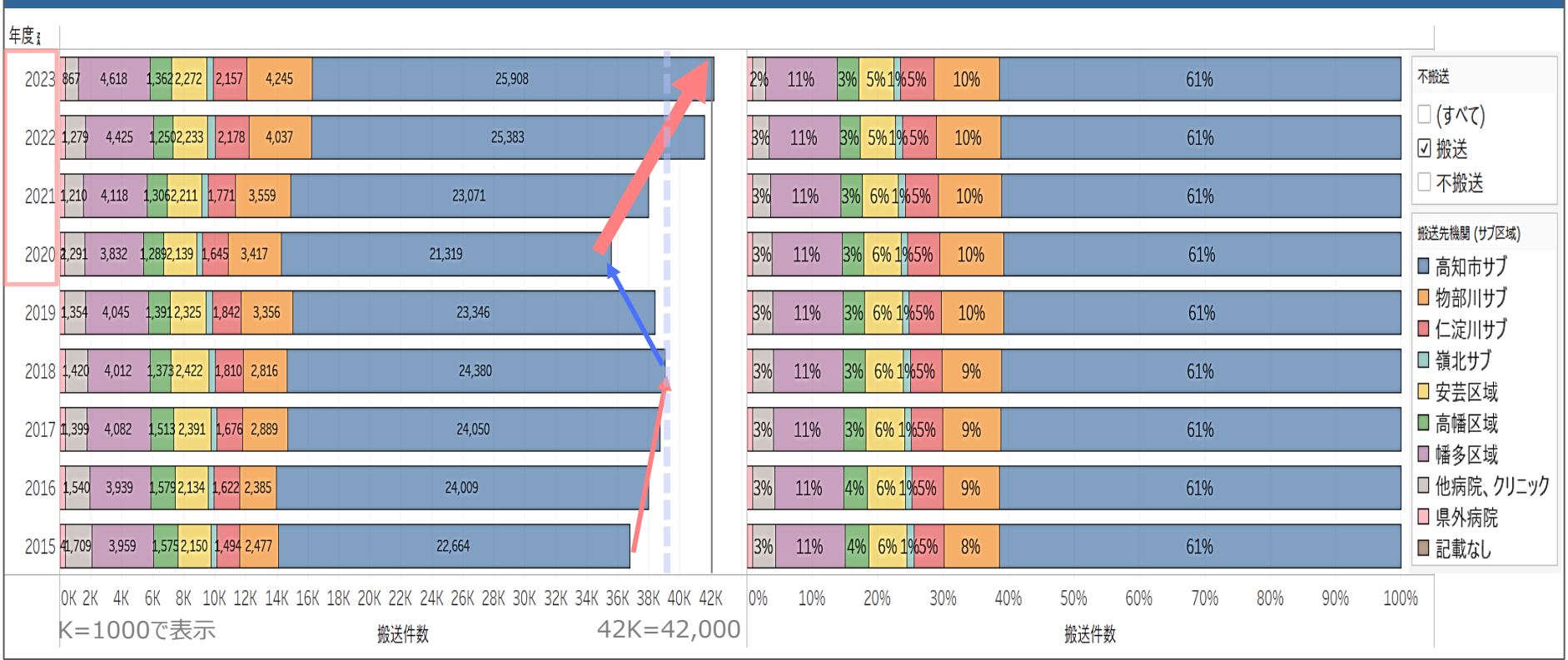
図表14によると、高知県全体の主要な救急受け入れ施設数は48施設であり、そのうち中央区域の施設は32施設である。
さらに、3次救急3施設の受け入れ件数は、高知県全体の41.6%を占める。（中央区域全体の50%以上を占める。）



救急搬送件数の経年変化（サブ区域を含む区分）

図表15左図は、2015年から2023年の救急の受け入れ件数の合計値とその内訳を示している。これによると、直近4年間（2020-2023年）は増加傾向となっており、搬送件数においては、コロナ前の最高値を更新して増加し続けている。図表15右図によると、区域別の受け入れ件数の割合に大きな変化は認められない。その理由は、各区域の受け入れ件数が全区域で増加しているためであると考えられ、搬送件数における負担は全区域で増加していると考えられる。

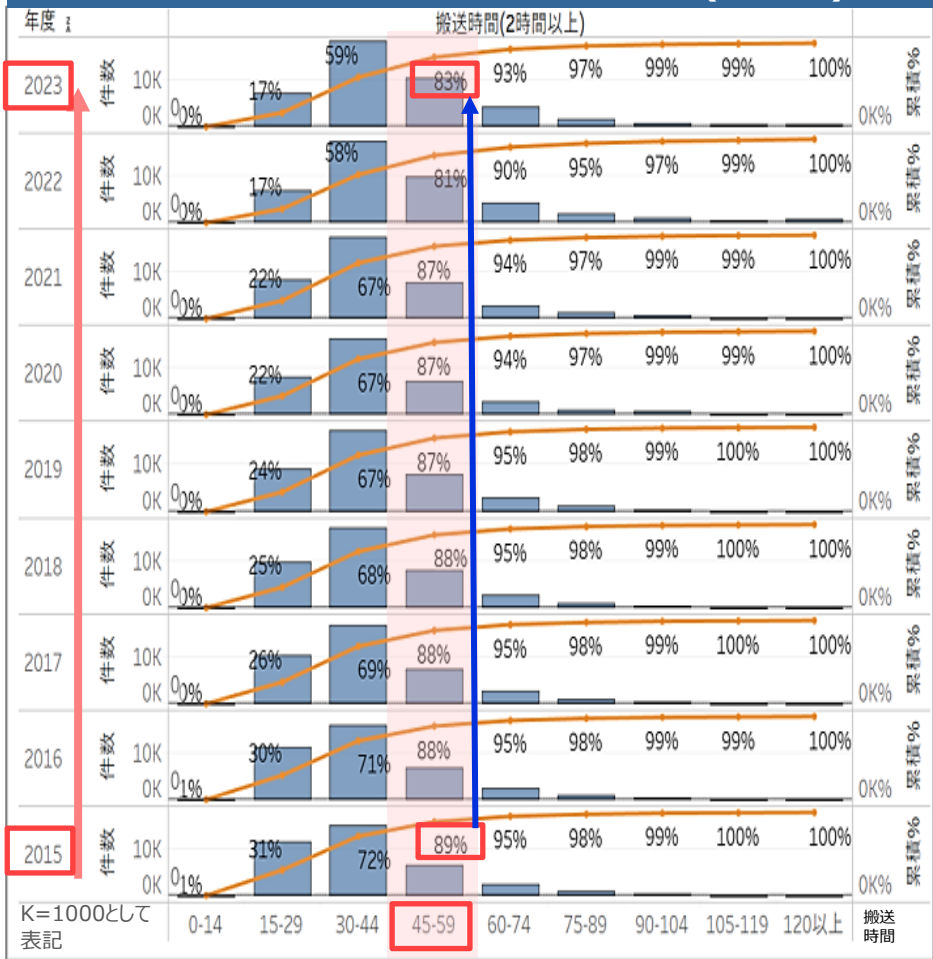
図表15 救急搬送の受け入れ先医療機関の区域別の件数と全体に占める割合の経年変化（2015-2023年）



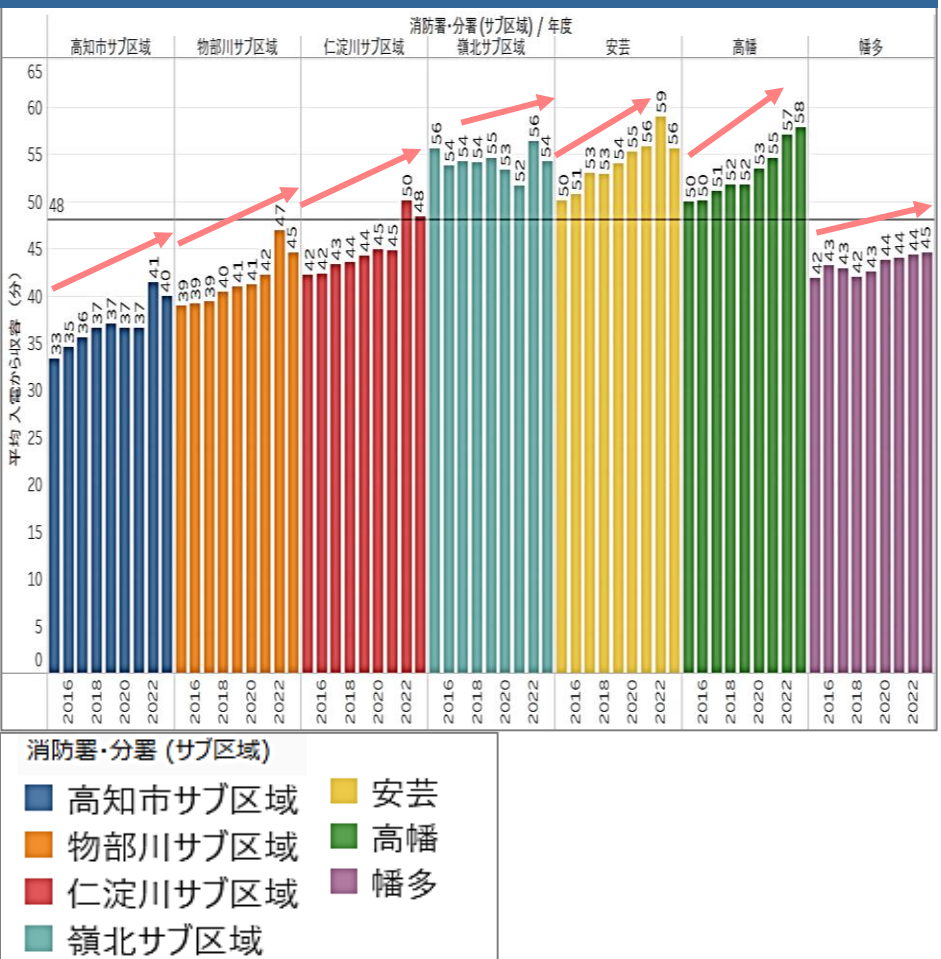
搬送時間からみる救急体制の経年変化(サブ区域を含む区分)

図表16より、搬送時間の経年変化をみると、**45-59分（約1時間以内：赤色枠）**で搬送できていた割合（％）は、**2015年では89%であった**ことに対して、**2023年では83%へと割合が減少している**。これにより近年では、約1時間以上かかる搬送件数の割合が増加していることがわかる。さらに、図表17では、すべての区域で搬送時間が増加傾向となっており、時間の観点からも、搬送における負担が増加していると考えられる。

図表16 入電-収容までの時間の経年変化(県全体)



図表17 各区域における搬送時間の経年変化

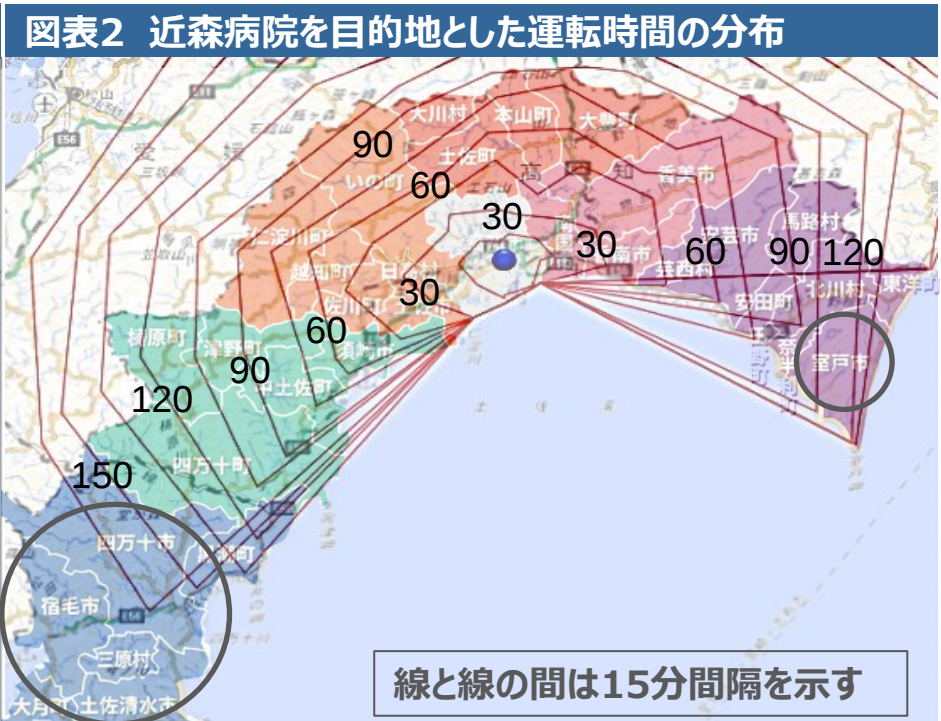
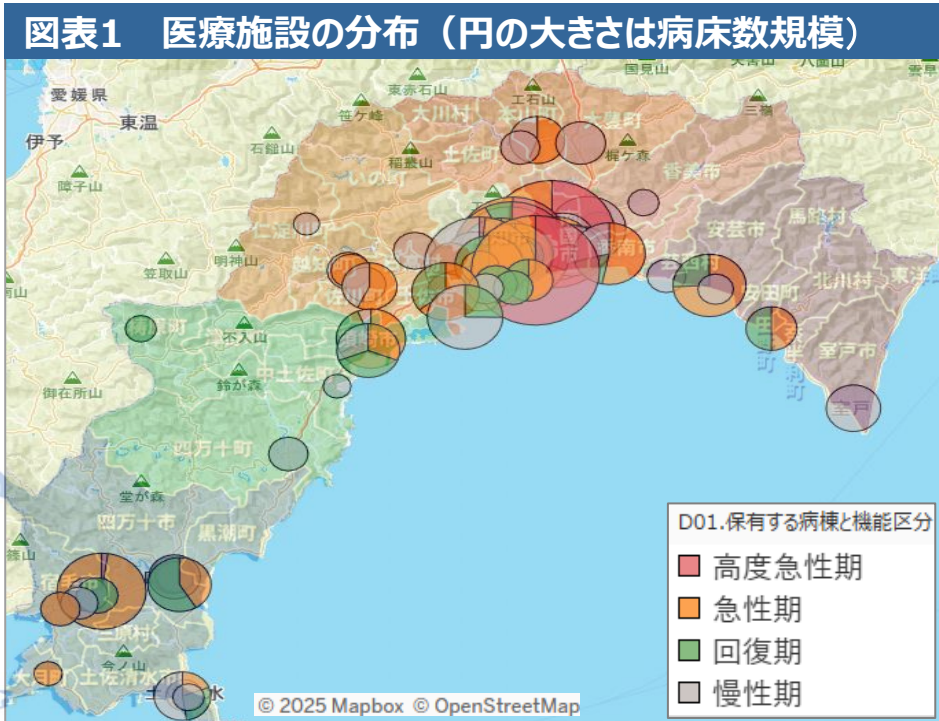


1.高知県全体の把握

各医療区域における医療機能の現状

図表 1 より、高知県の医療施設の分布をみると、中央区域に集中していることがわかる。医療機能においても、特に**高度急性期（赤色）**病床は中央区域に集中しており、さらに、**急性期（橙色）**、**回復期（緑色）**病床も集中していることがわかる。図表 2 では、高知県の中心に位置する近森病院へのアクセスの運転時間（分）を示している。これによると、**室戸市（安芸区域）**では**2時間以上**、**幡多区域**は**約3時間以上**の運転時間を必要とすることがわかる。

高度急性期治療は中央区域に依存する構造となるが、全ての患者の受療動向が中央区域に集中し続けた場合、患者を受けきれなくなることが懸念される。よって、各区域の医療施設は、その区域に必要となる機能を選定して再構築していく必要がある。



2.高知市サブ区域の把握



- ☒ 39201_高知市
- ☐ 39204_南国市
- ☐ 39205_土佐市
- ☐ 39211_香南市
- ☐ 39212_香美市
- ☐ 39341_本山町
- ☐ 39344_大豊町
- ☐ 39363_土佐町
- ☐ 39364_大川村
- ☐ 39386_いの町
- ☐ 39387_仁淀川町
- ☐ 39402_佐川町
- ☐ 39403_越知町
- ☐ 39410_日高村

2.高知市サブ区域の把握 サマリ

【高知市サブ区域における現状】

- ・ 高知市サブ区域の人口減少は年率約0.9%（約2,835人/年）、高知県全体と同じの割合で減少する予測である(26頁)
- ・ 地域医療構想の2025年必要病床数はサブ区域のため設定されていない。しかし、中央区域は、2023年時点の2025年必要病床数を約1800床上回っており、高知市サブ区域は中央区域の全病床数の約68%を占めている（7.18頁）

【患者需要】

- ・ 人口減少は患者数だけでなく、医療従事者数の減少も示唆している(26頁)
- ・ 1日平均患者数は2030年（5,006人）から2035年（4,513人）にかけて約500人程度減少するが、その後、ほぼ横ばいで推移して、2040年から微増する予測である(27頁)

【救急搬送】

- ・ 救急搬送は近森病院、高知医療センター、高知赤十字病院とその他の2次救急病院を中心として受け入れを担っている(29頁)
- ・ 救急受け入れ件数は、15,010-18,794件/年であり、経年変化は増加傾向である(34頁)
- ・ 自区域で発生した搬送の受け入れ割合は、近年減少傾向であり、その一方、物部川サブ区域への搬送割合が増加している（31頁）
- ・ 量的負担を搬送時間から評価すると、平均搬送時間の経年変化においては延長を示す消防署もある(30頁)
- ・ 自区域で発生した救急患者のうち、高知市サブ区域の医療機関（83%）では、「救急」「循環器内科」「呼吸器」の割合が増加している。その一方、高知市サブ区域外の医療機関（17%）では「内科」「耳鼻咽喉科」「循環器内科」「小児・新生児」の対応が増加している（32頁）

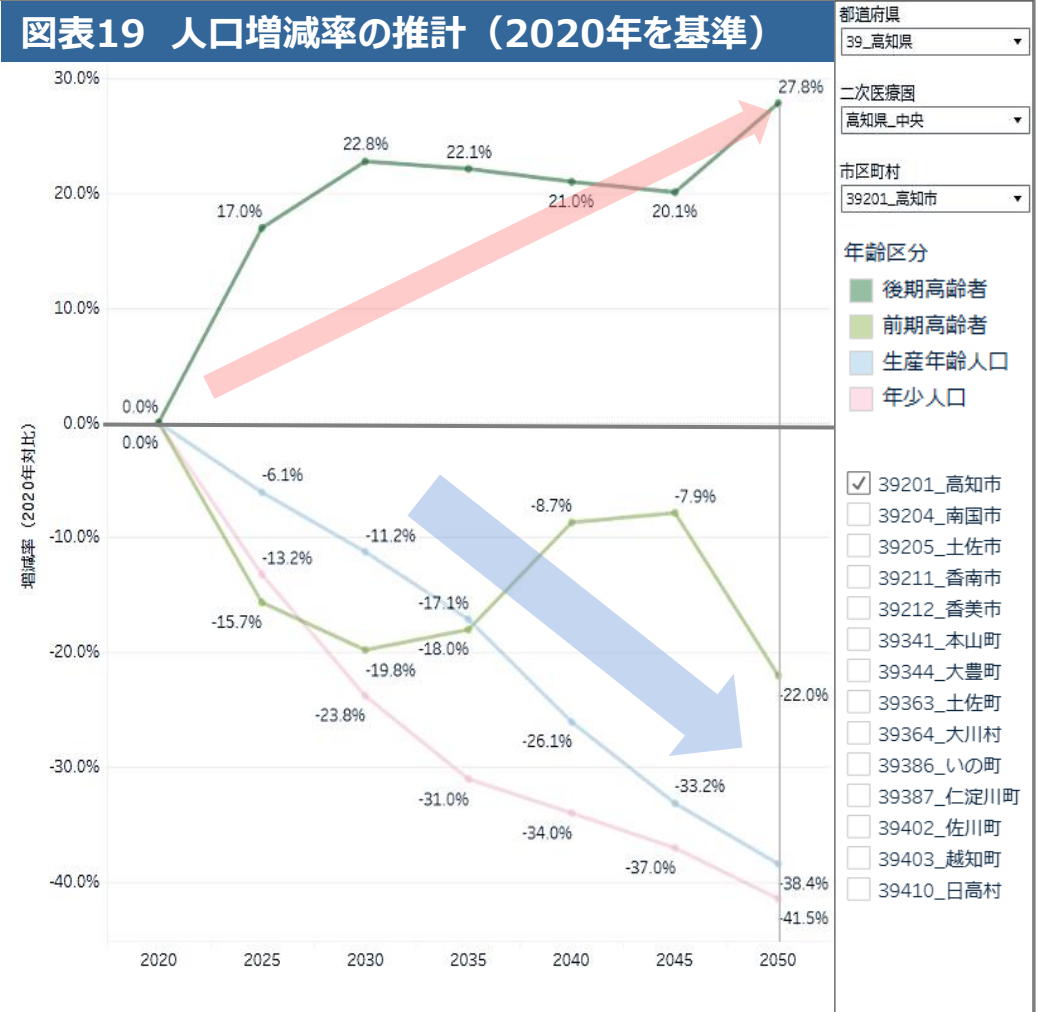
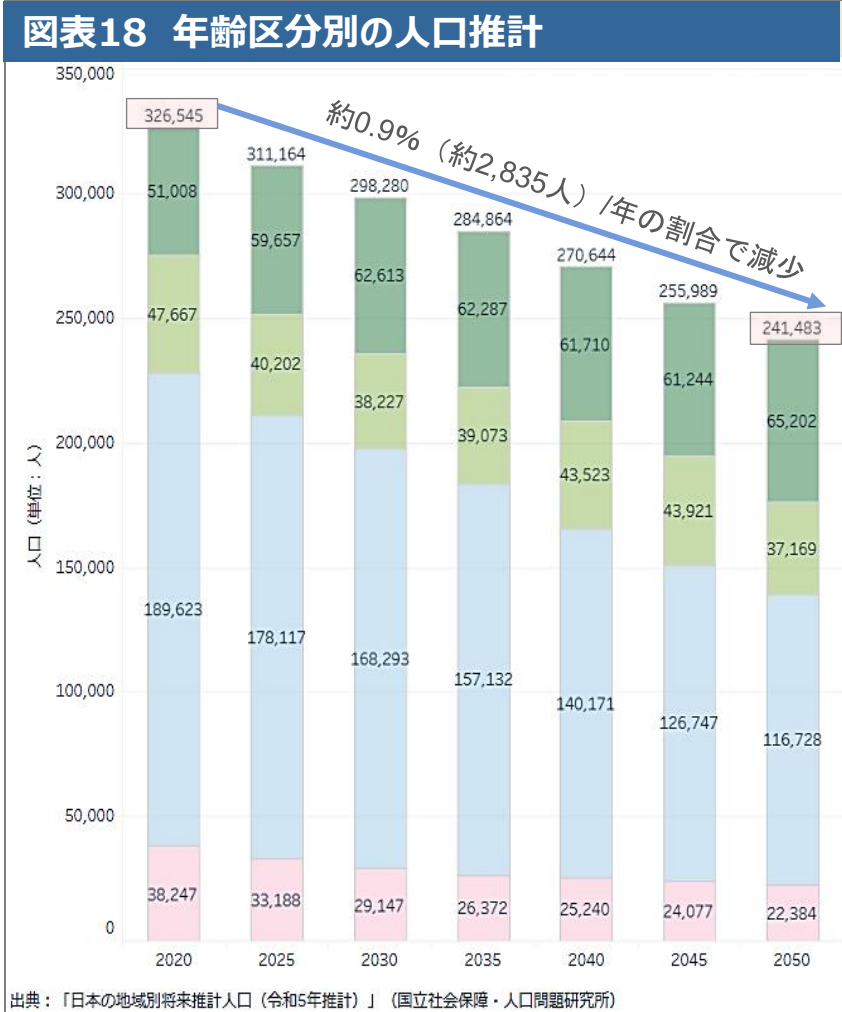


【高知市サブ区域における課題】

- ・ 患者減少が2030年から2035年にかけて1日平均患者数が5,006人から4,513人へと約500人程度減少する予測である。その後は横ばい、さらに微増で推移する。各医療施設の供給体制を調整する必要があるが、他区域からの流入があるため、慎重に精査する必要がある。
- ・ 救急搬送に対する負荷が高いことが推察される。高度医療が必要とされる患者が相応の重症度に応じて搬送されることが重要となる。患者需要に対する供給体制の協議は、重症度の定量調査による精査を必要とする。

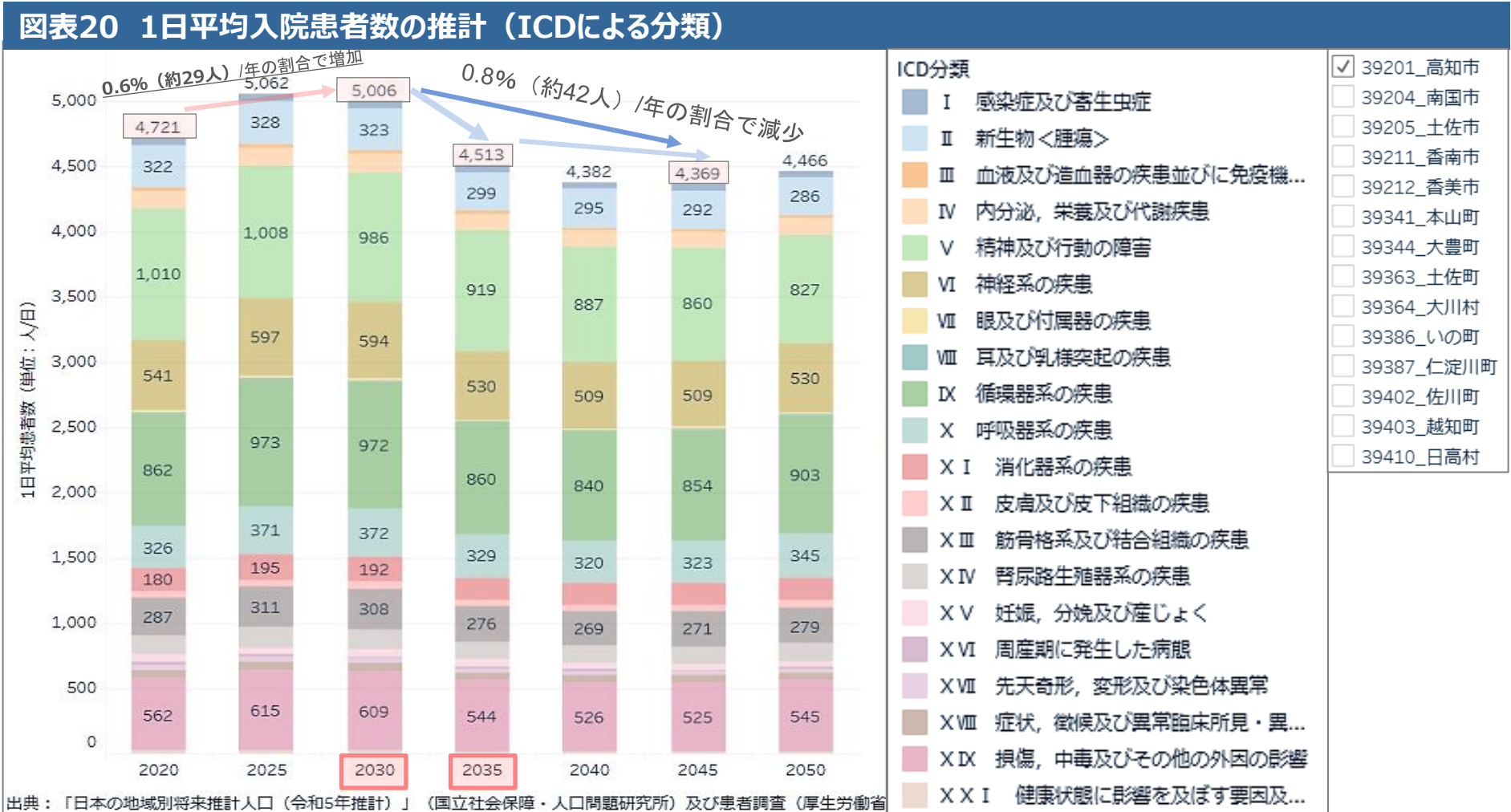
将来人口の推計：高知市サブ区域

図表18によると、高知市サブ区域の人口は今後、さらなる減少が見込まれる。**2020年を基準**として**2050年頃までの30年間で約26%減少**する予測であり、**年率約1%**（約0.9%：約2,835人/年）の割合で減少する予測となる。さらに図表19によると、**後期高齢者のみが2050年までに約1.3倍に増加**することが予想される。その一方、**75歳未満の全ての年齢別人口は減少傾向**となる。人口減少は患者数だけでなく、医療従事者数も減少することを考慮する。



入院患者数（全体）の推計：高知市サブ区域

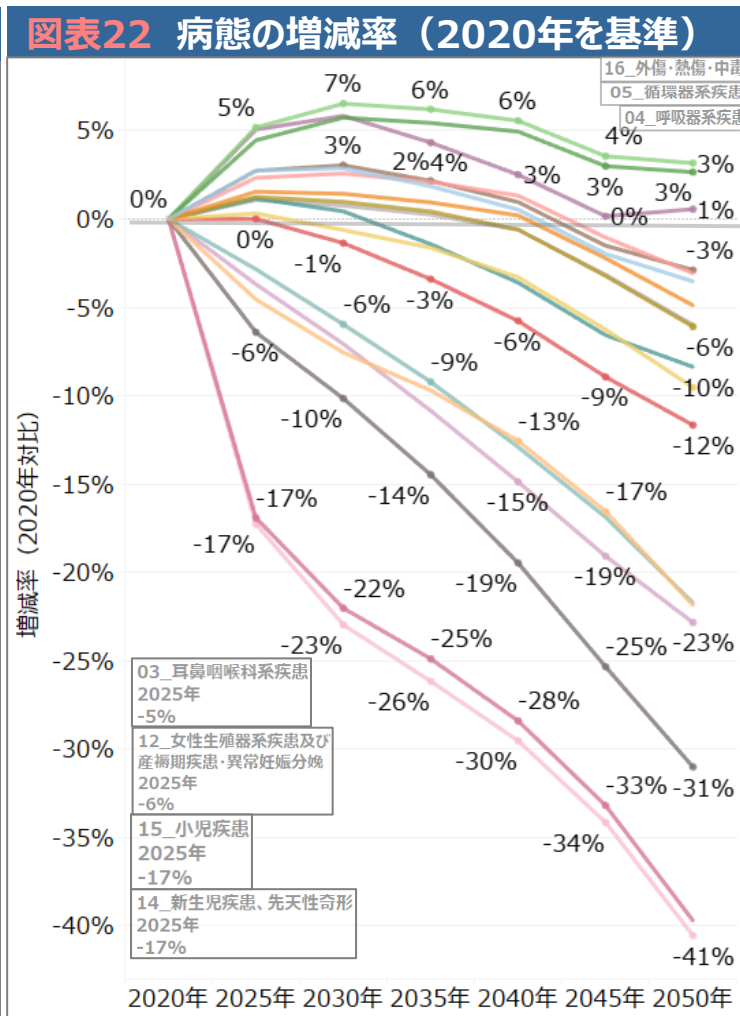
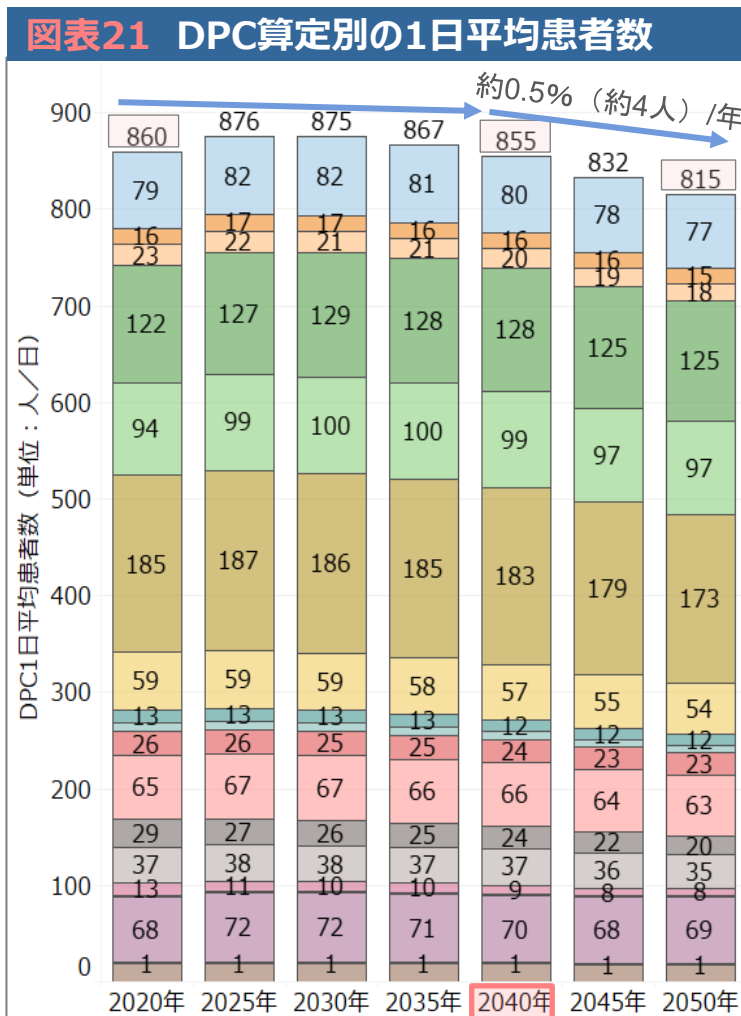
図表20より、医療施設における1日平均患者数は、**2020年を基準**として2030年頃まで10年間で約6%（285人）増加後、減少すると予測される。**2030年頃**までは微増で推移するが、その後、**2030年を基準**として**2045年までの15年間で約13%減少**する予測であり、**年率約0.8%（高知県全体と同程度）**の割合で減少する予測となる。



患者数（DPC医療需要）の推計：高知市サブ区域

※スライド訂正あり
図表21.22

図表21より、DPCを算定する医療施設における1日平均患者数は、2050年までほぼ横ばいで推移する。**2040年を基準**として**2050年までの10年間で約5%減少**する予測であり、**高知県全体より減少の割合は低い**予測となる。図表22によると、**2020年を基準**として「小児科」・「新生児科」・「産婦人科」では、2050年までに30-40%の患者数が減少する予測となる。

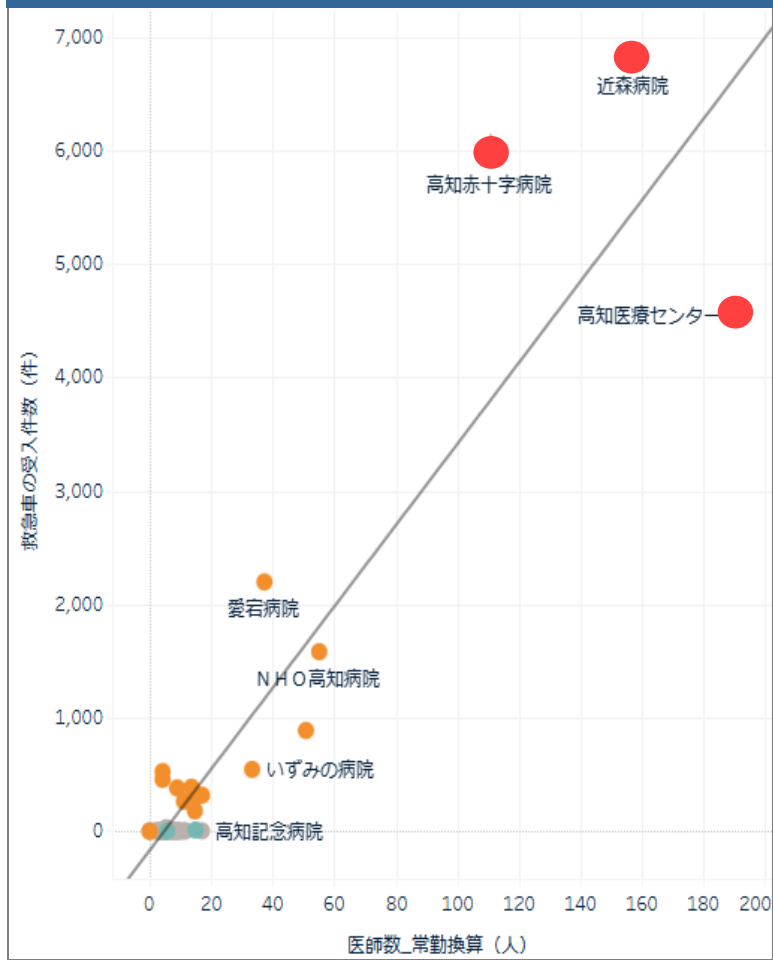


- 39201_高知市
- 39204_南国市
- 39205_土佐市
- 39211_香南市
- 39212_香美市
- 01_神経系疾患
- 02_眼科系疾患
- 03_耳鼻咽喉科系疾患
- 04_呼吸器系疾患
- 05_循環器系疾患
- 06_消化器系疾患、肝臓・胆道・脾臓疾患
- 07_筋骨格系疾患
- 08_皮膚・皮下組織の疾患
- 09_乳房の疾患
- 10_内分泌・栄養・代謝に関する疾患
- 11_腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患
- 12_女性生殖器系疾患及び産褥期疾患
- 13_血液・造血器・免疫臓器の疾患
- 14_新生児疾患、先天性奇形
- 15_小児疾患
- 16_外傷・熱傷・中毒
- 17_精神疾患
- 18_その他

救急体制の現状：高知市サブ区域（2023）

図表23より、救急車受け入れは3次救急病院である、近森病院、高知赤十字病院、高知医療センターとその他の2次救急病院で対応している。図表24より、施設により医師数に差があることがわかる。

図表23 各施設の医師数と救急受け入れ件数



図表24 高知市サブ区域の各施設の夜間、救急診療実績の一覧

医療機関名称	医師数_常勤換算 (人)	救急車の受入件数 (件)	夜間休日の受入件数 (件)	夜間休日の入院件数 (件)	夜間休日の入院率
近森病院	157.7	6,802	9,279	2,640	28.5%
高知赤十字病院	110.8	6,008	10,273	2,996	29.2%
高知医療センター	190.1	4,555	8,258	2,841	34.4%
愛宕病院	37.3	2,197	2,256	574	25.4%
NHO高知病院	55.1	1,582	4,838	1,399	28.9%
細木病院	50.8	888	1,697	133	7.8%
いずみの病院	33.3	545	572	0	0.0%
高知脳神経外科病院	4.2	526	800	151	18.9%
高知整形外科・脳外科病院	4.2	457	1,091	167	15.3%
高知生協病院	13.6	388	578	127	22.0%
田中整形外科病院	8.9	382	1,815	21	1.2%
もみのき病院	17.0	318	913	160	17.5%
因南病院	11.1	265	604	30	5.0%
JCHO高知西病院	14.0	243	474	10	2.1%
国吉病院	14.7	179	981	0	0.0%
朝倉病院	5.5	26	0	0	0.0%
高知高須病院	14.9	11	318	0	0.0%
岡村病院	10.3	0	297	0	0.0%
高知病院	9.2	0	0	0	0.0%
だいいちリハビリテーション病院	9.0	0	125	0	0.0%
町田病院	6.2	0	0	0	0.0%
高知記念病院	17.0	0	0	0	0.0%
平田病院	2.0	0	0	0	0.0%
南病院	4.1	0	0	0	0.0%
潮江高橋病院	4.9	0	14	0	0.0%

各消防署からの救急搬送の発生件数とその年次推移

[illegible]

This map of Kochi Prefecture illustrates the distribution of hospitals categorized by functional zones. The zones are defined by color-coded pie charts: red for '高度急性期' (Highly Acute), orange for '急性期' (Acute), green for '回復期' (Recovery), and blue for '慢性期' (Chronic). The map is divided into four main functional regions: North (北消防署), Central (中央消防署), East (東消防署), and South (南消防署). Specific hospitals are labeled, including Kochi City General Hospital (高知市立総合医療センター), Kochi City Medical Center (高知市立医療センター), and various specialized hospitals like Kochi City Hospital of Rehabilitation (高知市立リハビリテーション病院). A legend in the bottom right corner explains the color coding for the functional zones.

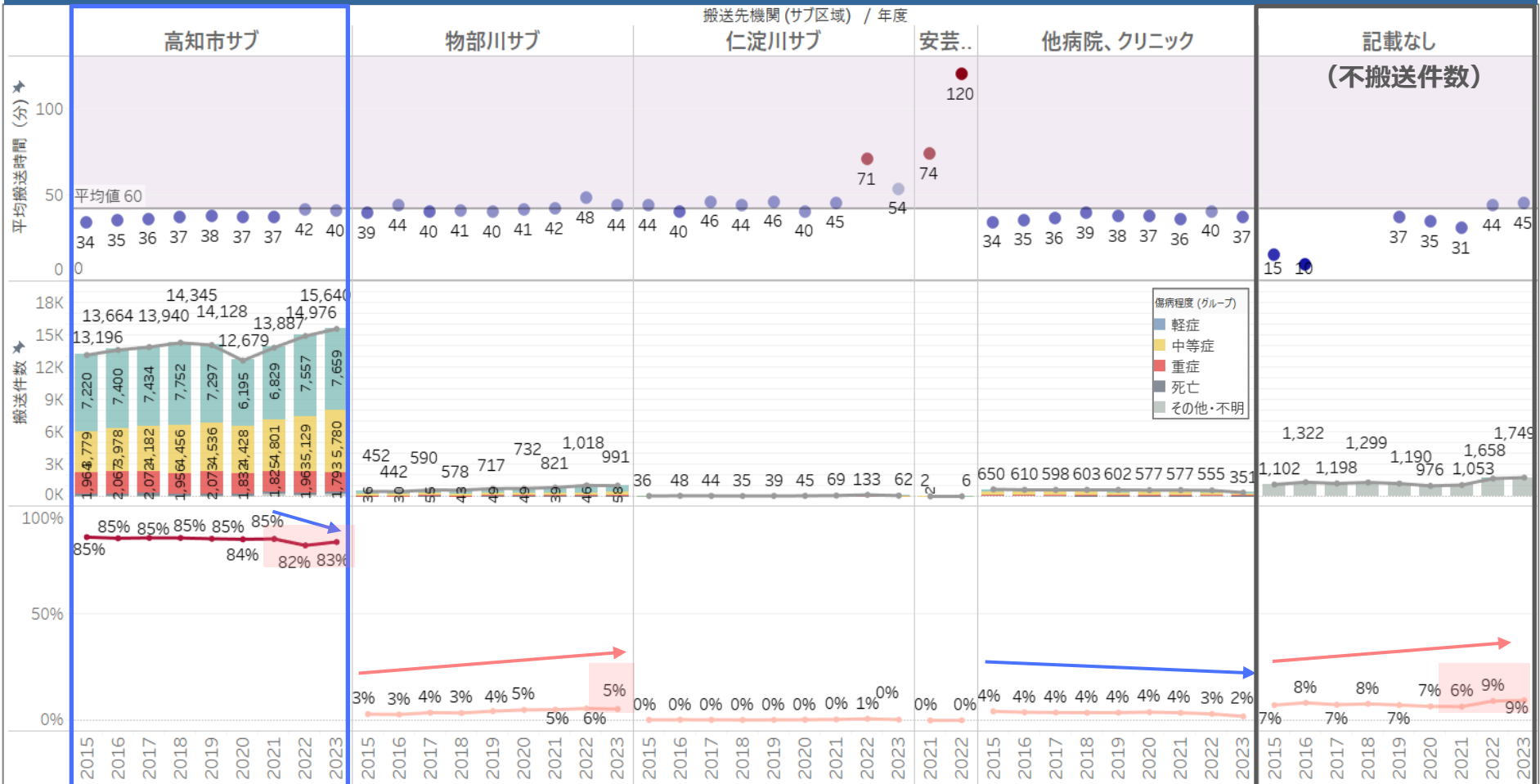
機能区分	色
高度急性期	赤
急性期	オレンジ
回復期	緑
慢性期	青

救急搬送口データ（2015-2023年）より作成

高知市サブ区域で発生した救急患者の搬送先内訳

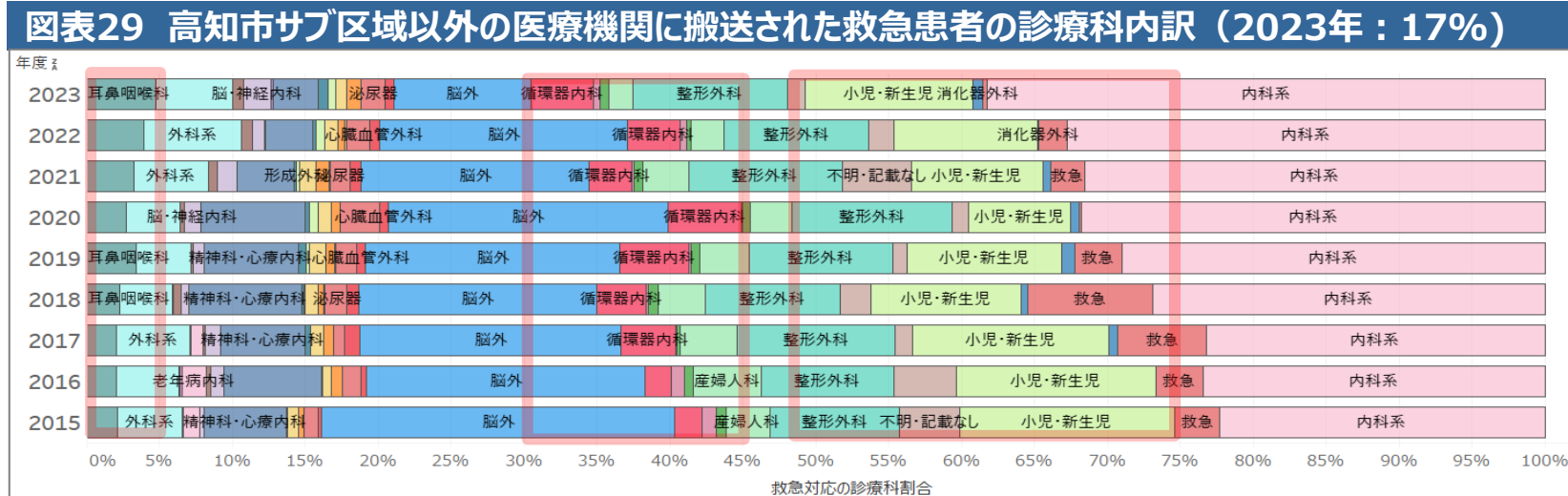
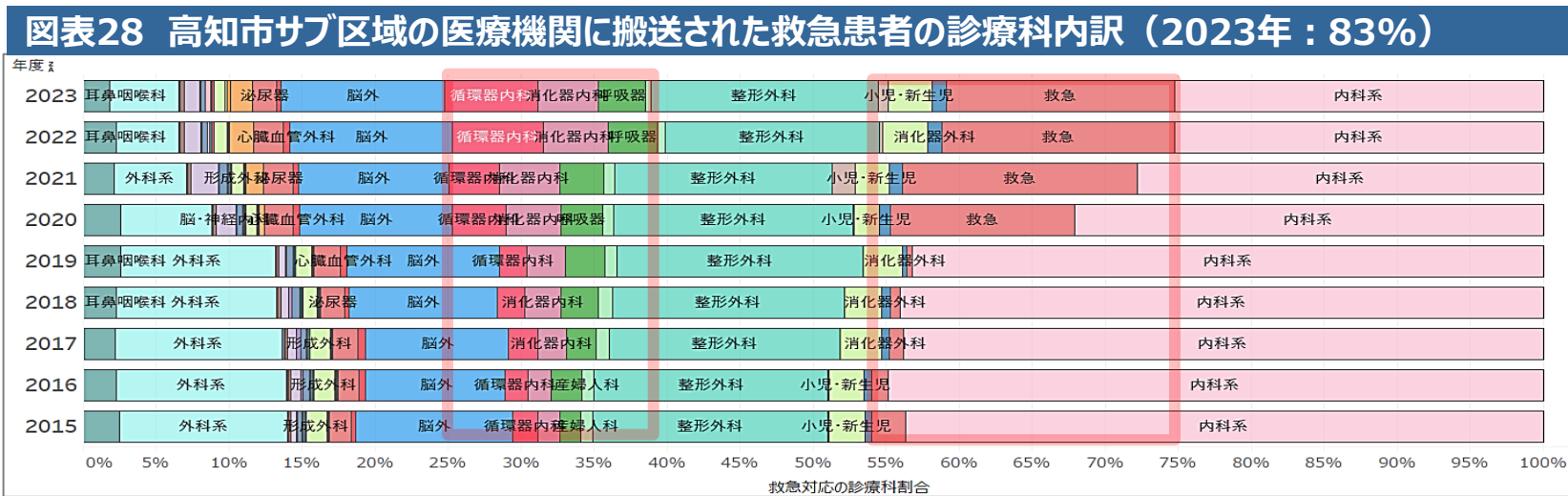
図表27より、高知市サブ区域で発生した救急搬送患者に対する高知市サブ区域の医療機関で対応している割合である、自己完結率は**2023年で83%**であり、近年は**減少傾向**である。その一方、物部川サブ区域への搬送割合が増加している。

図表27 高知市サブ区域で発生した救急患者の搬送先内訳



自区域と他区域への救急搬送の診療科内訳：高知市サブ区域

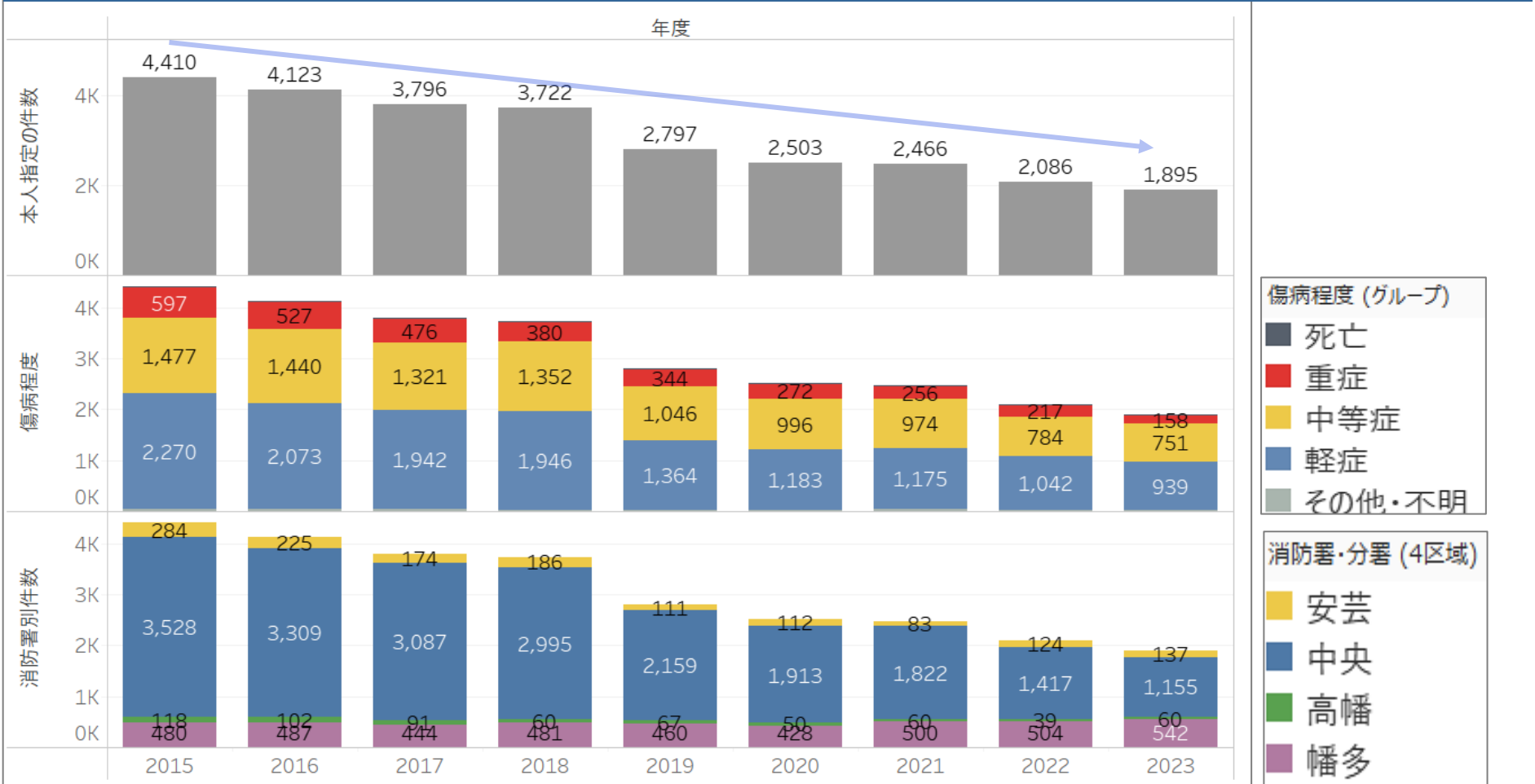
高知市サブ区域で発生した救急搬送のうち、図表28は、高知市サブ区域の医療施設で受けている診療科の割合であり、「救急」「循環器内科」「呼吸器」の対応が増加している。図表29は、他区域へ搬送されている診療科の割合であり、「内科」「耳鼻咽喉科」「循環器内科」「小児・新生児」の対応が増加している。



患者が医療機関を指定した搬送数の推移

図表30は、救急搬送において、患者本人が病院を指定している件数を表し、**2015年**の時点では**約4,400件**発生していたが、その後は減少傾向となっている。しかし、2023年においても、依然として**約1,900件**程度生じている。件数が増加している救急搬送においては、**住民患者の受療動向にも注意を向け、協力いただく必要がある。**

図表30 搬送患者本人が医療機関をしている件数



救急搬送ローデータ (2015-2023年) より作成

2.高知市サブ区域の把握

各区域の救急搬送の発生件数と全体に占める割合：高知市サブ区域

図表31より、高知県全体の救急搬送において、出勤場所（発生場所）が高知市サブ区域である件数は**15,010-18,794件/年**と大きく増加しているが、図表32より、全体に占める割合は**39-41%**と大きな変化はない。つまり、**近年、全区域で発生件数が増加している**ため、全体に占める割合の変化が小さくなっていると考えられる。

図31 住所区域別の救急搬送の発生件数の経時的変化(件)

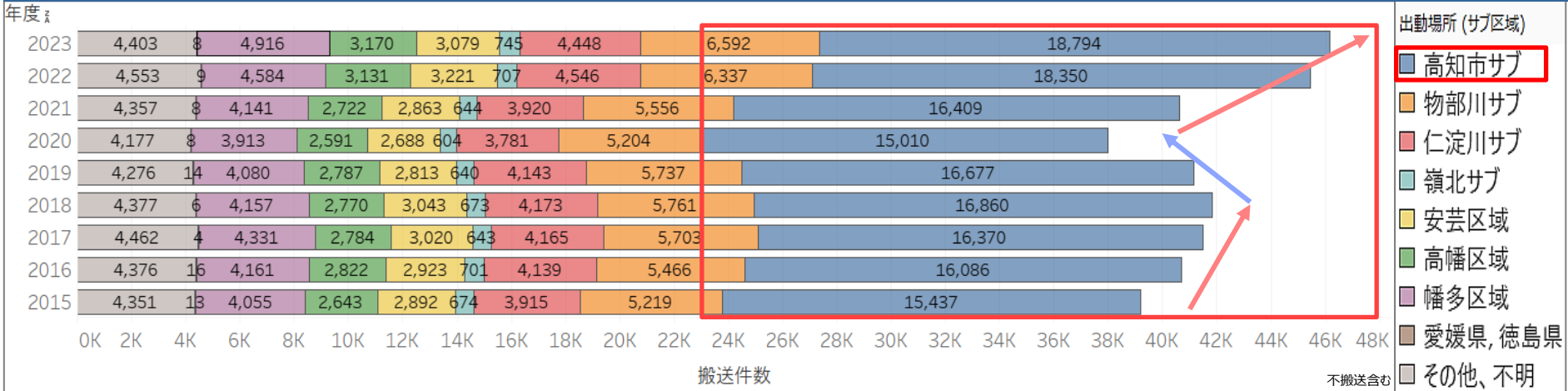
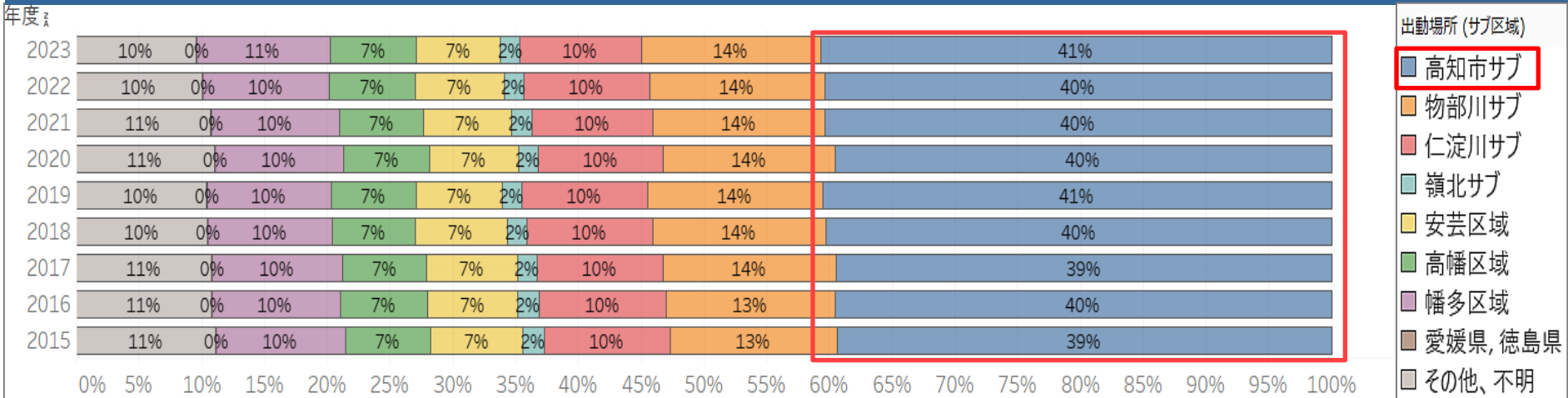


図32 救急搬送件数の全体に占める割合（%）

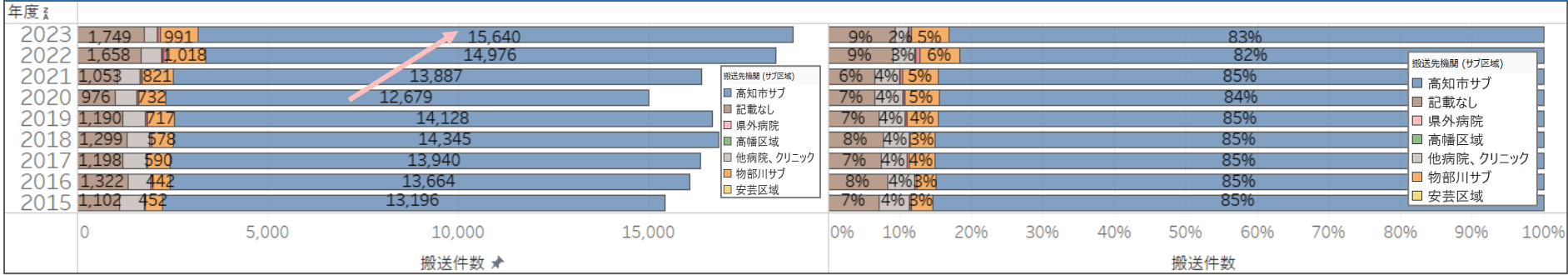


2.高知市サブ区域の把握

高知市サブ区域で発生した救急搬送の区域別搬送先の割合とその詳細

図表33より、高知市サブ区域で発生した救急搬送に対して、自区域で完結している割合は近年、減少傾向であるが、割合は依然として高い。

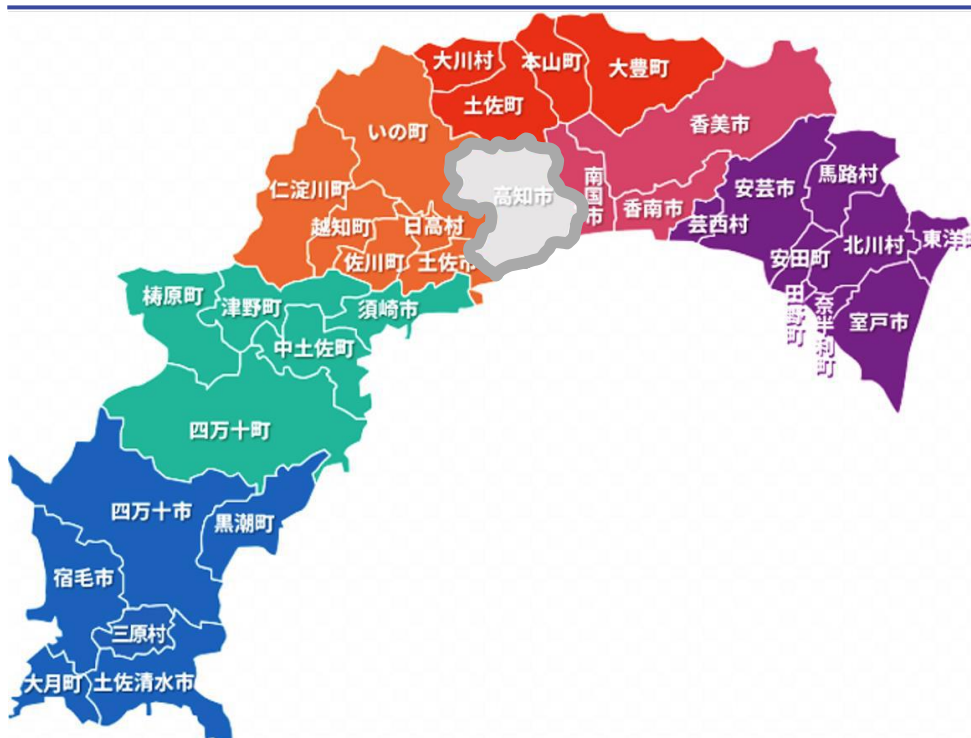
図表33 高知市内で発生した救急搬送患者のうち、区域別の割合の経年変化



図表34 高知市サブ区域の救急搬送患者における、医療施設別の受け入れ件数の内訳

		年度								
搬送先機関(※)	搬送先機関(サブ区域)	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 ㊦
総計		15,437	16,086	16,370	16,860	16,677	15,010	16,409	18,350	18,794
近森病院	高知市サブ	3,715	4,029	3,858	3,949	4,139	3,657	3,866	3,925	4,170
高知赤十字病院	高知市サブ	3,136	3,312	3,446	3,524	3,187	3,117	3,585	3,396	2,880
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	高知市サブ	1,572	1,659	1,711	1,607	1,499	1,111	1,408	1,968	2,133
不明	記載なし	1,102	1,322	1,198	1,299	1,190	976	1,053	1,658	1,749
新松田会愛宕病院	高知市サブ	1,771	1,800	1,880	1,941	1,683	1,449	1,466	1,654	1,691
細木病院	高知市サブ	398	344	357	473	525	580	604	770	973
独立行政法人国立病院機構高知病院	高知市サブ	662	712	681	779	794	685	766	872	956
高知大学医学部附属病院	物部川サブ	325	320	421	419	560	615	686	842	771
いずみの病院	高知市サブ	391	327	450	380	381	336	358	426	542
田中整形外科病院	高知市サブ	170	164	193	225	237	238	251	279	354
高知整形・脳外科病院	高知市サブ	333	298	339	344	429	321	264	322	341
高知生協病院	高知市サブ	249	232	188	233	271	256	265	334	327
図南病院	高知市サブ	136	157	147	99	183	214	287	228	263
高知脳神経外科病院	高知市サブ	226	197	200	256	272	216	252	257	225
J A 高知病院	物部川サブ	124	120	168	157	154	113	131	170	211
もみのき病院	高知市サブ									200
独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院	高知市サブ	164	128	181	181	188	126	152	168	182
国吉病院	高知市サブ									175
内田脳神経外科	高知市サブ	91	70	74	63	76	115	122	125	111
川村病院	他病院、クリニック	41	35	32	35	33	37	66	40	54
岡村病院	他病院、クリニック	62	49	66	55	51	59	57	38	49
医療法人仁栄会島津病院	高知市サブ	14	18	26	41	53	31	39	35	45
土佐市立土佐市民病院	仁淀川サブ	33	41	34	33	32	42	54	66	41
高知高須病院	高知市サブ	30	40	32	22	32	29	17	27	37
永島会 永井病院	高知市サブ									35
高知厚生病院	他病院、クリニック	15	31	28	16	23	33	25	24	25
いの町立国民健康保険仁淀病院	仁淀川サブ	3	7	10	2	7	3	15	67	21

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域



- ☒ 39201_高知市
- ☐ 39204_南国市
- ☐ 39205_土佐市
- ☐ 39211_香南市
- ☐ 39212_香美市
- ☐ 39341_本山市
- ☐ 39344_大豊町
- ☐ 39363_土佐町
- ☐ 39364_大川村
- ☐ 39386_いの町
- ☐ 39387_仁淀川町
- ☐ 39402_佐川町
- ☐ 39403_越知町
- ☐ 39410_日高村

3.入院レセプトと手術の完結率 サマリ

【入院レセプトにおける現状】

- ・ 入院レセプトからみた場合、高知市サブ区域の住民患者の**約89%**に高知市サブ区域の医療施設が対応できている(38頁)
- ・ 他区域から高知市への流入患者の割合は9-40%となっているが、特に20-40%の流入している区域がほとんどをしめている(38頁)
- ・ **5大疾病の割合**は、全レセプトの**約34%**であり、**その他が約66%**であった(41頁)
- ・ **その他(約66%)**の入院レセプトでは、多い順に、「**不明**」、「**認知症**」、「**心不全**」であった。主に「脳性麻痺」と「緑内障」等一部が物部川サブ区域で診療されている以外は、ほぼ完結できている結果であった(42頁)
- ・ 5大疾病の完結率は、**がんは約81%、脳血管疾患は約95%、心疾患は93%、精神は81%、糖尿病95%**であった(43-47頁)

【手術レセプトにおける現状】

- ・ 手術レセプトからみた場合、高知市サブ区域の住民患者の**約87%の手術**に高知市サブ区域の医療施設が対応している(48頁)
- ・ 高知市サブ区域の部位別の手術においても、全ての部位で完結率は高い。一部、物部川サブ区域で手術が施行されている(49頁)
- ・ 他区域からの流入に関しては、高知市サブ区域がそのほとんどをカバーしている(49頁)
- ・ 各手術術式においては、ほとんどの術式と症例数を自区域で対応できている(50.51.52頁)

【各入院基本料における現状】

- ・ 高知市サブ区域の住民患者において、高度急性期、急性期、回復期、慢性期すべてにおいて、高い割合を占めている(53頁)
- ・ 一部、物部川サブ区域等の他区域での診療が認められる(53頁)



【入院レセプトと手術の完結率における課題】

- ・ 高知市サブ区域が高知県の医療機能の中心となっている。高度な手術や処置を求めて受療する患者が他区域から多く流入している。それによる、負担の増加が懸念される。
- ・ 他区域の流入患者に関しては、高度な治療後に、患者住む居住地の医療機関に連携し、患者が帰還して治療するための体制について協議する必要がある。

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各区域の入院レセプト数からみた完結率と他区域の流入と流出

図表35より、中央区域の完結率は98%となっているが、その他の区域の患者の流入を多く受け入れていることがわかる。

図表36より、サブ区域単位で見た場合、高知市サブ区域、次いで物部川サブ区域において、他区域からの患者流入が確認できる。今後の流入の増加は、その区域の医療の負担が増加するため、診療体制に影響を与える可能性がある。

図表35 2次医療圏の4区域における、入院レセプトの完結率と分布

	高知県_中央	高知県_安芸	高知県_高幡	高知県_幡多	他_四国	四国以外
中央区域	98%	1%	0%	0%	0%	1%
安芸区域	37%	59%	0%	0%	4%	1%
高幡区域	43%	0%	53%	1%	2%	0%
幡多区域	12% 他区域から 中央区域への流入割合	0%	2%	82%	3%	1%

医療機関（サブ区域）

- 高知市サブ
- 物部川サブ
- 仁淀川サブ
- 嶺北サブ
- 安芸区域
- 高幡区域
- 幡多区域

図表36 サブ区域を含む7区域における、入院レセプトの完結率と分布

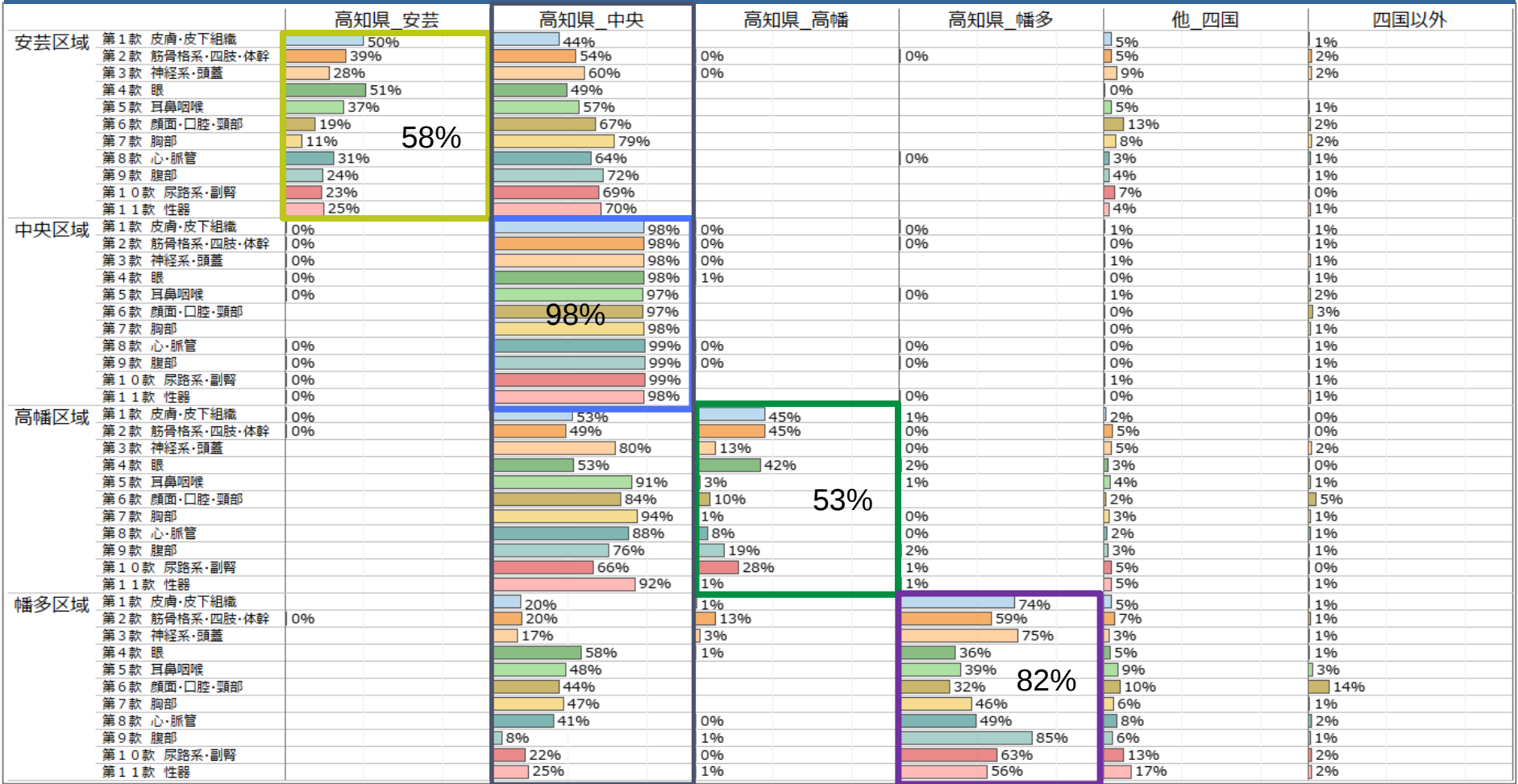
	高知市サブ	物部川サブ	仁淀川サブ	嶺北サブ	安芸区域	高幡区域	幡多区域	其他都道府県
高知市サブ	89%	8%	1%	0%	1%	0%	0%	1%
物部川サブ	39%	58%	1%	0%	2%	0%	0%	1%
仁淀川サブ	40%	4%	53%	0%	0%	1%	0%	1%
嶺北サブ	32%	13%	1%	54%	0%	0%	0%	1%
安芸区域	23%	13%	0%	0%	59%	0%	0%	5%
高幡区域	32%	5%	6%	0%	0%	53%	1%	2%
幡多区域	9% 他区域から 高知市への流入割合	3%	0%	0%	0%	2%	82%	4%

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各区域の入院レセプト数からみた完結率：中央区域（98%）

図表37より、5年間のレセプト件数の集計において、**中央区域（青枠）**を住居地とする患者の入院治療について、ほとんどの入院レセプトをカバーしていることが観察できる。さらに、**他区域に居住する患者においても、中央区域（黒枠）**で診療していることがわかる。

図表37 各住居地の患者における、診療施設所在地の区域別診療レセプト割合（部位別）



各区域の入院レセプト数からみた完結率：高知市サブ区域（89%）

図表38 各住居地の患者における、診療施設所在地の区域別診療レセプト割合



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

全レセプト件数の内訳と高知市サブ区域の内訳（入院5年間分）

図表39より、高知県の全レセプト数**988,163件**に占める高知市サブ区域に居住している患者の入院レセプト件数は**387,274件**であり、計算すると全体の**約39%**となる。さらにそのうちの**343,981件**が高知市サブ区域の医療機関の入院レセプトであることから、計算上、居住患者に対する**入院治療レセプトの完結率は約89%**となる。

図表39 各区域別の入院レセプト数（患者住所地と受療医療機関）

医療機関(サブ区域)	総計	保険者所在地						
		高知市サブ	物部川サブ	仁淀川サブ	嶺北サブ	安芸区域	高幡区域	幡多区域
高知市サブ	522,943	343,981	57,900	54,674	8,172	19,152	28,586	10,478
物部川サブ	144,501	30,458	85,858	5,254	3,265	11,283	4,733	3,650
仁淀川サブ	83,881	5,407	754	71,556	133	112	5,746	173
嶺北サブ	14,555	314	136	47	14,047	10	1	
安芸区域	55,221	2,942	2,606	212	1	49,222	180	58
高幡区域	53,331	635	124	1,988	8	32	48,020	2,524
幡多区域	97,227	371	30	72	2	78	944	95,730
その他都道府県	16,504	3,166	1,212	1,199	268	3,817	2,083	4,759
総計	988,163	387,274	148,620	135,002	25,896	83,706	90,293	117,372

図表40 高知市サブ区域における住民の入院レセプト数

	入院	
5疾病	レセプト件数	構成割合
新生物	34,633	8.9%
脳卒中	36,723	9.5%
虚血性心疾患	6,931	1.8%
精神及び行動の障害	42,893	11.1%
糖尿病	9,621	2.5%
その他	256,473	66.2%
総計	387,274	100.0%

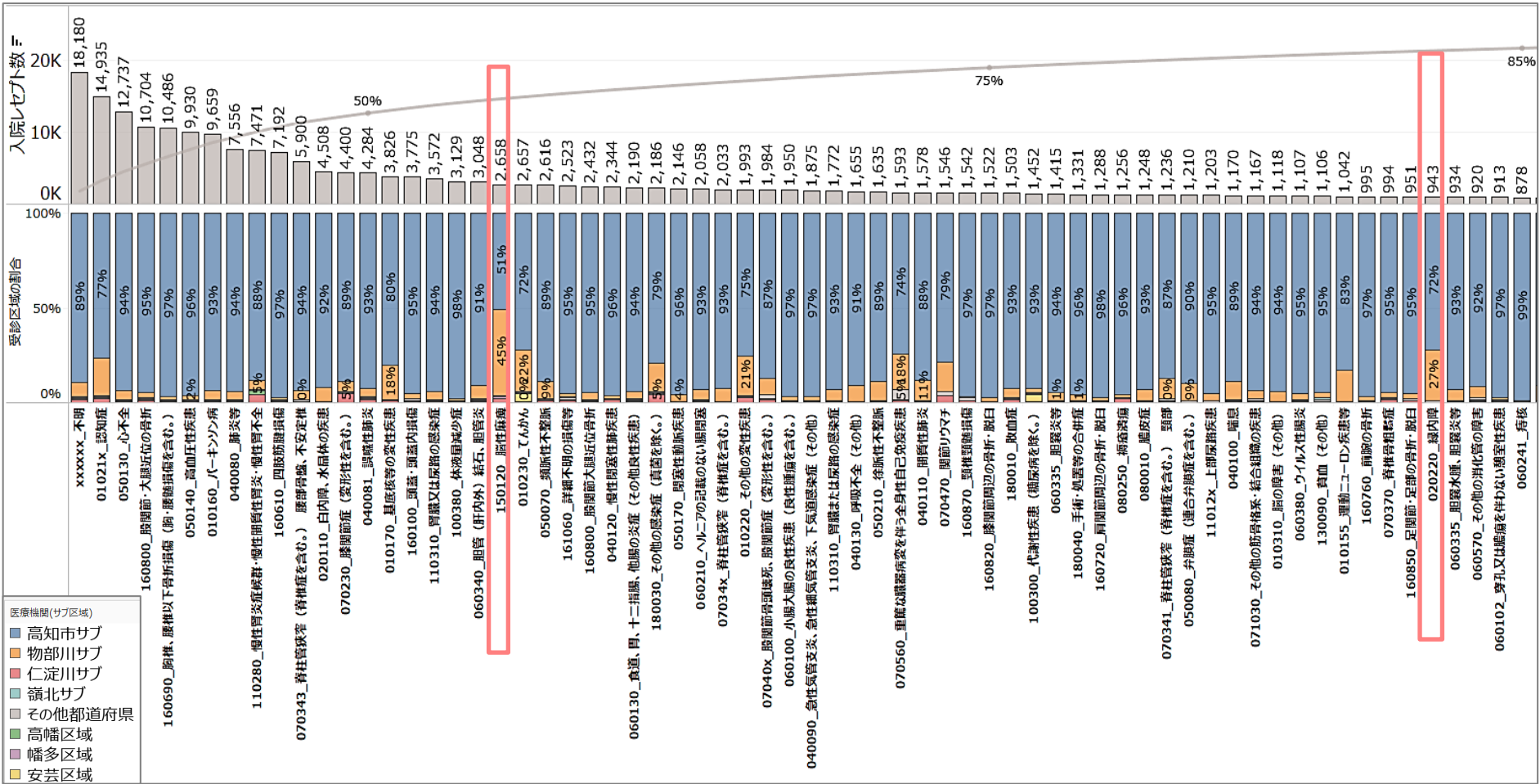
高知市サブ区域の総レセプト数のうち、5大疾病が占める件数は、**130,801件**となり、高知市サブ区域全体に占める割合は**約34%**となる。

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

高知市サブ区域を居住地とする患者の「その他（約66%）」の入院レセプト内訳

図表41より、5大疾病以外の「その他」に該当するレセプト件数において、件数が多い順に傷病名とレセプト件数を表示した。レセプト件数が多い順では、「不明」「認知症」「心不全」「股関節・大腿近位の骨折」となっている。高知市サブ区域では、住民患者に対して高知市の医療機関でその症例のほとんどをカバーできている。「脳性麻痺」「緑内障」(赤枠)等が物部川サブ区域で診療されている以外は、ほぼ完結できていることがわかる。

図表41 高知市サブ区域に居住する患者における、「その他（約66%）」の傷病内訳と各区域の占める割合の内訳（%）

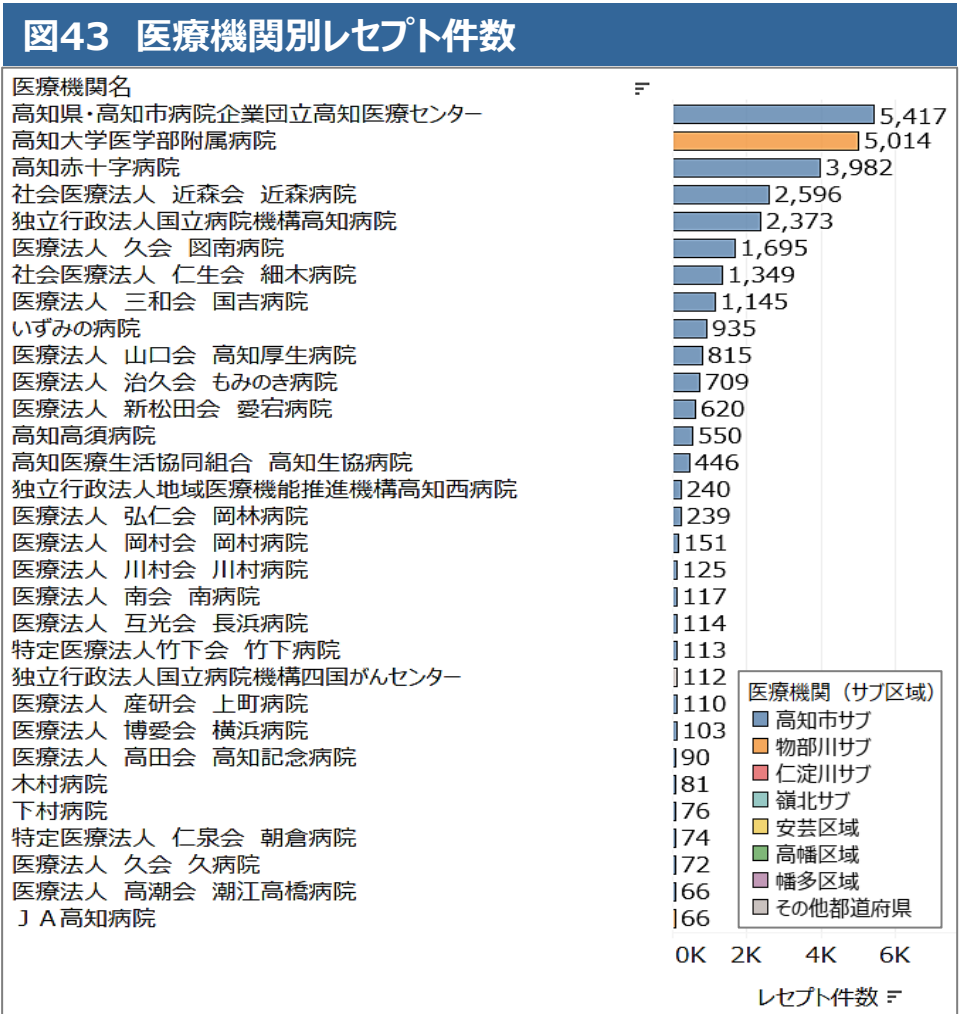
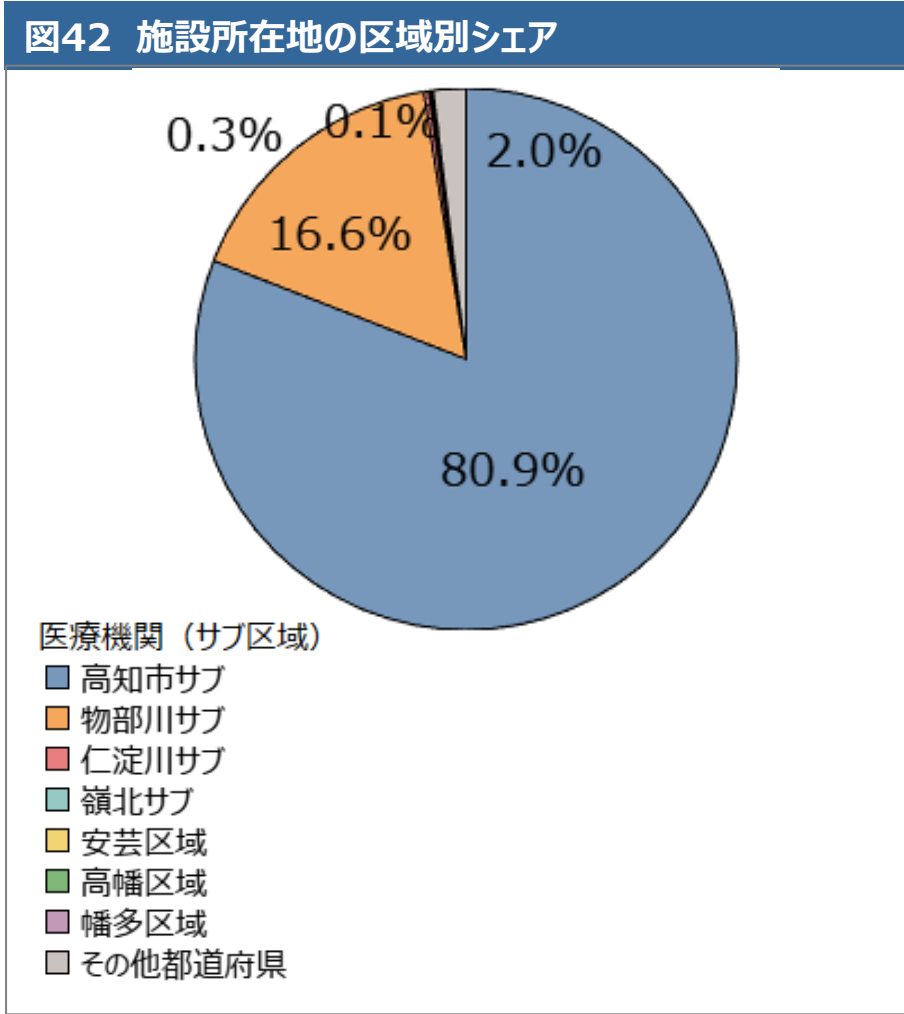


KDBデータより作成：2019年4月から2024年4月分（5年分）の集計により作成

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

5大疾病：がん（約81%）

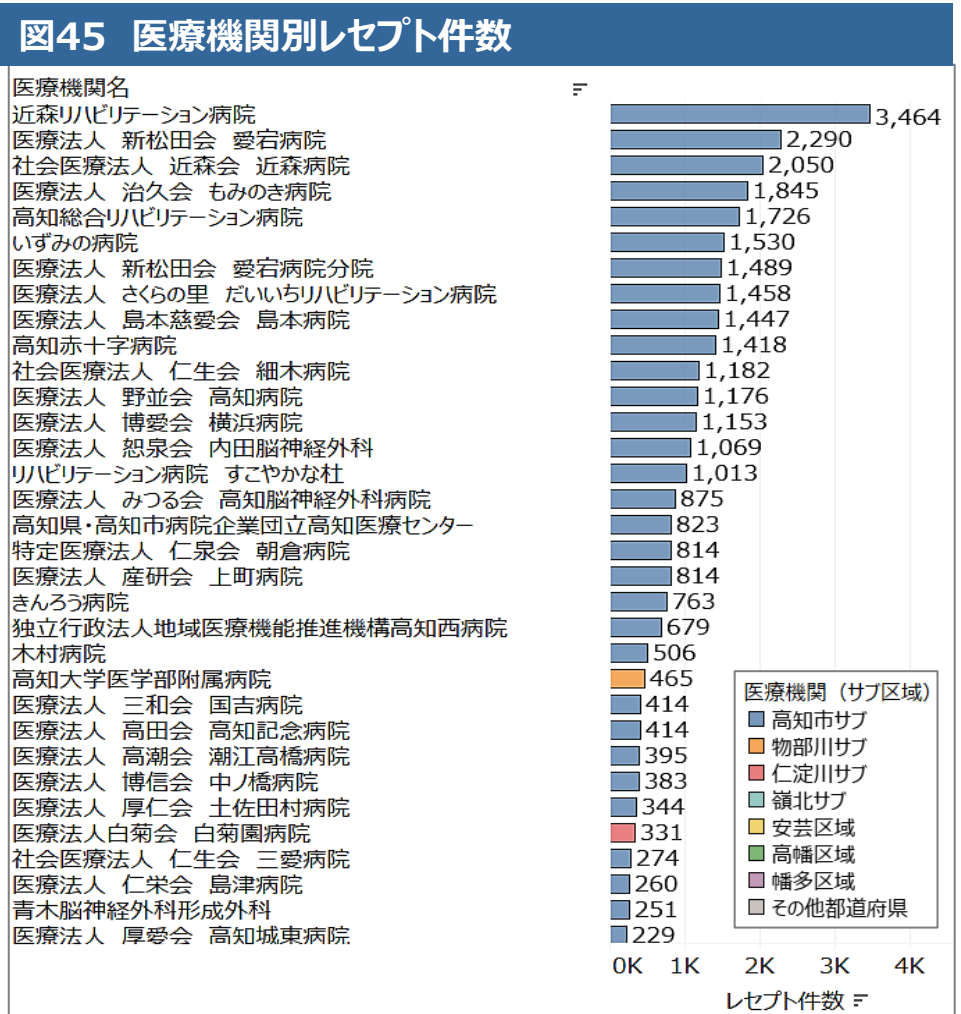
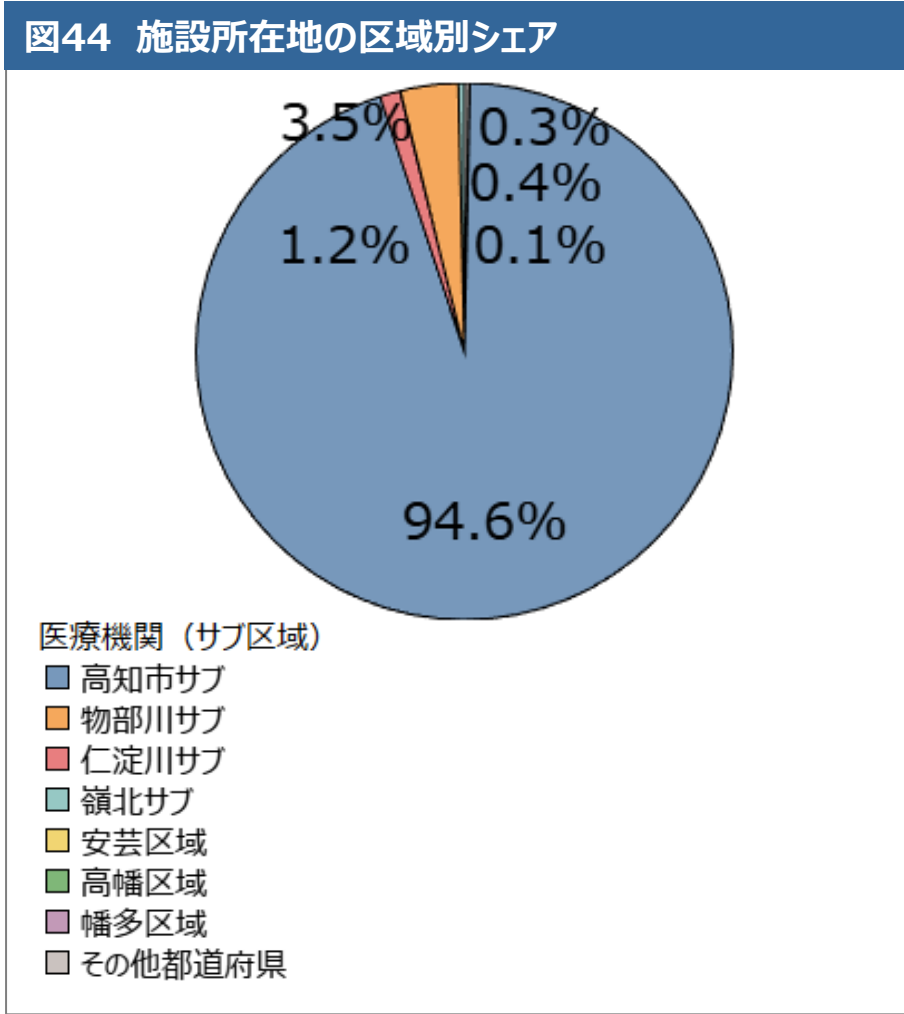
がん治療における、入院レセプト数のシェアは約81%となっている。レセプト数の多い医療機関は、高知医療センター、次いで、高知大学医学部附属病院、高知赤十字病院となっている。



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

5大疾病：脳血管疾患（約95%）

脳血管治療における、レセプト数のシェアは約95%となっている。レセプト数の多い医療機関は、近森リハビリテーション病院、次いで、愛宕病院、近森病院となっている。



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

5大疾病：心疾患全体（虚血性心疾患を含む）（約93%）

心疾患全体における、レセプト数のシェアは約93%となっている。レセプト数の多い医療機関は、近森病院、次いで、岡林病院、細木病院となっている。

図46 施設所在地の区域別シェア

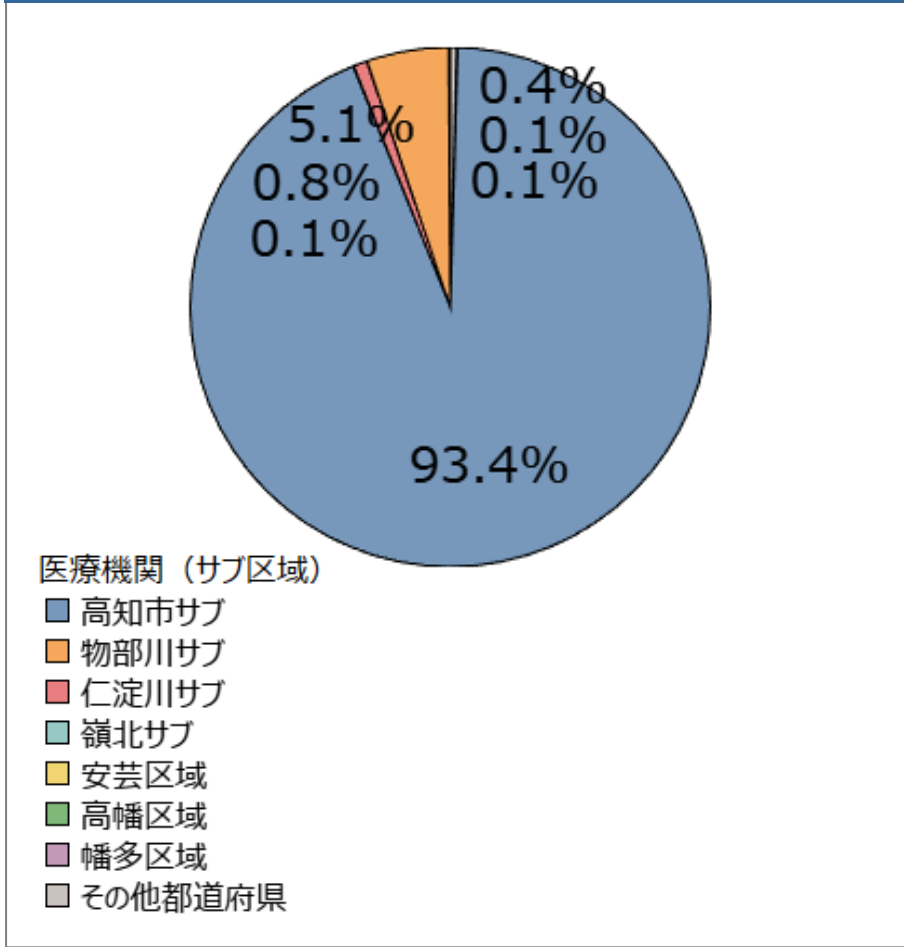
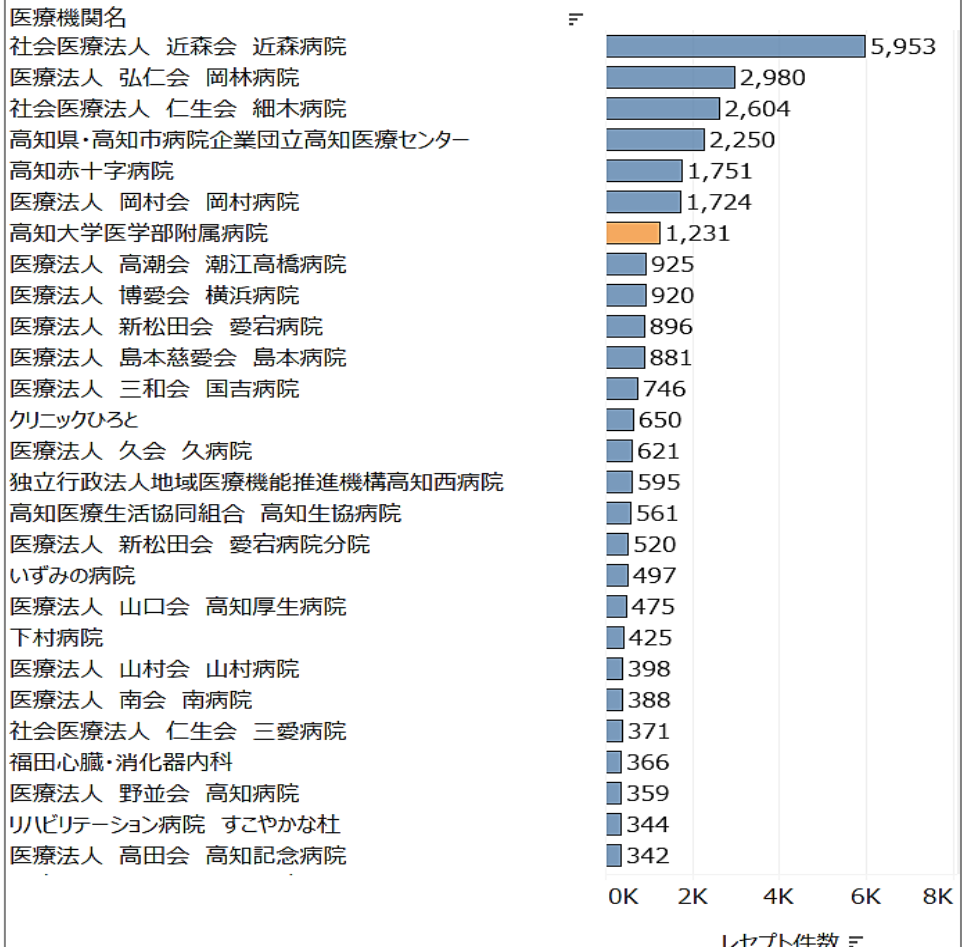


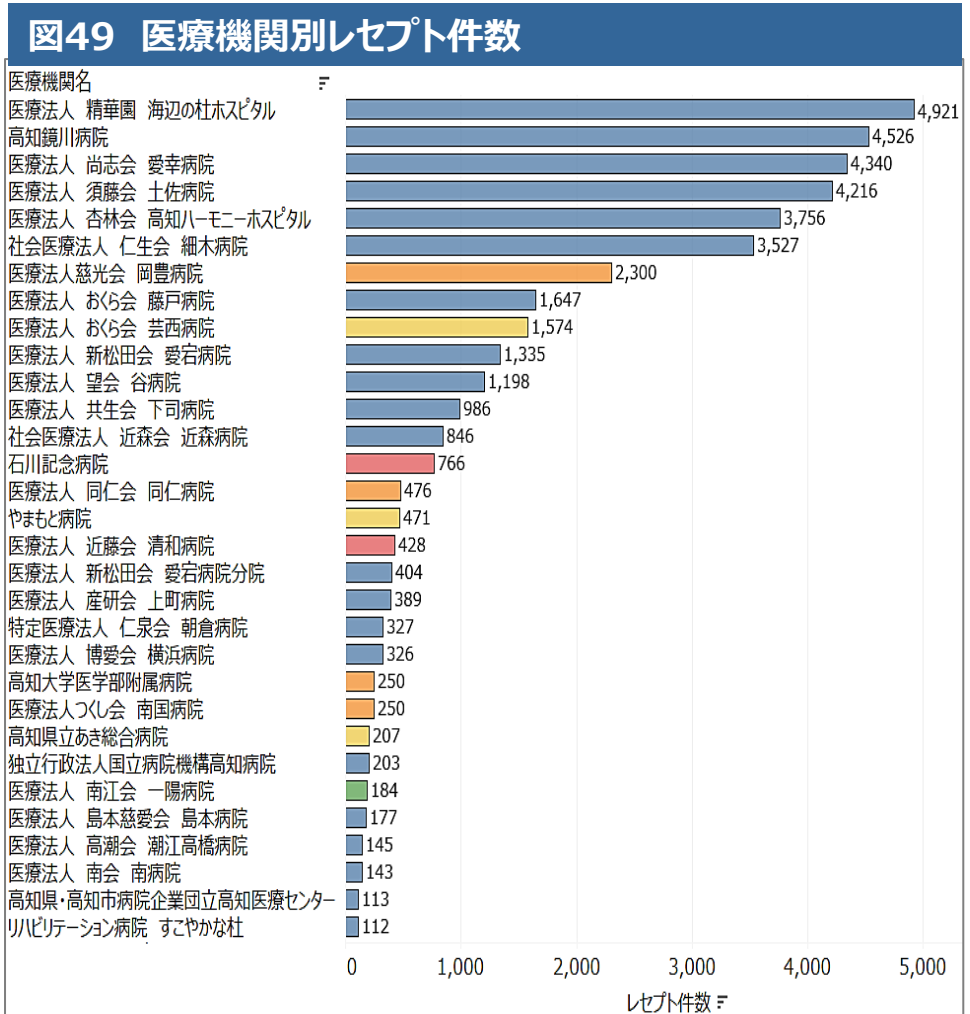
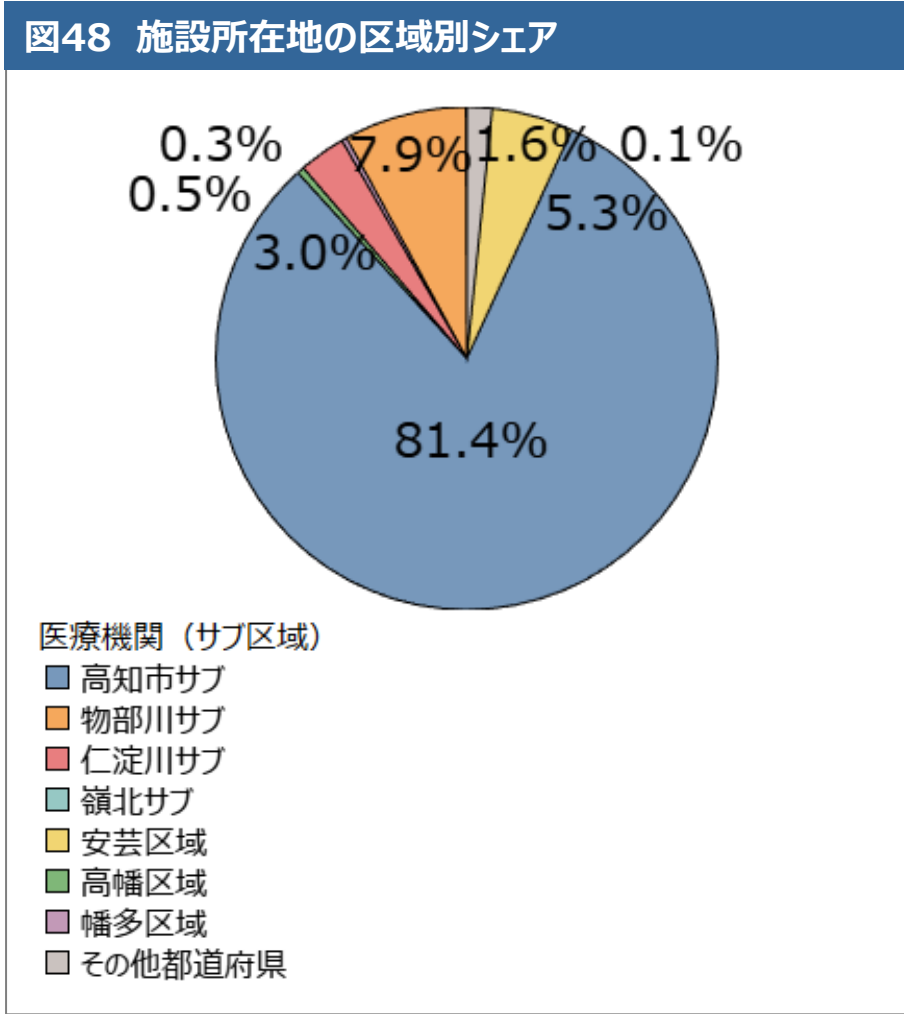
図47 医療機関別レセプト件数



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

5大疾病：精神疾患（約81%）

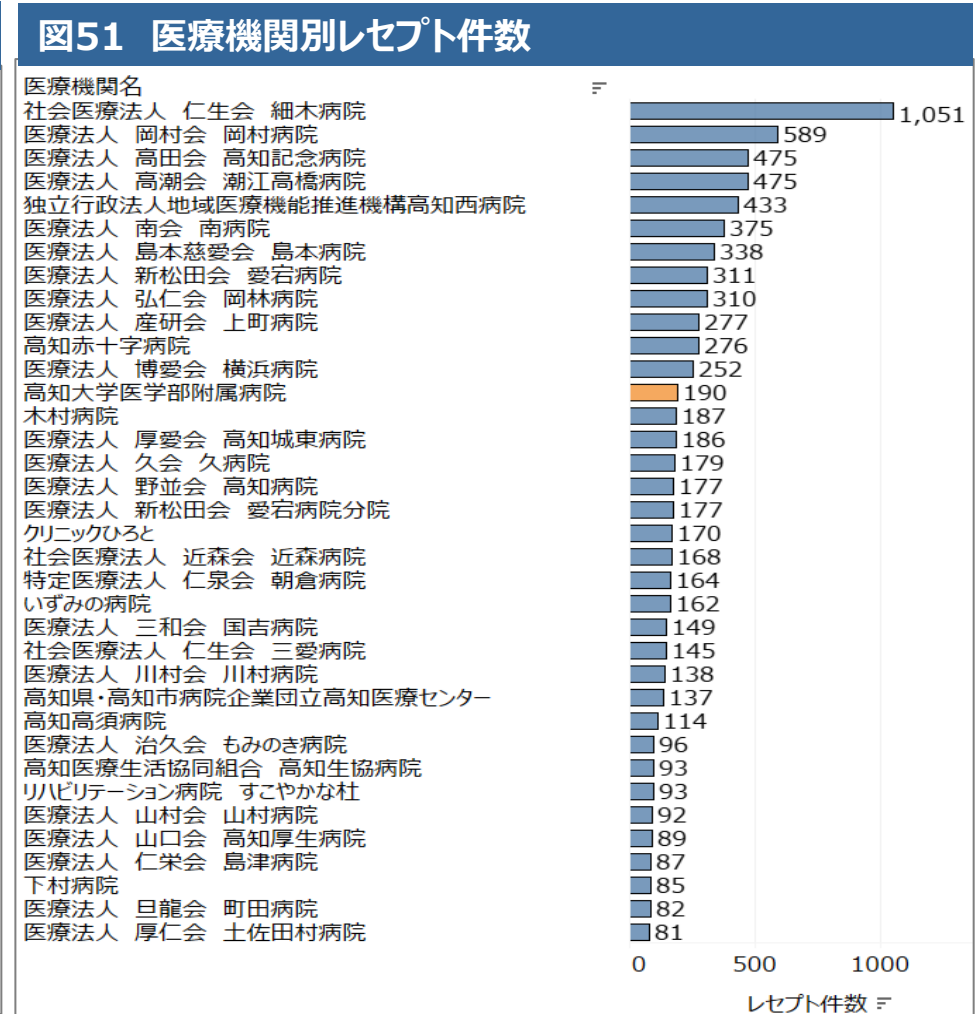
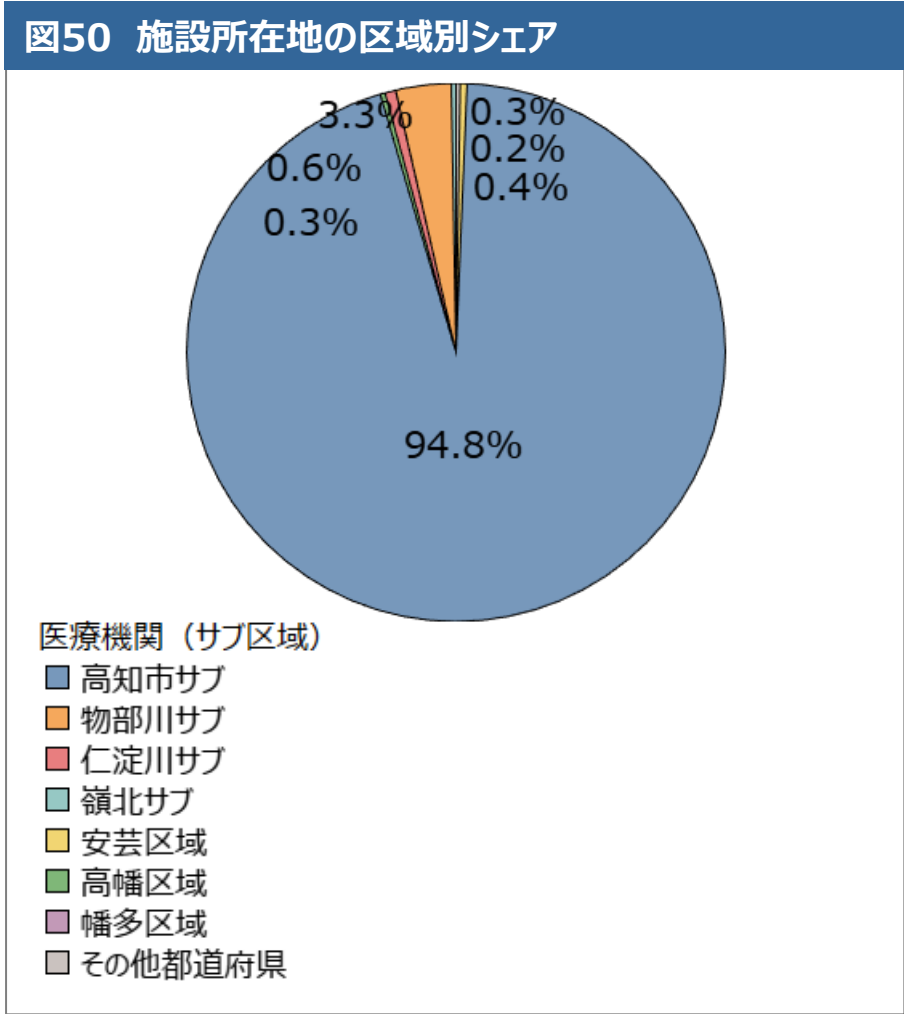
精神疾患における、レセプト数のシェアは約81%となっている。レセプト数の多い医療機関は、海辺の杜ホスピタル、次いで、高知鏡川病院、愛幸病院となっている。



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

5大疾病：糖尿病（約95%）

糖尿病における、レセプト数のシェアは約95%となっている。レセプト数の多い医療機関は、細木病院、次いで、岡村病院、高知記念病院となっている。



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

高知市サブ区域を住居地とする患者の手術件数とその割合（5年間）

図表52より、高知市サブ区域に居住する患者における、高知市サブ区域の医療機関の手術した件数は147,741件となっており、図表53より、高知市サブ区域は自区域の患者の約87%に対応していることがわかる。

図表52 各区域に居住する患者の手術件数と実施区域の内訳（5年分）

保険者所在地	高知市サブ		物部川サブ		仁淀川サブ		嶺北サブ		医療機関(サブ区域) 安芸区域		高幡区域		幡多区域		其他都道府県		総計	
	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K
高知市サブ	147,741		17,139		1,800		36		110		99		101		2,960		169,986	
物部川サブ	34,119		37,150		221		11		266		37		11		787		72,602	
仁淀川サブ	32,138		4,646		15,819		6		26		287		30		687		53,639	
嶺北サブ	5,033		2,673		98		1,124		1		6		1		119		9,055	
安芸区域	12,858		8,658		55		2		16,168		16		27		2,223		40,007	
高幡区域	19,389		4,570		2,929		1		5		12,687		339		1,778		41,698	
幡多区域	8,651		4,220		135				12		1,621		36,450		3,732		54,821	
総計	259,909		79,055		21,057		1,180		16,588		14,753		36,959		12,286		441,787	
	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K
	手術回数		手術回数		手術回数		手術回数		手術回数		手術回数		手術回数		手術回数		手術回数	

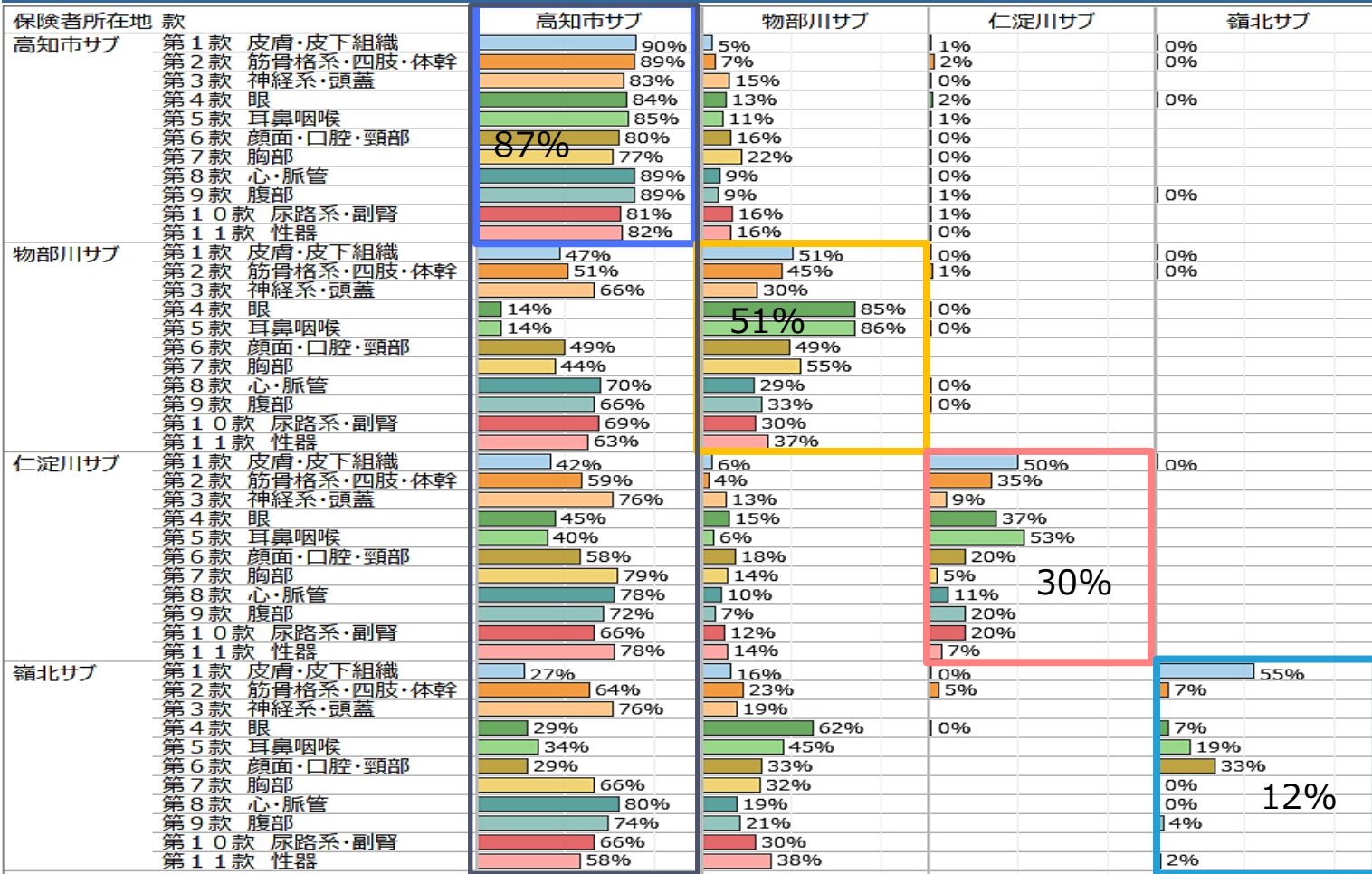
図表53 各区域に居住する患者における手術件数の割合(%)（5年分）

保険者所在地	高知市サブ		物部川サブ		仁淀川サブ		嶺北サブ		医療機関(サブ区域) 安芸区域		高幡区域		幡多区域		其他都道府県		総計	
	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K	OK	500K
高知市サブ	86.9%		10.1%		1.1%		0.0%		0.1%		0.1%		0.1%		1.7%		100.0%	
物部川サブ	47.0%		51.2%		0.3%		0.0%		0.4%		0.1%		0.0%		1.1%		100.0%	
仁淀川サブ	59.9%		8.7%		29.5%		0.0%		0.0%		0.5%		0.1%		1.3%		100.0%	
嶺北サブ	55.6%		29.5%		1.1%		12.4%		0.0%		0.1%		0.0%		1.3%		100.0%	
安芸区域	32.1%		21.6%		0.1%		0.0%		40.4%		0.0%		0.1%		5.6%		100.0%	
高幡区域	46.5%		11.0%		7.0%		0.0%		0.0%		30.4%		0.8%		4.3%		100.0%	
幡多区域	15.8%		7.7%		0.2%				0.0%		3.0%		66.5%		6.8%		100.0%	

各区域の傷病別レセプトからみた手術完結率（約87％）

図表54より、5年間のレセプト件数の集計において、高知市サブ区域を住居地とする患者の手術件数の割合について、高知市サブ区域の医療機関の割合をみた場合、全ての部位の手術において、そのほとんどをカバーしており、一部が物部川サブ区域で施術されていることがわかる。また、他区域の医療機関では実施できていない手術をカバーしている様子が見える。

図表54 各区域に居住する患者の部位別手術の完結率と実施区域の内訳（5年分）



医療機関（サブ区域）

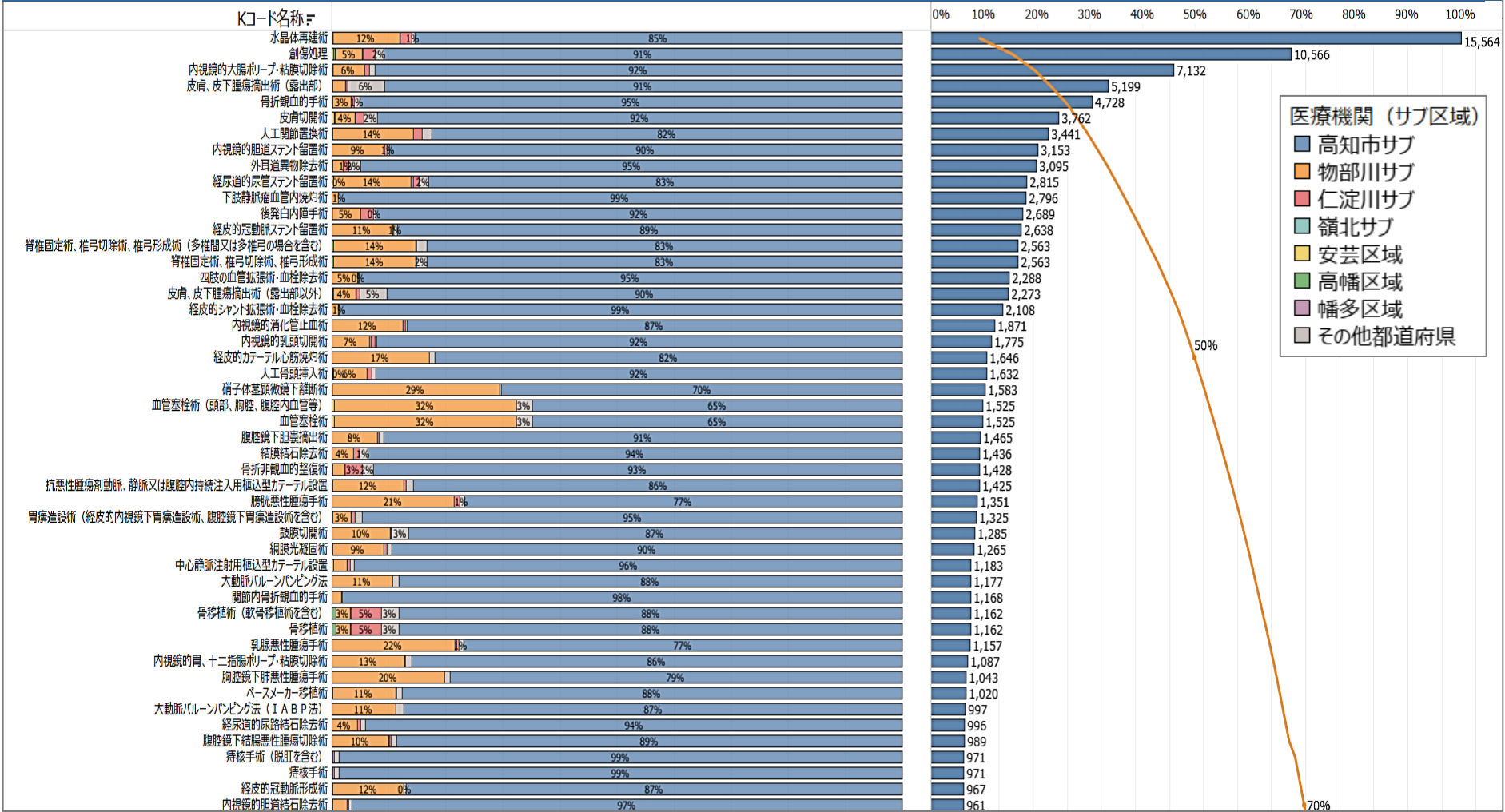
- 高知市サブ
- 物部川サブ
- 仁淀川サブ
- 嶺北サブ

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各手術件数と高知市サブ区域の完結率①（0-70%）

図表55は高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数を、ランキング形式で示しており、あわせて実施区域の割合も示している。ほぼ全ての症例でカバーできており、一部、物部川サブ区域に依存している状態がわかる。

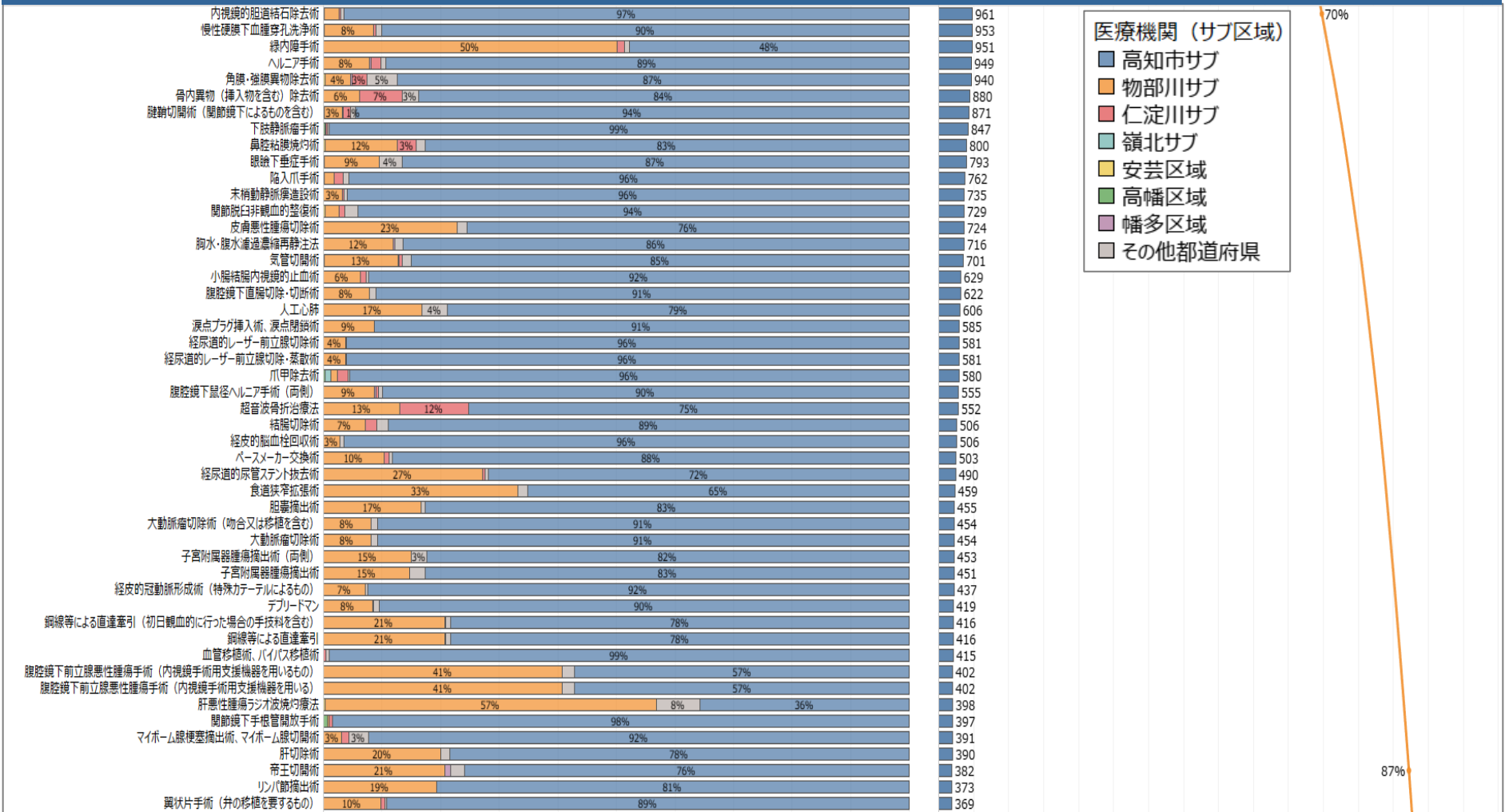
図表55 高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数と担当区域内訳



各手術件数と高知市サブ区域の完結率②（71-87%）

図表56は高知市サブ区域を居住地とする患者の手術数を、ランキング形式で示しており、あわせて実施区域の割合も示している。ほぼ全ての症例でカバーできており、一部、物部川サブ区域に依存している状態がわかる。

図表56 高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数と担当区域内訳



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各手術件数と高知市サブ区域の完結率③（87-94%）

図表57は高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数を、ランキング形式で示しており、あわせて実施区域の割合も示している。ほぼ全ての症例でカバーできており、一部、物部川サブ区域に依存している状態がわかる。

図表57 高知市サブ区域を居住地とする患者の手術件数と担当区域内訳



3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各入院基本料の流出状況

図表58、は高知市サブ区域を住居地とする患者が入院した医療機関について、各区域で集計したものである。すべての機能病床において、高知市サブ区域の入院レセプト数が多いことがわかる。一部、物部川サブ区域にレセプトが計上されているが、そのほとんどが高知大学医学部附属病院の診療と思われる。一部で県外での診療が認められる。

図表58 高知市サブ区域を居住地とする患者の医療機能別入院レセプトの内訳										
病床機能	入院料	総計	医療機関（サブ区域）							
			高知市サブ	物部川サブ	仁淀川サブ	嶺北サブ	安芸区域	高幡区域	幡多区域	その他都道府県
高度急性期	HCU	6,576	6,216	297			1			62
	ICU	4,597	3,451	1,058					4	84
	SCU	1,630	1,441	182						7
	救命救急	6,616	6,583							33
	新生児治療回復室	69	33	35						1
	新生児集中	20	14							6
	新生児特定集中	104	74	28						2
	母体・胎児集中	4	4							
急性期	DPC	19,864	17,660	1,875	111		14	17	8	179
	急性期一般	56,250	54,719	725	310	53	33	45	22	343
	小児入院	1,011	660	284					2	65
	専門病院（一般）	47								47
	短期滞在	4,699	4,672	7	5				2	13
	特定機能病院	1,676		1,601						75
回復期	回復期リハ	26,359	25,719	335	175		5	16	6	103
	地域一般	3,854	3,738		28			22	8	58
	地域包括	28,342	26,759	1,031	286	5	30	32	33	166
慢性期	一般特別	1,616	1,506	25	46	2	5	2	2	28
	緩和ケア	3,411	3,394					4		13
	障害	30,334	29,033	802	395		4			100
	特殊疾患	7,517	3,986	2,938	536				57	
	療養	71,428	65,758	3,662	1,381	252	191	70	15	99
	児童・思春期	13								13
精神	精神一般	25,045	20,251	1,984	503		1,946	36	101	224
	精神科急性期	3,137	3,074						39	24
	精神科救急	774	750							24
	精神科合併症	3								3
	精神科療養	20,146	16,435	2,051	725		580	113	19	223
	地域移行	254	254							
	特定機能病院（精神）	461		458						3
	認知症	2,042	1,675	222			66	62	16	1
有床診療所	有床一般	12,118	11,246	130	419	5	6	195	7	110
	有床療養	1								1
不明	不明	92,332	78,175	12,005	548	5	132	59	59	1,349
感染・結核	結核	243	240				2			1
総計		387,394	344,086	30,466	5,407	314	2,942	640	371	3,168

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各入院基本料の医療施設別件数①総数

図表59は、高知市サブ区域の住民患者のレセプトについて、医療施設別に回復期、急性期レセプトの合計値をランキングしたものである。

図表59 医療施設別の病床機能入院レセプトの内訳

		病床機能 / 入院料						
医療機関名	医療機関 (サブ..	総計	回復期		地域包括	DPC	急性期	小児入院
			回復期リハ				急性期一般	
総計		116,730	26,354	28,342		19,840	56,227	1,010
医療法人 新松田会 愛宕病院	高知市サブ	10,964	2,110				9,554	
社会医療法人 近森会 近森病院	高知市サブ	8,365		1,792		6,814	1,339	
高知医療生活協同組合 高知生協病院	高知市サブ	6,936		4,510			4,188	
社会医療法人 仁生会 細木病院	高知市サブ	6,703	2,325	3,663		1,197	504	24
医療法人 岡村会 岡村病院	高知市サブ	6,038		2,520			3,722	
独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院	高知市サブ	5,075	2,135	1,362			2,604	
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	高知市サブ	4,517				3,447	1,035	302
医療法人 さくらの里 たいいちリハビリテーション病院	高知市サブ	4,394	2,542	15			2,652	
近森リハビリテーション病院	高知市サブ	4,318	4,318					
医療法人 三和会 国吉病院	高知市サブ	3,982		1,380			3,413	
高知赤十字病院	高知市サブ	3,885				2,981	1,019	209
いずみの病院	高知市サブ	3,660	2,556			1,175	956	
医療法人 野並会 高知病院	高知市サブ	3,298	2,400				1,677	
医療法人 治久会 もみのき病院	高知市サブ	3,085					3,085	
近森オールリハビリテーション病院	高知市サブ	2,973	1,837	866			801	
医療法人 仁栄会 島津病院	高知市サブ	2,791		507			2,500	
医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院	高知市サブ	2,619	990	443			1,776	
医療法人 伊野部会 高知整形・脳外科病院	高知市サブ	2,618	1,194				1,858	
医療法人 川村会 川村病院	高知市サブ	2,387		1,182			1,659	
リハビリテーション病院 すこやかな杜	高知市サブ	2,371	2,371					
医療法人 山村会 山村病院	高知市サブ	2,278		2,278				
医療法人 久会 関南病院	高知市サブ	2,001		1,402		740	286	
医療法人 緑風会 海里マリン病院	高知市サブ	1,988	936				1,425	
	物部川サブ	1,846				1,617		232
医療法人 高田会 高知記念病院	高知市サブ	1,844		665			1,379	
独立行政法人国立病院機構高知病院	高知市サブ	1,825				1,065	986	125
医療法人 みつる会 高知脳神経外科病院	高知市サブ	1,761					1,761	
医療法人 山口会 高知厚生病院	高知市サブ	1,726		657			1,206	
医療法人 永島会 永井病院	高知市サブ	1,568		1,568				
高知高須病院	高知市サブ	1,424		1,027		218	417	
医療法人 旦龍会 町田病院	高知市サブ	1,408					1,408	
特定医療法人竹下会 竹下病院	高知市サブ	1,368		485			993	
	物部川サブ	1,169		834		257	316	52
	物部川サブ	684	314	152			314	
医療法人 薫風会 毛山病院	高知市サブ	354					354	
社会医療法人 仁生会 三愛病院	高知市サブ	319		319				
	仁淀川サブ	312		217		108	108	
	仁淀川サブ	201		28			189	
	仁淀川サブ	175	175					
	物部川サブ	120	21	45			81	

3.入院レセプトと手術の完結率：高知市サブ区域

各入院基本料の医療施設別件数②DPC

図表60は、DPC入院レセプト算定回数が多い医療施設を表示している。DPC算定回数が多く、かつ回復期の算定回数が少ない医療施設は退院、または回復期の医療施設に転院させていることが予想される。

図表60 医療施設別の病床機能入院レセプトの内訳：DPC件数のランキング

医療機関名	医療機関（サブ..	総計	回復期		DPC ㊦	急性期 急性期一般	小児入院
			回復期Ⅷ	地域包括			
総計		116,730	26,354	28,342	19,840	56,227	1,010
社会医療法人 近森会 近森病院	高知市サブ	8,365		1,792	6,814	1,339	
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	高知市サブ	4,517			3,447	1,035	302
高知赤十字病院	高知市サブ	3,885			2,981	1,019	209
	物部川サブ	1,846			1,617		232
社会医療法人 仁生会 細木病院	高知市サブ	6,703	2,325	3,663	1,197	504	24
いずみの病院	高知市サブ	3,660	2,556		1,175	956	
独立行政法人国立病院機構高知病院	高知市サブ	1,825			1,065	986	125
医療法人 久会 岡南病院	高知市サブ	2,001		1,402	740	286	
	物部川サブ	1,169		834	257	316	52
高知高須病院	高知市サブ	1,424		1,027	218	417	
	仁淀川サブ	312		217	108	108	
	安芸区域	35		28	14	6	
	高幡区域	26	10	15	12		
	その他都道府県	13		4	11		
	幡多区域	15			8	9	2
	その他都道府県	26			7		20
	その他都道府県	19		2	6		15
	その他都道府県	12		2	6	6	
	その他都道府県	7			6	1	
	その他都道府県	5			5		

各入院基本料の医療施設別件数③急性期一般

図表61は、急性期一般入院の算定回数が多く、回復期算定回数が少ない医療施設は、リハビリ目的で他院に転院させている可能性が高いと考えられる。急性期一般の算定回数が多く、かつ、回復期の算定回数が少ない医療施設は退院、または転院させていることが予想される。

図表61 医療施設別の病床機能入院レセプトの内訳：急性期一般件数のランキング

医療機関名	医療機関（サブ..	総計	回復期		DPC	急性期	小児入院
			回復期リハ	地域包括		急性期一般	
総計		116,730	26,354	28,342	19,840	56,227	1,010
医療法人 新松田会 愛宕病院	高知市サブ	10,964	2,110			9,554	
高知医療生活協同組合 高知生協病院	高知市サブ	6,936		4,510		4,188	
医療法人 岡村会 岡村病院	高知市サブ	6,038		2,520		3,722	
医療法人 三和会 国吉病院	高知市サブ	3,982		1,380		3,413	
医療法人 治久会 もみのき病院	高知市サブ	3,085				3,085	
医療法人 さくらの里 だいいちリハビリテーション病院	高知市サブ	4,394	2,542	15		2,652	
独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院	高知市サブ	5,075	2,135	1,362		2,604	
医療法人 仁栄会 島津病院	高知市サブ	2,791		507		2,500	
医療法人 伊野部会 高知整形・脳外科病院	高知市サブ	2,618	1,194			1,858	
医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院	高知市サブ	2,619	990	443		1,776	
医療法人 みつる会 高知脳神経外科病院	高知市サブ	1,761				1,761	
医療法人 野並会 高知病院	高知市サブ	3,298	2,400			1,677	
医療法人 川村会 川村病院	高知市サブ	2,387		1,182		1,659	
医療法人 緑風会 海里マリン病院	高知市サブ	1,988	936			1,425	
医療法人 巨龍会 町田病院	高知市サブ	1,408				1,408	
医療法人 高田会 高知記念病院	高知市サブ	1,844		665		1,379	
社会医療法人 近森会 近森病院	高知市サブ	8,365		1,792	6,814	1,339	
医療法人 山口会 高知厚生病院	高知市サブ	1,726		657		1,206	
高知県・高知市病院企業団立高知医療センター	高知市サブ	4,517			3,447	1,035	302
高知赤十字病院	高知市サブ	3,885			2,981	1,019	209
特定医療法人竹下会 竹下病院	高知市サブ	1,368		485		993	
独立行政法人国立病院機構高知病院	高知市サブ	1,825			1,065	986	125
いずみの病院	高知市サブ	3,660	2,556		1,175	956	
近森オルソリハビリテーション病院	高知市サブ	2,973	1,837	866		801	
社会医療法人 仁生会 細木病院	高知市サブ	6,703	2,325	3,663	1,197	504	24
高知高須病院	高知市サブ	1,424		1,027	218	417	
医療法人 薫風会 毛山病院	高知市サブ	354				354	
	物部川サブ	1,169		834	257	316	52
	物部川サブ	684	314	152		314	
医療法人 久会 國南病院	高知市サブ	2,001		1,402	740	286	
	仁淀川サブ	201		28		189	
	仁淀川サブ	312		217	108	108	
	物部川サブ	120	21	45		81	
特定医療法人 仁泉会 朝倉病院	高知市サブ	66				66	
	嶺北サブ	56		5		53	
医療法人 南会 南病院	高知市サブ	37				37	
下村病院	高知市サブ	33				33	
	安芸区域	31	5	2		27	
	高幡区域	31		14		23	
	高幡区域	31	6	3	5	22	

各入院基本料の医療施設別件数④回復期リハビリ

図表62によると、急性期入院の算定回数が少なく、かつ、回復期リハビリ入院の算定回数が多い医療施設は、急性期病院から転院患者の紹介を受けている回復期リハビリテーション機能を中心とした医療施設であることが予想される。

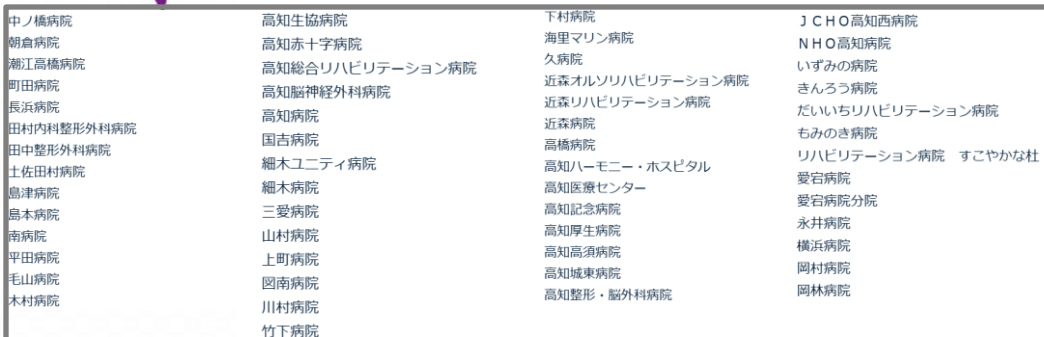
図表62 医療施設別の病床機能入院レセプトの内訳：回復期リハ件数のランキング							
医療機関名	医療機関（サブ..	総計	回復期	地域包括	DPC	急性期	小児入院
			回復期リハ			急性期一般	
総計		116,730	26,354	28,342	19,840	56,227	1,010
近森リハビリテーション病院	高知市サブ	4,318	4,318				
いずみの病院	高知市サブ	3,660	2,556		1,175	956	
医療法人 さくらの里 だいいちリハビリテーション病院	高知市サブ	4,394	2,542	15		2,652	
医療法人 野並会 高知病院	高知市サブ	3,298	2,400			1,677	
リハビリテーション病院 すこやかな杜	高知市サブ	2,371	2,371				
社会医療法人 仁生会 細木病院	高知市サブ	6,703	2,325	3,663	1,197	504	24
独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院	高知市サブ	5,075	2,135	1,362		2,604	
医療法人 新松田会 愛宕病院	高知市サブ	10,964	2,110			9,554	
近森オルソリハビリテーション病院	高知市サブ	2,973	1,837	866		801	
医療法人 伊野部会 高知整形・脳外科病院	高知市サブ	2,618	1,194			1,858	
医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院	高知市サブ	2,619	990	443		1,776	
医療法人 緑風会 海里マリン病院	高知市サブ	1,988	936			1,425	
	物部川サブ	684	314	152		314	
	仁淀川サブ	175	175				
	物部川サブ	120	21	45		81	
	高幡区域	26	10	15	12		
	その他都道府県	8	8		2		
	その他都道府県	7	7				
	その他都道府県	9	6	4			
	幡多区域	20	6	6		11	
	その他都道府県	6	6				
	その他都道府県	7	6		2		
	高幡区域	31	6	3	5	22	
	その他都道府県	5	5				
	安芸区域	31	5	2		27	

各入院基本料の医療施設別件数⑤地域包括ケア

図表63によると、急性期入院の算定回数が少なく、かつ地域包括ケア入院の算定回数が多い医療施設は、急性期病院から転院患者の紹介を受けている回復期を中心とした医療施設であることが予想される。

図表63 医療施設別の病床機能入院レセプトの内訳：地域包括ケア加算の件数ランキング

医療機関名	医療機関（サブ..	総計	回復期		DPC	急性期 急性期一般	小児入院
			回復期リハ	地域包括ケア			
総計		116,730	26,354	28,342	19,840	56,227	1,010
高知医療生活協同組合 高知生協病院	高知市サブ	6,936		4,510		4,188	
社会医療法人 仁生会 細木病院	高知市サブ	6,703	2,325	3,663	1,197	504	24
医療法人 岡村会 岡村病院	高知市サブ	6,038		2,520		3,722	
医療法人 山村会 山村病院	高知市サブ	2,278		2,278			
社会医療法人 近森会 近森病院	高知市サブ	8,365		1,792	6,814	1,339	
医療法人 永島会 永井病院	高知市サブ	1,568		1,568			
医療法人 久会 凶南病院	高知市サブ	2,001		1,402	740	286	
医療法人 三和会 国吉病院	高知市サブ	3,982		1,380		3,413	
独立行政法人地域医療機能推進機構高知西病院	高知市サブ	5,075	2,135	1,362		2,604	
医療法人 川村会 川村病院	高知市サブ	2,387		1,182		1,659	
高知高須病院	高知市サブ	1,424		1,027	218	417	
近森オルソリハビリテーション病院	高知市サブ	2,973	1,837	866		801	
	物部川サブ	1,169		834	257	316	52
医療法人 高田会 高知記念病院	高知市サブ	1,844		665		1,379	
医療法人 山口会 高知厚生病院	高知市サブ	1,726		657		1,206	
医療法人 仁栄会 島津病院	高知市サブ	2,791		507		2,500	
特定医療法人竹下会 竹下病院	高知市サブ	1,368		485		993	
医療法人 瑞洋会 田中整形外科病院	高知市サブ	2,619	990	443		1,776	
社会医療法人 仁生会 三愛病院	高知市サブ	319		319			
	仁淀川サブ	312		217	108	108	
	物部川サブ	684	314	152		314	
医療法人 平田会 平田病院	高知市サブ	118		118			
	物部川サブ	120	21	45		81	
	安芸区域	35		28	14	6	
	仁淀川サブ	201		28		189	
	仁淀川サブ	22		22			
	幡豆区域	17		17			
	仁淀川サブ	16		16			
医療法人 さくらの里 だいいちリハビリテーション病院	高知市サブ	4,394	2,542	15		2,652	
	高幡区域	26	10	15	12		
	高幡区域	31		14		23	



4.各区域の医療提供体制 サマリ

【スタッフにおける人的資源の現状】

- 高知市サブ区域のスタッフ数は他区域と比べて明らかに多いが、高知県全体に占める病床数の割合の観点からみると、適当な数値であると考えることができる（61頁）
- **医師（常勤）**の年代別割合においては、**50歳代以上が約52%を占めており**、10年後に一定数の医師が引退することが想定される。しかし、40代以下の若い医師がバランスよく在籍している年齢構成のため、引退に対応して診療体制を維持できると考えられる。ただし、小規模病院、クリニック等は今後、調査が必要となる（62頁）
- **看護師（常勤）**の年代別割合においては、**50歳代以上が31%を占めているが**、40代以下のスタッフの割合が大きいいため、その後を補える体制だと思われる。ただし、小規模病院、クリニック等は今後、調査が必要となる（63頁）

【その他の現状】

- 医師、看護師以外の医療スタッフも中長期において、不足することが想定されが、回復期におけるリハビリスタッフは高知市サブ区域を中心として比較的、確保できている状況であると思われる（64頁）



【医療提供体制における課題】

- 医師、看護師においては、高齢となるスタッフの引退を補える体制であるが、小規模病院クリニック等は今後も調査が必要となる。
- 医師、看護師以外の医療スタッフにおいても、精査する必要がある。

4.各区域の医療提供体制：高知市サブ区域

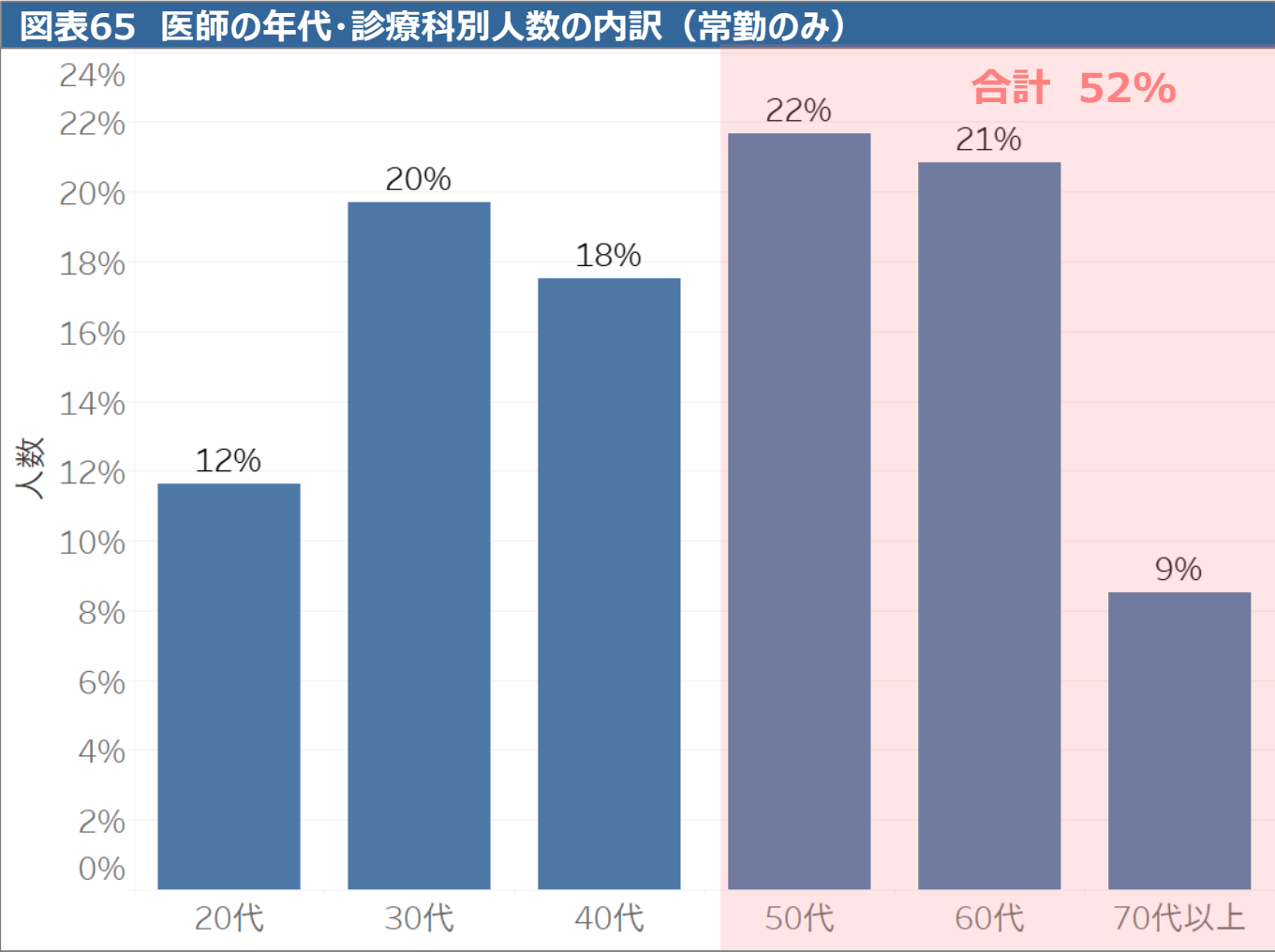
各区域におけるスタッフ数：高知市サブ区域

図表64は、病床報告機能報告から算出したスタッフ数である。高知市サブ区域のスタッフ数は他区域と比べて明らかに多いが、高知県全体に占める病床数の割合の観点からみると、適当な数値であると考えることができる。

図表64 病床機能報告掲載のスタッフ数										
2. 医療圏	3. 医療圏（サブ含む）	医師数	歯科医師数	准看護師数	看護師数	看護補助者数	作業療法士数	理学療法士数	言語聴覚士数	管理栄養士数
安芸	安芸区域	78	1	47	331	99	38	65	17	12
高幡	高幡区域	63	0	56	278	102	31	67	13	10
中央	高知市サブ	955	102	598	4,991	1,328	459	809	209	170
	物部川サブ	431	10	175	1,124	378	55	111	27	32
	仁淀川サブ	108	0	179	514	208	55	93	31	34
	嶺北サブ	25	2	23	83	50	2	9	1	3
幡多	幡多区域	142	1	79	749	276	55	132	21	29
総計		1,802	117	1,157	8,068	2,441	695	1,285	318	290

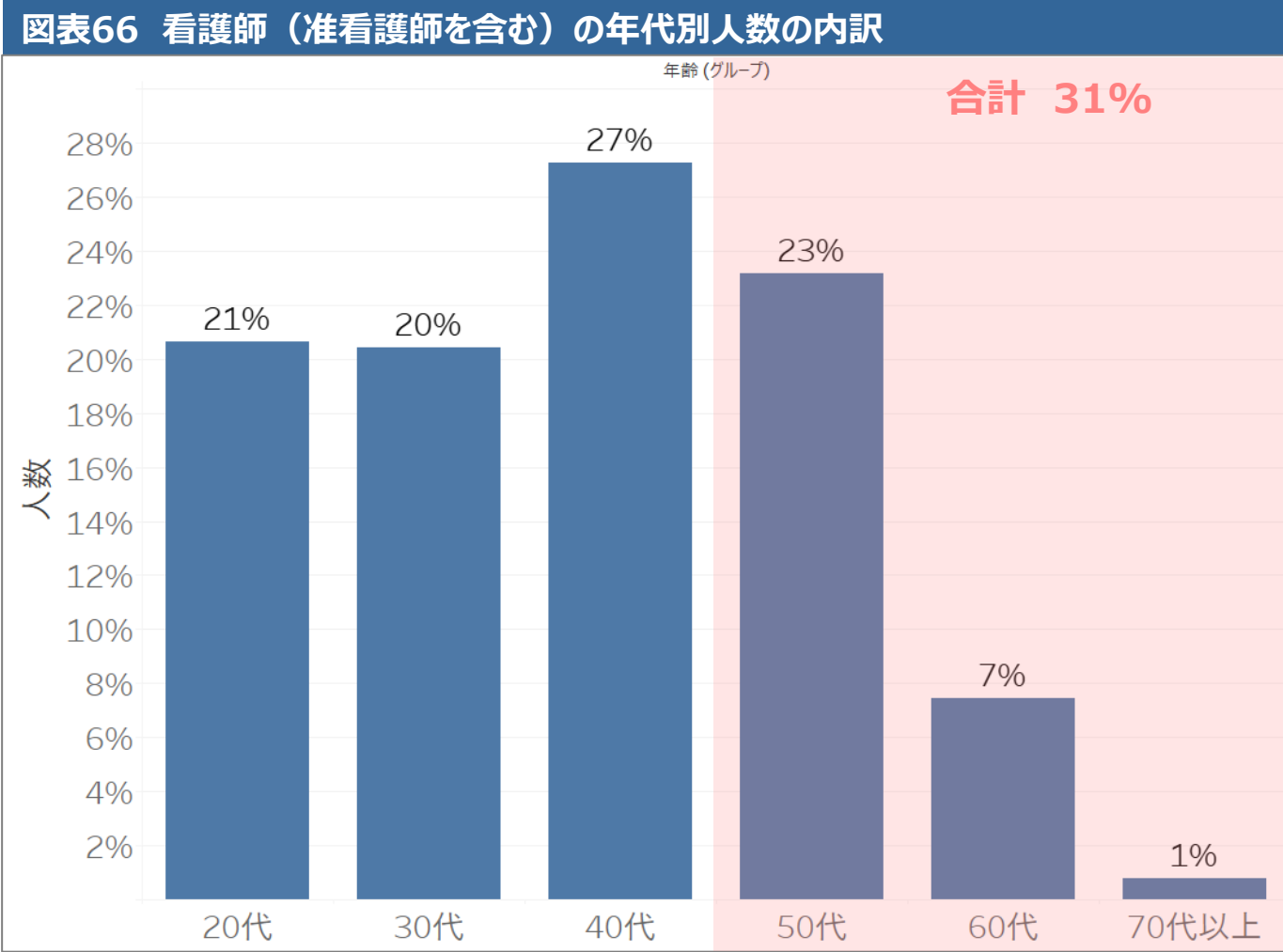
医師（常勤）の年代別人数の割合

図表65によると、**常勤医師のうち50代以上の医師が占める割合は約52%**となり、10年後に一定数の医師が引退することを仮定した場合、次を受け継ぐ世代である50代未満の医師数が重要となる。高知市では若い医師が在籍しているため、医師の引退に対応できると考えられる。**ただし、小規模病院、クリニック等は今後、調査が必要となる。**



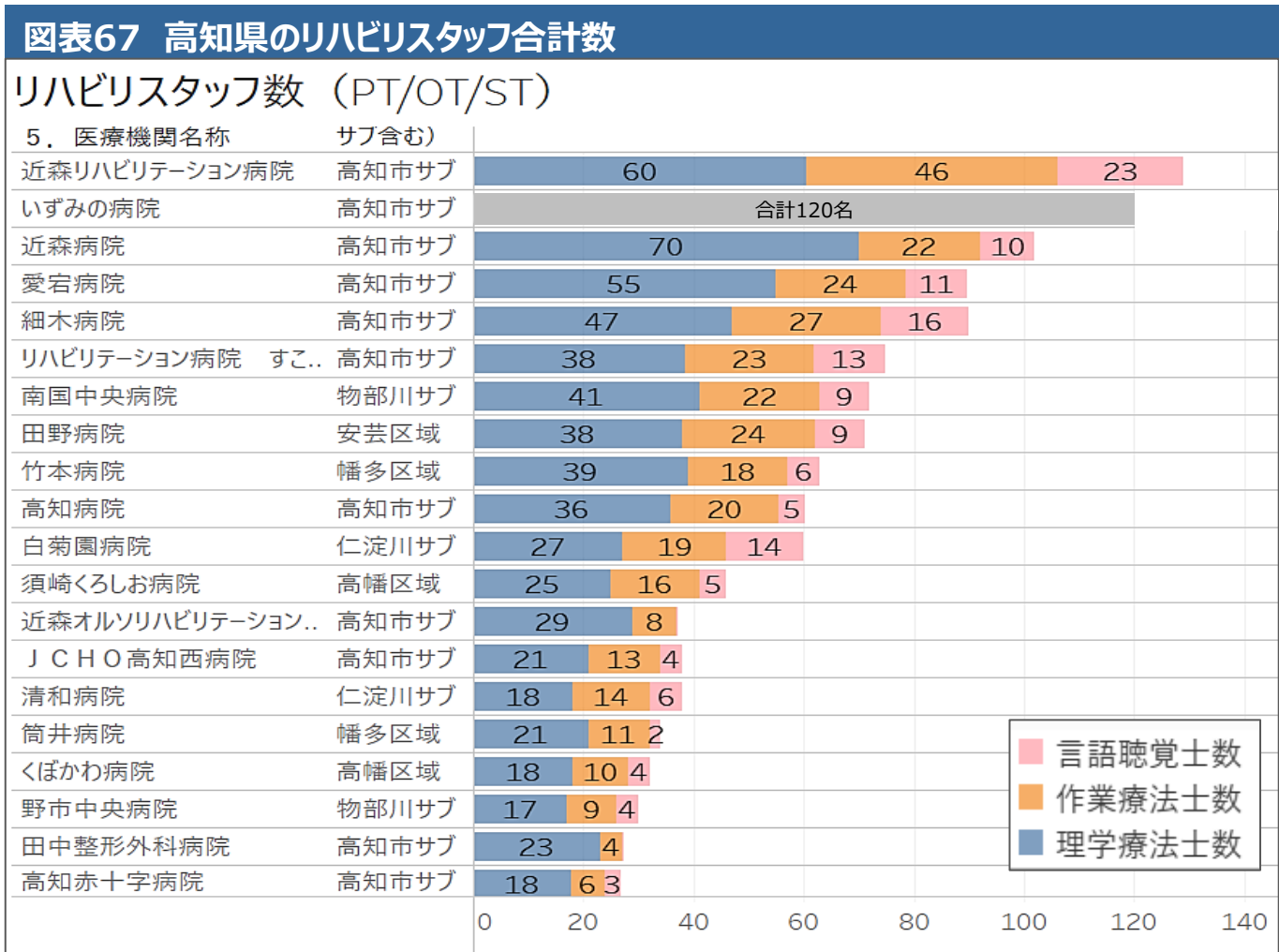
看護師（常勤）の年代別人数の割合

図表66より、高知市サブ区域の総計のヒストグラムをみると、最頻値は40代となっており、40代が中心となって看護業務にあたっていることが分かる。さらに、**50代以上の看護師の割合は31%を占めているが**、50代未満の若い世代の分布が比較的均一であるため、高齢化したスタッフが引退した後にスタッフ数を補える体制だといえる。**ただし、小規模病院、クリニック等は今後、調査が必要となる。**



リハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の総数

図表67は、高知県のリハビリスタッフの合計数を表している。高知市サブ区域を中心にリハビリスタッフが多く配置されていることがわかる。中長期で高知県全体をみた場合、リハビリスタッフが不足することが考えられ、リハビリスタッフの派遣を検討する必要があると思われる。



5.経営指標の経年変化：高知市サブ区域



中ノ橋病院 朝倉病院 瀬江高橋病院 町田病院 長浜病院 田村内科整形外科病院 田中整形外科病院 土佐田村病院 島津病院 島本病院 南病院 平田病院 毛山病院 木村病院	高知生協病院 高知赤十字病院 高知総合リハビリテーション病院 高知脳神経外科病院 高知病院 国古病院 細木ユニティ病院 細木病院 三愛病院 山村病院 上町病院 岡南病院 川村病院 竹下病院	下村病院 海里マリン病院 久病院 近森オルソリハビリテーション病院 近森リハビリテーション病院 近森病院 高橋病院 高知ハーモニー・ホスピタル 高知医療センター 高知記念病院 高知厚生病院 高知高須病院 高知城東病院 高知整形・脳外科病院	JCHO高知西病院 NHO高知病院 いずみの病院 きんろう病院 だいいちリハビリテーション病院 もみのき病院 リハビリテーション病院 すこやかな杜 愛宕病院 愛宕病院分院 永井病院 横浜病院 岡村病院 岡林病院
--	---	--	---

5.経営指標の経年変化 サマリ

【DPCからみる症例の経年変化】

- ・ 退院患者数は、コロナ時（2019年から2020年）に症例数が減少しているが、その後は、横ばいで推移している（67頁）
- ・ 各MDCにおいても大きな減少はみられず、横ばいで推移している（67頁）

【病床稼働率】

- ・ 病床稼働率において、主要病院の稼働率は、**損益分岐点となる80%**を下回る医療機関も散見される。その原因について、単なる患者の減少であるか、それともスタッフが確保できない状況で診療提供できないかを調査する必要がある。（68頁）



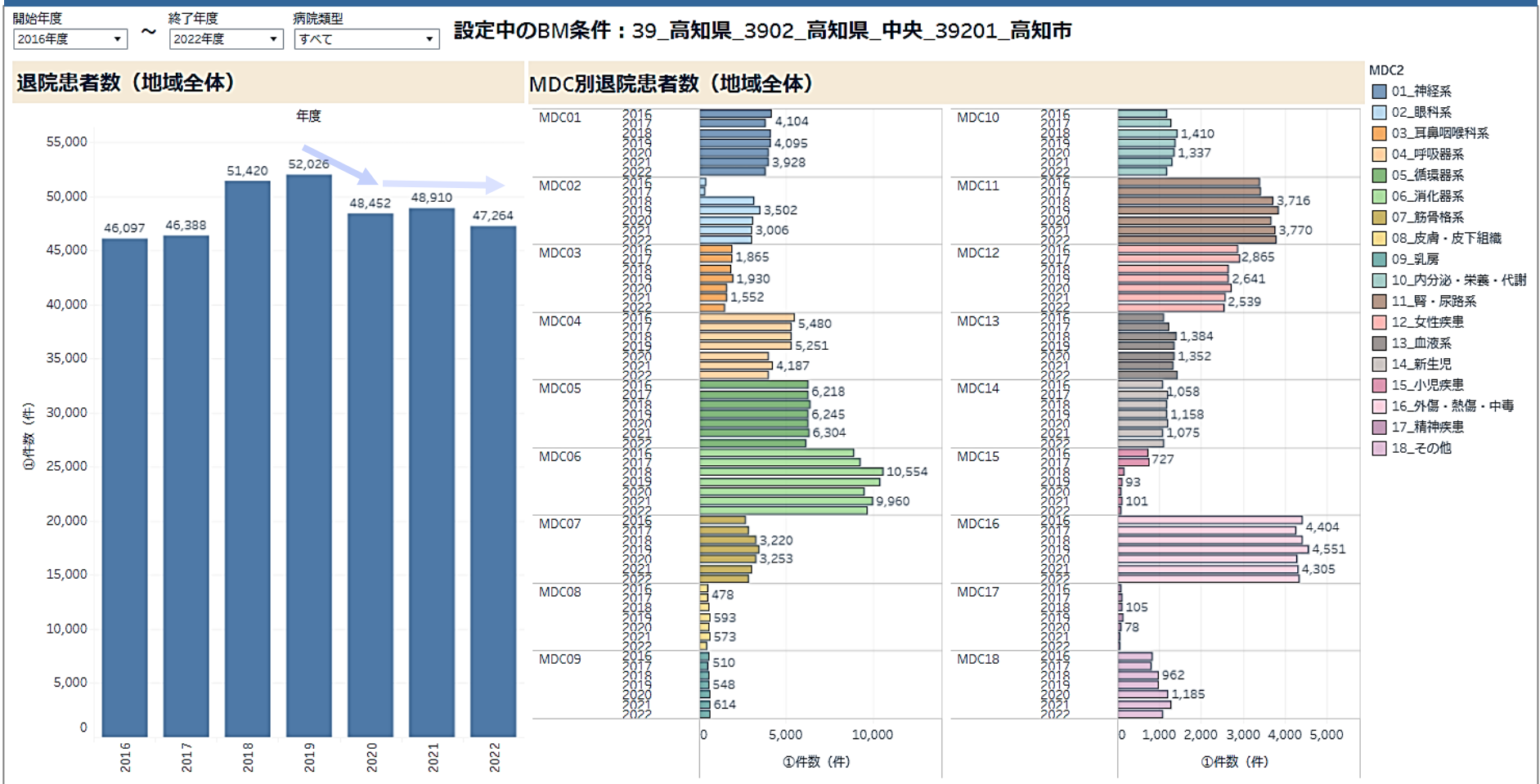
【経営指標における課題】

- ・ 病床稼働率が高い医療施設は、在院日数を精査して評価する必要がある。そして、病床稼働率が低い医療施設においては、今後の患者需要を精査して、病床機能ごとに整理して再編を検討する必要があると思われる。

退院患者数とMDC別患者数の推移

図表68は、高知の医療施設における退院患者数と各MDC症例数の経年推移を表している。コロナ時（2019年から2020年）に症例数が減少しているが、その後は横ばいで推移している。各MDCにおいても大きな減少はみられず、横ばいで推移している。

図表68 退院患者数とMDC別件数の推移



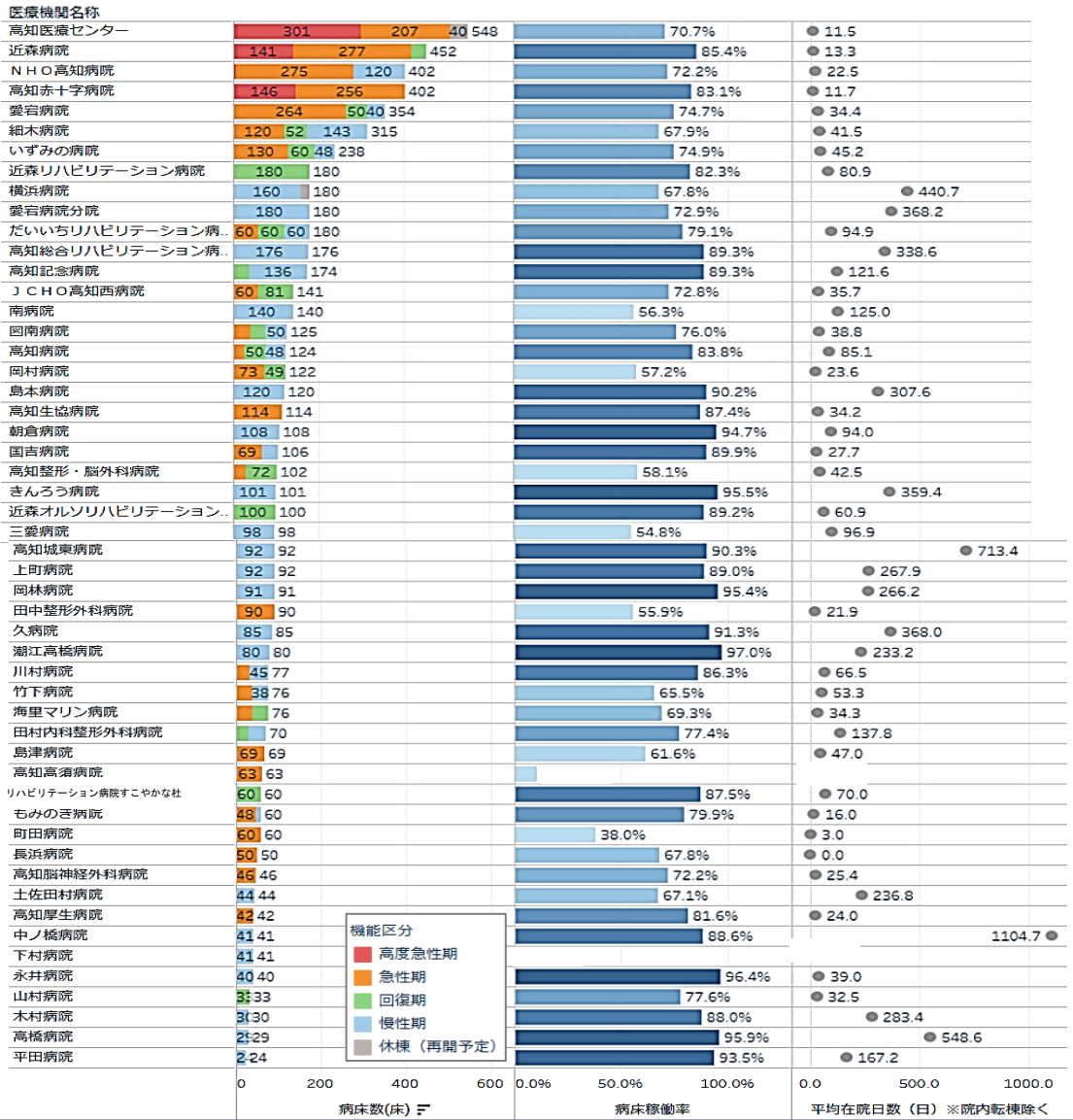
5.経営指標の経年変化：高知市サブ区域

各医療施設の経営指標の概要

図表69 各医療施設の病床稼働率と平均在院日数の

設定中の市区町村：39201_高知市

経営指標_2023年度



図表69によると、高知市サブ区域の医療施設の病床稼働率においては、損益分岐点の基準となる80%を超えていない病院が散見されるため、その原因について、単なる患者の減少であるか、それともスタッフが確保できない状況によって診療提供できていない状況であるかを調査する必要があります。

サマリ 現状と課題の整理

【1.高知県全域における現状と課題】

- ・ 患者の急激な減少を2030年頃と仮定した場合、医療体制を再構築するタイムリミットは**5年後**である。
- ・ 患者需要に対する供給体制の協議は、**重症度の定量調査による精査を必要**とする。
- ・ 救急の搬送件数の増加に対しては、**各医療区域で対応できる症例を見極めて、対応していく**必要がある。

【2.高知市サブ区域における課題】

- ・ 患者減少が2030年から2035年にかけて平均患者数が約500人程度減少する予測である。その後は横ばい、さらに微増で推移する。各医療施設の供給体制を調整する必要があるが、他区域からの流入があるため、慎重に精査する必要がある。
- ・ **救急搬送に対する負荷が高いことが推察される。高度医療が必要とされる患者が重症度に応じて搬送されることが重要となる。**患者需要に対する供給体制の協議は、重症度の定量調査による精査を必要とする。

【3.入院レセプトと手術の完結率における課題】

- ・ 高知市サブ区域が高知県の医療機能の中心となっている。高度な手術や処置を求めて受療する患者が他区域から多く流入している。それによる、負担の増加が懸念される。
- ・ 他区域の流入患者に関しては、高度な治療後に、患者住む居住地の医療機関に連携して治療する体制について協議する必要がある。

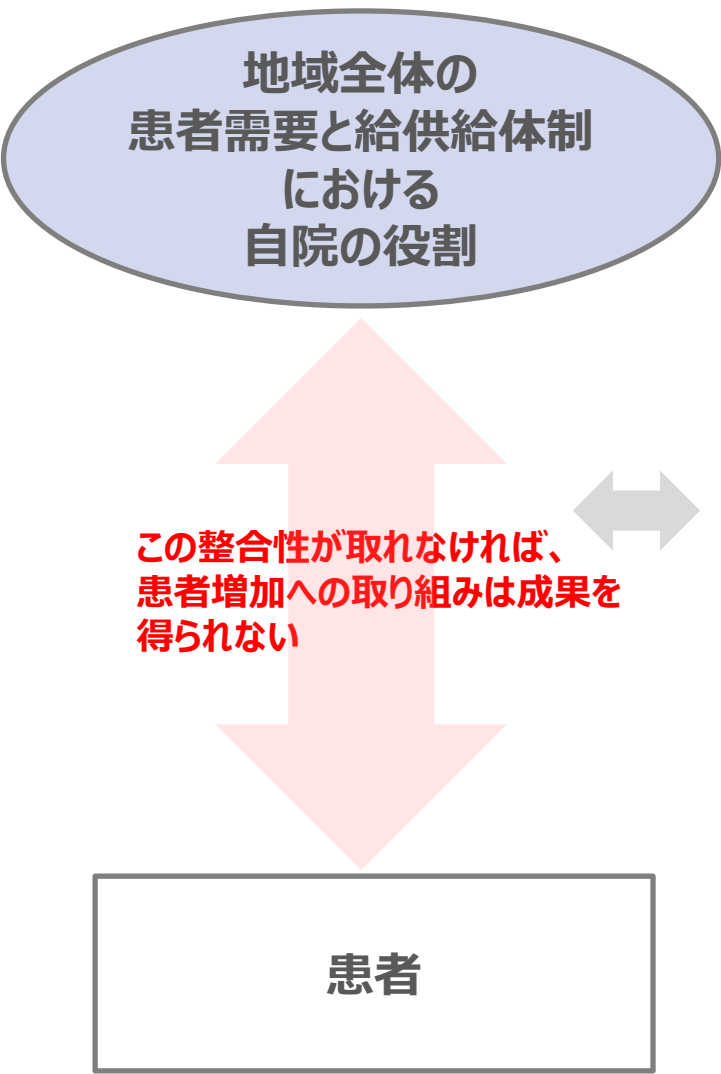
【4.医療提供体制における課題】

- ・ 医師、看護師においては、高齢となるスタッフの引退を補える体制であるが、クリニック等は今後も調査が必要となる。
- ・ 医師、看護師以外の医療スタッフにおいても、精査する必要がある。

【5.経営指標における課題】

- ・ 病床稼働率が高い医療施設は、在院日数を精査して評価する必要がある。そして、病床稼働率が低い医療施設においては、今後の患者需要を精査して、病床機能ごとに整理して再編を検討する必要があると思われる。

今後の課題に対する協議は、未来の医療に対する責任を負う、重要な意思決定であるといえる。



財務指標	経営に与える影響
収益：患者数	- 地域の患者需要に対して、自院の役割と機能が合致していなければ、患者は自院で受療しない。 - 医師や看護師等のスタッフが確保できなければ、患者を受け入れることはできない。 - 患者が減少してしまうと、医師の確保はさらに困難となる。
収益：診療単価	診療報酬に定められる実施要件を満たさなければ、診療単価を高く維持することができない。
費用：給与費	病院規模と施設基準により、最低限必要となる職種の人員数が定まる。しかし、患者が獲得できていない場合においても、固定費として、人件費は継続して発生し続ける。
費用：減価償却費（設備投資）	- 病院の建設費や高額機器の購入費用は長期の返済費用が発生し、長期間の借入金の返済義務を負う。 - 建物に関しては、数十年後を見越した、返済計画が必要となる。 - 特に、病院の建て替え等の高額の設定備投資をするときは、数十年後の患者需要と地域事情について、地域の関係者と協議、調整を経て、正確に把握した後に、投資の意思決定する必要がある。

■ 情報照会先

株式会社 日本経営
リサーチ&インテリジェンス事業部
土居新宗
E-mail : Yoshimune.doi@nkgr.co.jp

〒561-8510
大阪府豊中市寺内2-13-3
TEL:06-6865-1373
FAX:06-6865-2502

- 本資料に提供されている内容は万全を期しておりますが、入手し得る資料及び情報に基づいて作成したものであり、その内容の正確性や安全性を保障するものではありません。
- 本資料を弊社に何の断りなく用い、貴社、貴法人が損害等を被った場合において、弊社は一切の責任を負いかねます。
- 本資料は弊社独自のものですので、取り扱いには十分注意していただけますようお願い申し上げます。